

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 28

平成23年度発掘調査報告 (第2分冊)

清涼寺跡
今小路西遺跡
西御門遺跡
今小路西遺跡
名越ヶ谷遺跡
田楽辻子周辺遺跡

平成24年3月

鎌倉市教育委員会



今小路西遺跡 I区2面全景



西御門遺跡出土の木組み溝

ご あ い さ つ

近年、鎌倉の街では古い家屋や店舗の建て替えが相次いでいます。その中で、埋蔵文化財に影響のある工事も多くなっています。このため、個人専用住宅等の建設に際しては、昭和59年度から国・県の補助を受けて鎌倉市教育委員会が調査主体となって発掘調査の実施にあたってまいりました。

先人の遺産である文化財を守ることは、現在に生きる我々の責務であり、市内のおよそ6割の地域が埋蔵文化財包蔵地となっている本市の場合、特に市民の皆様のご理解とご協力なくしては、埋蔵文化財の保存や発掘調査の実施が困難であることは言うまでもありません。

本書は平成16～19及び21年度に国・県の補助を受けて鎌倉市教育委員会が実施した個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査の記録として12ヶ所の調査成果を掲載しています。

調査の実施にあたり埋蔵文化財に対する深い御理解をいただくとともに、調査の期間中、物心両面にわたり多大なご協力をいただきました事業者・工事関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

平成24年3月30日
鎌倉市教育委員会

例 言

- 1 本書は平成23年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書である。
- 2 本書所収の調査地点は別図のとおりである。また掲載分冊については、第1分冊に掲載した表のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

総目次

(第2分冊)

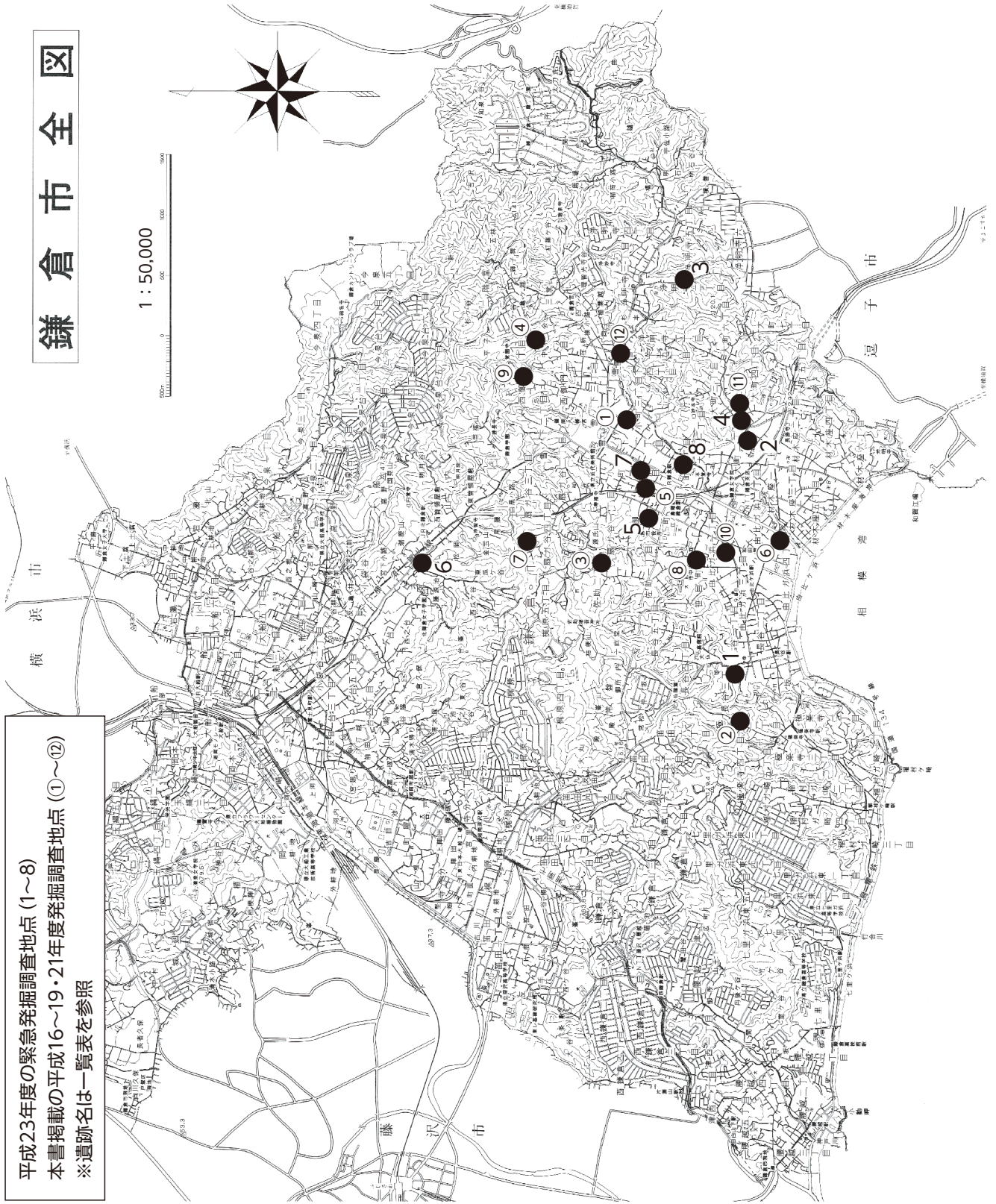
例言	II
目次	III
7 清涼寺跡 (No.183) 扇ガ谷四丁目556番4外地点	
第一章 調査の概要	5
第二章 発見した遺構と遺物	10
第三章 まとめ	49
8 今小路西遺跡 (No.201) 由比ガ浜一丁目157番7外地点	
第一章 調査地点概観	90
第二章 調査の概要	102
第三章 調査結果	104
第四章 まとめと考察	148
9 西御門遺跡 (No.325) 西御門一丁目55番5地点	
第一章 本調査地点の位置と歴史的環境	181
第二章 調査の概要	184
第三章 検出遺構と出土遺物	188
第四章 まとめ	209
10 今小路西遺跡 (No.201) 由比ガ浜一丁目213番12地点	
第一章 調査の概観	232
第二章 検出された遺構と遺物	237
第三章 まとめ	250
11 名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町四丁目1888番の一部地点	
第一章 遺跡の位置と環境	265
第二章 調査の概要	271
第三章 検出遺構と出土遺物	276
第四章 まとめ	301

12 田楽辻子周辺遺跡 (No.33) 浄明寺一丁目556番6外地点

第一章	遺跡の位置と歴史的環境	328
第二章	調査の方法と経過	339
第三章	基本土層	340
第四章	発見された遺構と遺物	341
第五章	調査成果のまとめ	349

鎌倉市全図

平成23年度の緊急発掘調査地点(1~8)
本書掲載の平成16~19・21年度発掘調査地点(①~⑫)
※遺跡名は一覧表を参照



清涼寺跡 (No. 183)

扇ヶ谷 4-556-4 外

例 言

1. 本報は「清涼寺跡(神奈川県遺跡台帳 No.183)」内、扇ヶ谷4-556-4外地点における個人住宅建設に伴う緊急調査報告である。
2. 調査期間 第Ⅰ区調査・・・平成17年(2005年)7月20日～9月15日
第Ⅱ区調査・・・平成17年10月13日～10月24日
3. 調査面積 第Ⅰ区・・・約35㎡
第Ⅱ区・・・約30㎡
4. 調査体制
担当 伊丹まどか
調査員 石元道子・宇都洋平・菊川泉・鈴木絵美・松葉崇
調査補助員 北泉剛史・古田土俊一・白石哲也・早川智・本城裕
作業員 浅香文保・奥山利平・清水光一・中須洋二
秋田公佑・牛嶋道夫・片山直文・川崎由紀夫・倉澤六郎・杉浦永章
田島道夫・宝珠山秀雄・渡辺輝彦
資料整理 岩崎卓司・梅岡溪音・根本志保・松原康子・吉田桂子・渡辺美佐子
5. 本報作成分担
遺物実測 ・トレース 伊丹・岩崎・梅岡・根本・松原・吉田・渡辺
観察表 伊丹
遺構写真 伊丹・松葉
遺物写真 須佐仁和
6. 本報の執筆は伊丹が行った。
7. 挿図は全測図1/40・遺物実測図1/3・銭は1/1の縮尺で掲載している。
「かわらけ」と表記している場合は「轆轤成形」の土器であり、「手づくね成形」の土器は「手づくね」と表記した。
遺物に付着した油煤痕は黒色で表し、漆付着痕はスクリーントーンで表している。
出土遺物の法量は法量表に記載しているが、()内は復元数値および遺存値である。
遺構に付したナンバーはプラン確認時点で付してあり、遺構の新旧を表すものではない。
石製品の産地同定は汐見一夫氏にご教授いただいた。
8. 出土品等の発掘にかかわる資料は、鎌倉市教育員会が保管している。
9. 現地調査及び資料作成に際しては、次ぎの諸氏・各機関から貴重なご教示、ご協力を賜った。
(順不同・敬称略)
大三輪龍彦・宗臺秀明・斉木秀雄・馬淵和雄・浜野弘美・瀬田哲夫・宮田眞・森孝子・福田誠
滝沢晶子・汐見一夫・社団法人鎌倉市シルバー人材センター・鎌倉遺跡調査会
10. 参考、引用に使用した文献名は、第3章の文末にまとめて記載した。

目次

本文目次

第一章 調査の概要	5
第1節 調査地周辺の位置と歴史的環境	
第2節 グリッド配置図と土層堆積	
第二章 発見した遺構と遺物	10
第1節 遺構と遺物	
1. 第5面の遺構と遺物	
2. 第4面の遺構と遺物	
3. 第3面の遺構と遺物	
4. 第2面の遺構と遺物	
5. 第1面の遺構と遺物	
第三章 まとめ	49
法量表	

挿図目次

図1 調査地点・周辺遺跡図	6	図22 遺構8 b 正面図・エレベーション図	28
図2 調査区の位置とグリッド配置	7	図23 遺構8 b 出土遺物(1)	30
図3 調査区堆積土層図	8	図24 遺構8 b 出土遺物(2)	31
図4 第5面全測図	10	図25 遺構8 b 裏込め出土遺物(1)	32
図5 遺構1 3 正面図・エレベーション図	11	図26 遺構8 b 裏込め出土遺物(2)	33
図6 遺構1 3 上層出土遺物(1)	12	図27 第3面構成土出土遺物(1)	34
図7 遺構1 3 上層出土遺物(2)	13	図28 第3面構成土出土遺物(2)	35
図8 遺構1 3 下層出土遺物(1)	14	図29 第2面全測図	37
図9 遺構1 3 下層出土遺物(2)	15	図30 遺構8 a 正面図	37
図10 遺構13 裏込め出土遺物	16	図31 遺構8 a・8 b 一括出土遺物(1)	38
図11 第5面構成土出土遺物(1)	17	図32 遺構8 a・8 b 一括出土遺物(2)	39
図12 第5面構成土出土遺物(2)	18	図33 遺構8 a・8 b 一括出土遺物(3)	40
図13 第4面全測図	19	図34 遺構8 a・8 b 一括出土遺物(4)	41
図14 遺構11 正面図・エレベーション図	20	図35 遺構8 a 裏込め出土遺物	42
図15 遺構11 出土遺物	20	図36 第2面構成土出土遺物	43
図16 第4面構成土出土遺物(1)	21	図37 第1面全測図	43
図17 第4面構成土出土遺物(2)	22	図38 第1面面上出土遺物	44
図18 第3面全測図	24	図39 第1面構成土出土遺物	45
図19 遺構7 正面図・エレベーション図		図40 II区・第1面全測図	46
遺構7 出土遺物(1)	25	図41 表土～第1面出土遺物(1)	47
図20 遺構7 出土遺物(2)	26	図42 表土～第1面出土遺物(2)	48
図21 遺構7 裏込め出土遺物	27		

図 版 目 次

<p>図版1 68 遺構10・第1面全景・第2面全景</p> <p>図版2 69 遺構7・遺構8a・遺構8b</p> <p>図版3 70 遺構8a・遺構8b</p> <p>図版4 71 第3面全景・第4面全景・第5面全景</p> <p>図版5 72 調査区南壁・北壁堆積状況・Ⅱ区第1面全景</p> <p>図版6 73 出土遺物(1) 遺構1 3上層出土遺物</p> <p>図版7 74 出土遺物(2) 遺構1 3下層出土遺物・遺構1 3裏込め出土遺物・第5面構成土出土遺物</p> <p>図版8 75 出土遺物(3) 第5面構成土出土遺物・遺構1 1出土遺物・第4面構成土出土遺物</p> <p>図版9 76 出土遺物(4) 第4面構成土出土遺物・遺構7出土遺物</p>	<p>図版10 77 出土遺物(5) 遺構7出土遺物</p> <p>図版11 78 出土遺物(6) 遺構7出土遺物・遺構8 b出土遺物</p> <p>図版12 79 出土遺物(7) 遺構8 b出土遺物・遺構8 b裏込め出土遺物</p> <p>図版13 80 出土遺物(8) 遺構8 b裏込め出土遺物・第3面構成土出土遺物・遺構8 a・8 b一括出土遺物</p> <p>図版14 81 出土遺物(9) 遺構8 a・8 b一括出土遺物</p> <p>図版15 82 出土遺物(10) 遺構8 a裏込め出土遺物・第1面面上出土遺物・表土～第1面出土遺物</p> <p>図版16 83 出土遺物(11) 表土～1面出土遺物</p>
--	---

第一章 調査の概要

第1節 調査地周辺の位置と歴史的環境(図1)

調査地点は鎌倉市中心域の北西、源氏山の北、扇ヶ谷という谷戸に位置する。扇ヶ谷という地名は鎌倉末期ごろから呼称されるようになったと思われ、本来は支谷の藤ヶ谷の開口部から英勝寺の裏門辺りを指した地名らしく、関東管領上杉定正が亀ヶ谷に居を構え扇ヶ谷殿と称してからと伝わる。

中世以前には「亀ヶ谷(かめがへ)(かめがいのやつ)(かめがや)」と呼ばれていたが、現在では扇ヶ谷開口部に位置する寿福寺の山号「亀谷山」と、扇ヶ谷を抜ける切り通しの一つ「亀谷坂切り通し」にその名をとどめる。

扇ヶ谷とは、泉谷・藤ヶ谷・勝因寺(勝遠寺)谷・会下ヶ谷・梅ヶ谷・山王堂谷・智岸寺谷・法泉寺谷・御前谷・清水谷・清涼寺ヶ谷などの支谷を包含した総称である。この支谷の名は現在では廃寺となった多くの仏閣が谷戸名として残っている例が多く、廃寺には多宝寺・智岸寺・東林寺・新清涼寺・新清水寺・新阿弥陀堂・新福寺・法泉寺・松岩寺・勝因寺・浄光寺・興禅寺・正円寺・山王堂・無量寺・権現堂・靈巖寺・刃稻荷などがある。

『吾妻鏡』の記事に、建長三年(1251)十二月三日に、小町屋の設置を七ヶ所に限る命が出され、そのうち亀ヶ谷辻・气和飛坂山上が決定され、文永二年(1265)三月五日には鎌倉中の町御免の所として九ヶ所を指定し、その中に武蔵大路下の名がみえる。この武蔵大路が何処かには各説あるが、鶴岡八幡宮赤橋から西に向かって寿福寺前から、扇ヶ谷内を支谷の梅ヶ谷に向かって抜け仮粧坂山上に至る道と推定する説もあり、扇ヶ谷の谷戸内が繁華な商業地域であったことが想像できる。また武蔵大路と推定する道路は、丘陵を超えて鎌倉中から武蔵方面に抜ける亀ヶ谷坂・仮粧坂の二つの切通しに繋がり、鎌倉の内と外を結ぶ主要な通路であるとともに、防衛上も重要な機能を持った道路であったと思われる。

調査地の位置する谷戸名(遺跡名)の由来になっている「新清涼寺」あるいは「新清涼寺釈迦堂」「亀ヶ谷釈迦堂」「亀ヶ谷清涼寺」という寺院の詳細は不明なことが多く、『廃寺事典』で「新清涼寺」をみると宗旨未詳。所在地も扇ヶ谷と、鎌倉市街地の南東に位置する大町・名越竹鼻の二ヶ所がでており、正確な所在地も不明である。また、『新編鎌倉誌』巻之四「清涼寺谷」の項には「清涼寺谷は、法泉寺の北、海蔵寺外門の東なり。清涼寺は忍性の開基なり。今は絶たり」とある。『元享釈書』巻十三忍性伝には「弘長の始相陽に入りて清涼寺に止まる」とあり、弘長元年(1261)に忍性が鎌倉に下向して初めて拠点とした寺院であるとしているが、『関東往還記』の記事に、弘長二年(1262)叡尊が金沢実時の招きで関東に下向した際に、実時から金沢称名寺(横浜市)を寄進しようとの申し出を、資縁のあるところには住まないと断って、鎌倉中の無縁寺である新清涼寺釈迦堂を叡尊の住まいとしたとあり、「新清涼寺釈迦堂は、中古にある上人が関東の衆生を度せんがため建立した堂舎で、京都嵯峨清涼寺釈迦堂の釈迦像を摸刻して安置したため、新清涼寺と号した」といい、叡尊が建立した寺院とも考えられる。また、「西大寺光明真言結縁過去帳」に「覚如房 釈迦堂」と記され、叡尊の弟子である「成願房覚如」と思われる人物が「新清涼寺釈迦堂長老」として記載される。

不明の点多く、創建年次のみならず廃絶年や開山・開基も不明の寺院であるが、どちらにしても西大寺流真言律宗の布教の拠点となった寺院であったことは間違いがないと思われる。

京都嵯峨清涼寺釈迦堂の本尊を摸刻したという本尊は、現在の鎌倉極楽寺本尊、あるいは東京都大円寺に現存する清涼寺式釈迦如来像とする説がある。

叡尊を中心とする真言律宗は、清涼寺式釈迦如来像を釈迦の根本像とみなし、京都府西大寺の金堂像を造立し、戒律復興の象徴として各地に清涼寺式釈迦如来像を造立していった。現存する清涼寺式釈迦如来



- | | | |
|--------------|---------------|--------------|
| 1・本調査地 | 瓜谷四丁目556番地 | 1・本調査地 |
| 2・法泉寺跡 | 瓜谷四丁目518番12 | 2・法泉寺跡 |
| 3・法泉寺跡 | 瓜谷四丁目518番8 | 3・法泉寺跡 |
| 4・海蔵寺巴里内遺跡 | 瓜谷四丁目632番2外地点 | 4・海蔵寺巴里内遺跡 |
| 5・柳谷山王堂 | 瓜谷四丁目832番5地点 | 5・柳谷山王堂 |
| 6・柳岸寺跡 | 瓜谷四丁目380番1外 | 6・柳岸寺跡 |
| 7・武蔵大路南辺 | 瓜谷二丁目382番1 | 7・武蔵大路南辺 |
| 8・武蔵大路南辺 | 瓜谷三丁目397番 | 8・武蔵大路南辺 |
| 9・多宝寺跡 | 瓜谷二丁目266番3 | 9・多宝寺跡 |
| 10・多宝寺跡 | 瓜谷二丁目250番6外 | 10・多宝寺跡 |
| 11・武蔵大路南辺 | 瓜谷二丁目250番1・4 | 11・武蔵大路南辺 |
| 12・武蔵大路南辺 | 瓜谷二丁目298番4 | 12・武蔵大路南辺 |
| 13・浄光明寺や<S>群 | 瓜谷三丁目407番2他6棟 | 13・浄光明寺や<S>群 |
| 14・多宝寺跡 | 瓜谷二丁目12番1 | 14・多宝寺跡 |
| 15・上杉正臣跡 | 瓜谷二丁目238番2 | 15・上杉正臣跡 |

図1 調査地点・周辺遺跡図

像は、宮城県竜宝寺、茨城県福泉寺、東京都大円寺、神奈川県称名寺・極楽寺・真福寺、滋賀県西明寺・莊嚴寺・延暦寺、京都府清涼寺・西明寺・平等寺・常楽院・三室戸寺、奈良県西大寺・大善寺・唐招提寺・京都国立博物館蔵、愛媛県宝蔵寺、山口県二尊院があり、その所在は西大寺流真言律宗布教の足跡と読み取れる。

鎌倉時代後期の真言律宗は慈善救済を布教の一環とし、鎌倉桑ヶ谷に癩病療病院、坂の下に馬病舎を立て、仏師・鋳物師・石工を連れ道路、河川、港湾の管理、地溝開発を行った。

「類焼阿弥陀縁起絵巻(光触寺蔵)」に類焼阿弥陀像の修理を行う際に、亀ヶ谷在住の仏師を呼んだことが記されており、現代でも多くの仏師が扇ヶ谷に住いを構えている。

第2節 グリッド配置図と土層堆積(図2・図3)

調査地の位置と調査区内の遺構を国土座標軸にもとづいた地図上で把握するために光波測量機によるトラス測量を行った。調査区内の基準杭の観測成果、周囲の4級基準点の成果、真北との関係は図2に示した。基準杭は任意で設定し、測量時に国土座標値を振り込んでいる。調査にあたりグリッドは任意で設定し、後日基準杭に国土座標を振り込んでいる。基準としたA点・B点の間は水平方向で1.3mを測る。

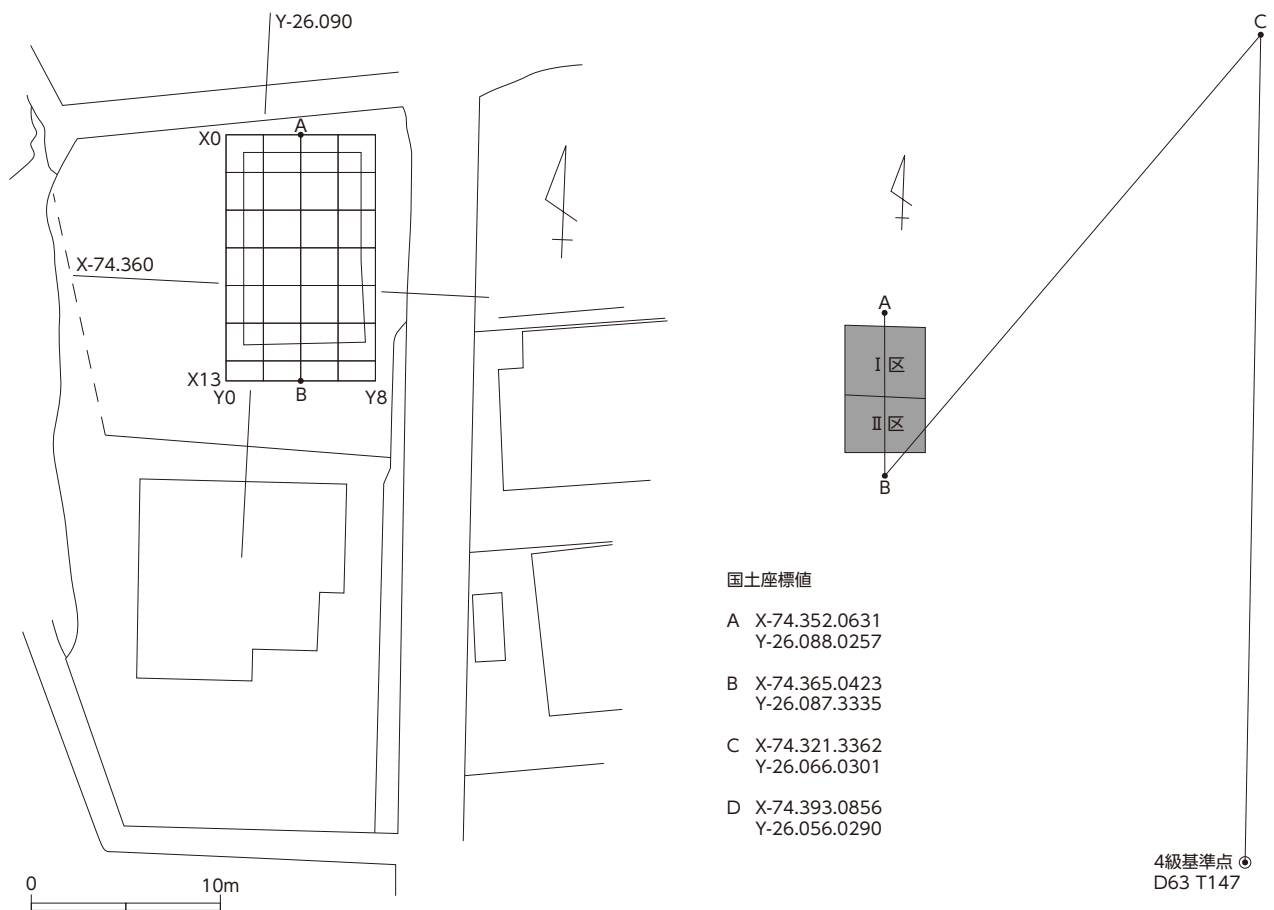


図2 調査区の位置とグリッド配置

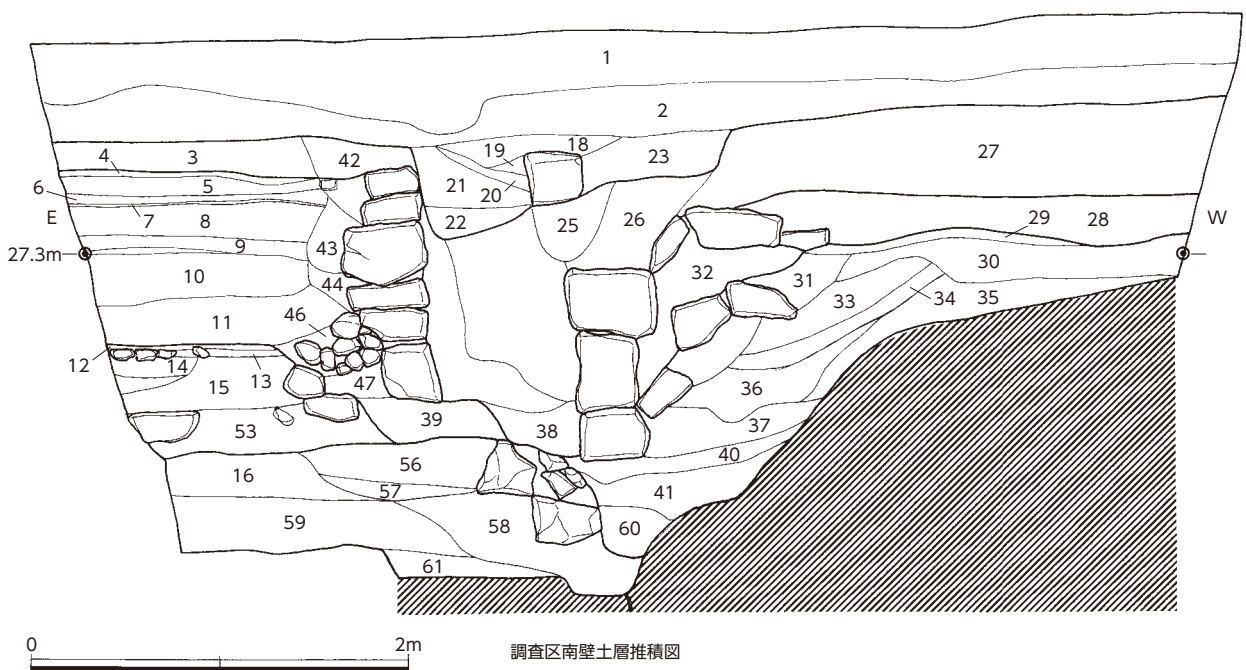
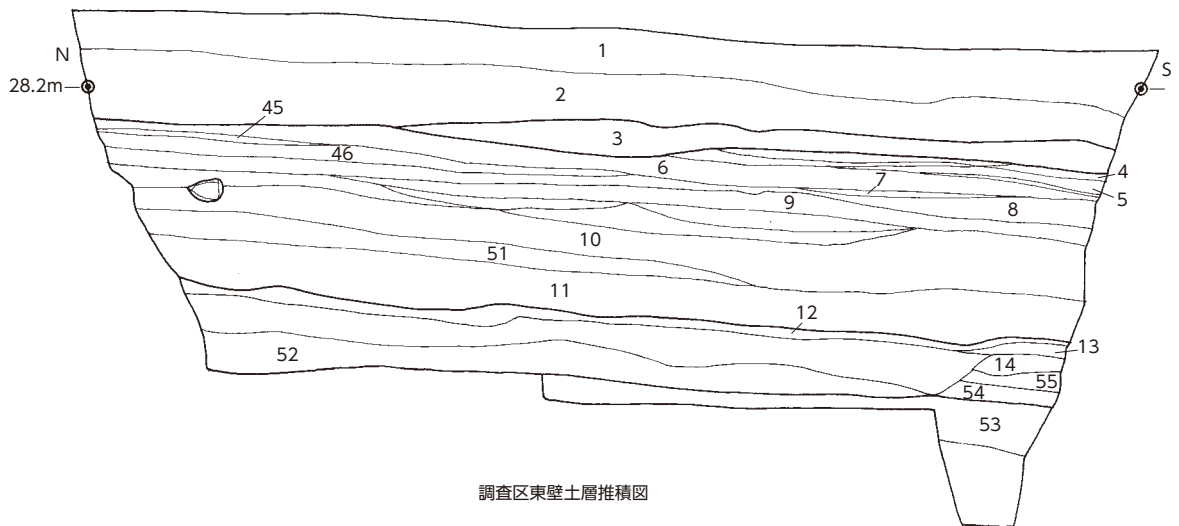
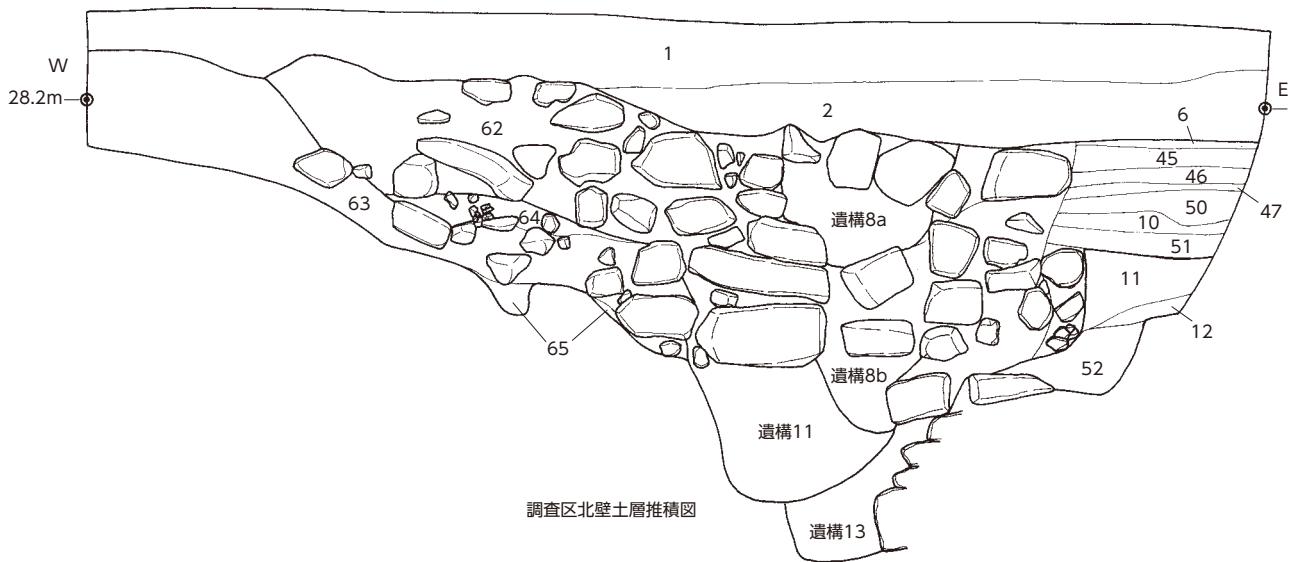


図3 調査区堆積土層図

土層注記

1	茶褐色砂質土	(表土)	37	暗褐色弱粘質土	泥岩・炭化物
2	茶褐色砂質土	泥岩粒・炭化物(微)・泥岩	38	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・褐色砂質土
3	茶褐色砂質土	泥岩粒 泥岩による地業(1面)	39	暗褐色弱粘質土	泥岩・炭化物・暗褐色砂質土
4	暗褐色弱粘質土		40	黒褐色有機質土	木片・炭化物・褐色砂質土・上層に泥岩が平坦に並べられる
5	灰褐色砂質土	泥岩粒 泥岩による地業(2面)	41	褐色砂質土	黒色有機質土・縮まりなし・炭化物
6	暗褐色砂質土	泥岩粒・泥岩	42	褐色粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物
7	暗褐色弱粘質土	砂質土混入	43	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
8	黄褐色砂質土	堅く締まった土	44	褐色粘質土	泥岩粒・泥岩・褐色砂質土
9	暗褐色砂質土	泥岩粒・泥岩・砂質土	45	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒
10	暗褐色弱粘質土	大型泥岩・炭化物	46	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・堅く締まる
11	暗褐色砂質土	泥岩粒・泥岩・炭化物・暗褐色弱粘質土	47	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・褐色砂質土・堅く締まる
12	暗褐色弱粘質土	炭化物層	48	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色砂質土
13	暗褐色弱粘質土	泥岩	49	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒
14	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物	50	暗茶褐色弱粘質土	
15	茶褐色砂質土	泥岩粒・泥岩・褐色砂質土・粗砂	51	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物・堅く締まる
16	黒褐色有機質土	木片・炭化物・褐色砂質土・上層に泥岩が平坦に並べられる	52	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物
17	茶色有機質土		53	褐色砂質土	上層に第4面道路石敷き・褐色粘質土・有機質土含む
18	茶褐色砂質土	泥岩粒・堅く締まる	54	灰褐色砂質土	硬化面
19	茶褐色弱粘質土	泥岩粒	55	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物
20	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物	56	灰褐色砂質土	泥岩・有機質土・暗褐色弱粘質土・堅く締まる
21	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物	57	茶褐色有機質土	泥岩粒・褐色砂質土
22	茶褐色弱粘質土	泥岩・炭化物	58	茶褐色有機質土	木片・暗褐色粘質土・褐色砂質土
23	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・褐色砂質土	59	茶褐色砂質土	泥岩粒・泥岩・暗褐色弱粘質土・堅く締まる
24	茶褐色砂質土	泥岩	60	灰褐色砂質土	泥岩粒・泥岩・黒色有機質土・木片
25	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・茶褐色砂質土	61	暗茶褐色弱粘質土	黒色有機質土・木片・褐色砂質土
26	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土	62	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物
27	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・褐色砂質土	63	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物
28	褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩	64	暗茶褐色弱粘質土	炭化物層・泥岩粒
29	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物層	65	暗茶褐色弱粘質土	炭化物層・茶褐色砂質土
30	褐色弱粘質土	泥岩粒・褐色砂質土・炭化物・堅く締まる			
31	褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・褐色砂質土			
32	暗褐色弱粘質土				
33	褐色弱粘質土	泥岩・褐色砂質土			
34	褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・			
35	褐色弱粘質土	泥岩・炭化物			
36	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物			

第二章 発見した遺構と遺物

本調査では現地表から約50cm下まで重機による表土掘削を行い、その後人力によって遺構面を検出した。調査区は東西約7m、南北約1.1mの長方形を呈する。調査によって生じる廃土の置き場を確保するために調査対象面積をⅠ区・Ⅱ区に分けて実施した。先行して調査したⅠ区では調査区中央で南北に延びる石組みの溝・道路を発見し、4期わたって造り替えが行われていたことを確認し検出した。土坑・ピットを数穴発見しているが、狭小な面積内での確認のため建物などを推定することは難しかった。Ⅰ区終了後に調査したⅡ区は、建築設計変更に伴いⅠ区で発見した最上層の溝石組みが調査地の南に向かって延びていることを確認し調査終了した。

発見した遺構は下層から上層の順に報告している。調査地現地表レベルは約28.40m。

第1節 遺構と遺物

1. 第5面の遺構と遺物 (図4～図12)

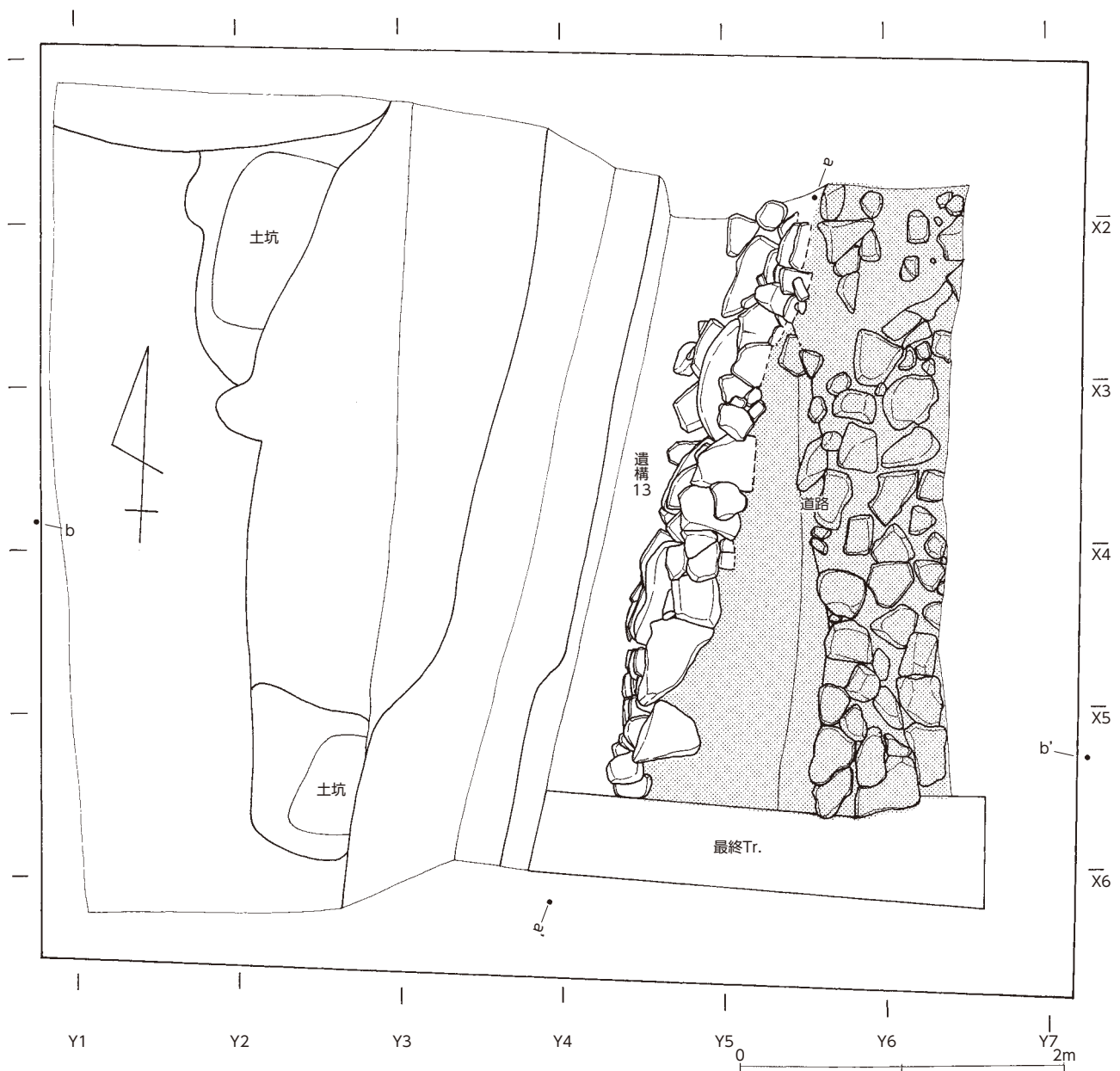


図4 第5面全測図

第5面で発見した遺構は土坑2基・溝1条・泥岩による版築道路。第5面構成土は茶褐色砂質土。有機質土・泥岩・泥岩粒・木片を含む。地表レベルは東側で海拔26,20m。西側で27,20m。

後述する調査区内を南北に走る溝(遺構13)の東側は上層の遺構に壊され失った箇所も多いが、不整形な泥岩と破碎泥岩を敷石のように平坦に並べた石敷きの道路である。道路遺構の南北、東側は調査区外に延びてしまっているために幅や長さなどの規模は不明である。敷石の下層には木製品を多く含む締まりのない茶褐色の砂質土が堆積しており、脆弱な地業を固めるために泥岩を敷いたのかもしれないが、丁寧な造形である。第5面構成土出土遺物として掲載した遺物はこの道路下層の遺物が大半である。

調査区西側で発見した土坑2基は個別に図示はしていないが、いずれも岩盤を掘り込んでおり深さ約40cm。出土遺物はない。

・遺構13(図4・5)

南北に延びる溝である。溝幅40~60cm。深さ約60cm。遺構の南北は調査区外に延びているために長さは不明。溝の東側溝壁は不整形な泥岩を野面積みして造成し、前述した敷石状に成形した泥岩を敷いた道路を同時に形成している。溝西側は岩盤を壇上に削りだした様子を確認したが、後述する溝に壊された石積みがあったかもしれない。上段に掘りこまれた土坑から見て、何らかの施設が西側壇上にあったと推察される。裏込めは、西側・東側ともに茶褐色弱粘質土・破碎泥岩・泥岩を含み、炭化物を多く含んだ堆積層であった。

出土遺物は上層と下層に分けた。溝覆土の上層は暗茶褐色弱粘質土。黒色有機質土を多く含む。下層は青灰色砂質土。黒色有機質土と砂礫を多く含んでいた。

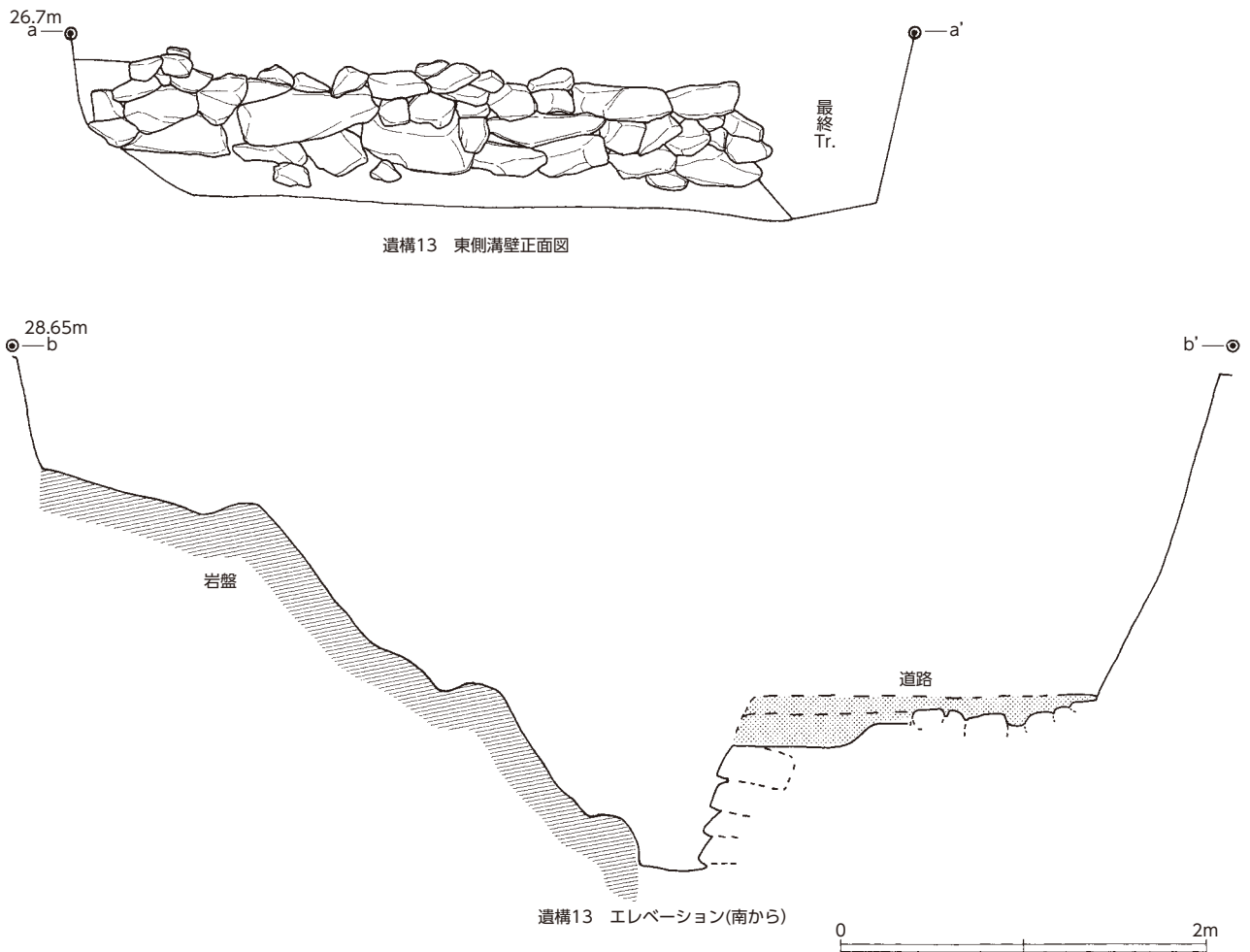


図5 遺構13正面図・エレベーション図

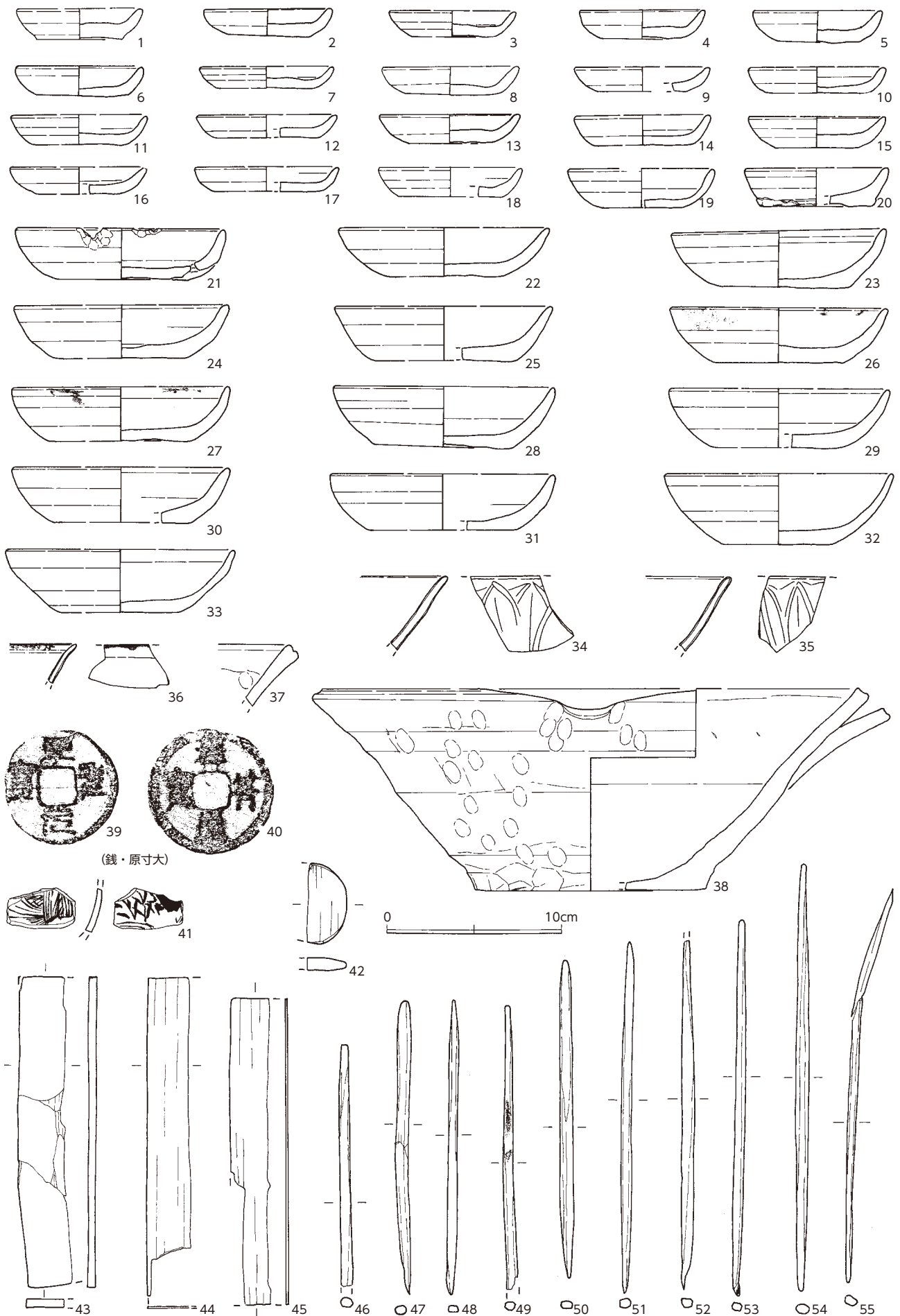


図6 遺構13上層出土遺物(1)

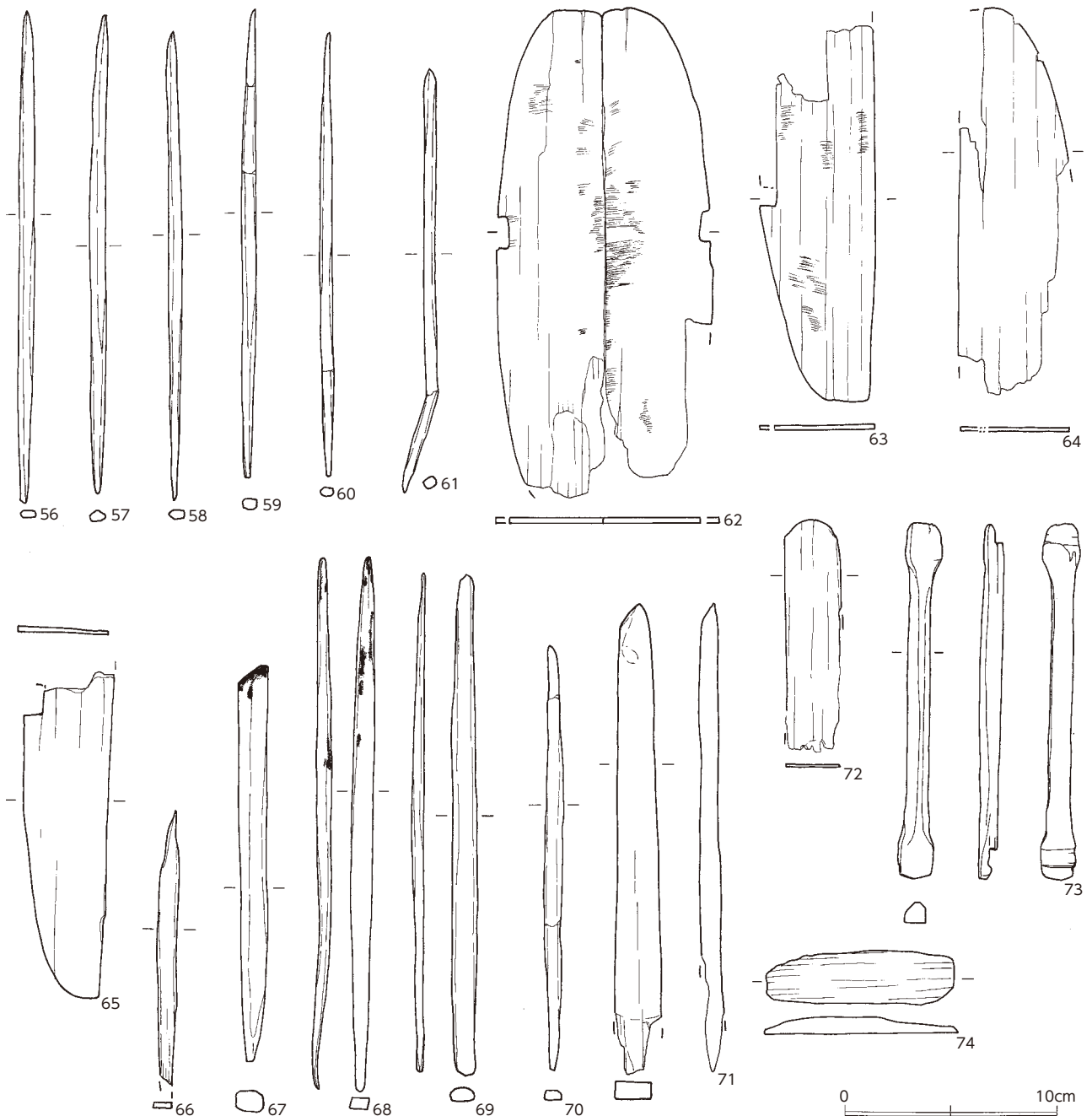


図7 遺構13上層出土遺物(2)

・遺構13上層出土遺物(図6・7)

1～33はかわらけ。3・8は見込みのナデが強く内底が盛り上がる。21は口唇部2ヶ所を打ち掻き、見込み側面に小孔あり。22は内外面に薄く油煤痕。26・27は口唇部に油煤痕。32は精良な胎土で側壁薄手。33は精良な胎土で側壁薄手・外面にやや強く稜が入る。34・35は青磁蓮弁文碗。竜泉窯。34はオリーブグリーン。35は淡水色、火熱を受けたためか内外面に気泡。36は白磁口兀皿。口唇部に厚く油煤痕。37・38は常滑捏ね鉢。38は内面に摩耗痕。39は銭・天聖元寶。40は銭・祥符通寶。41は漆製品・黒色系漆髹漆の椀・内面に赤色漆で洲浜と葦の情景文・外面に洲浜と笹の情景文を手描き施文・破片のため全体的な文様不明。42は木製品・ミニチュアの曲げ物底板。43は漆製品・調度具部材・黒色系漆髹漆・箱の側板か？44～73は木製品。44・45は経木折敷。46～61は箸。49は一部炭化。62～65は板草履芯。62は先端部直線的に成形・側縁部直線的・切り込み部台形に切りこ

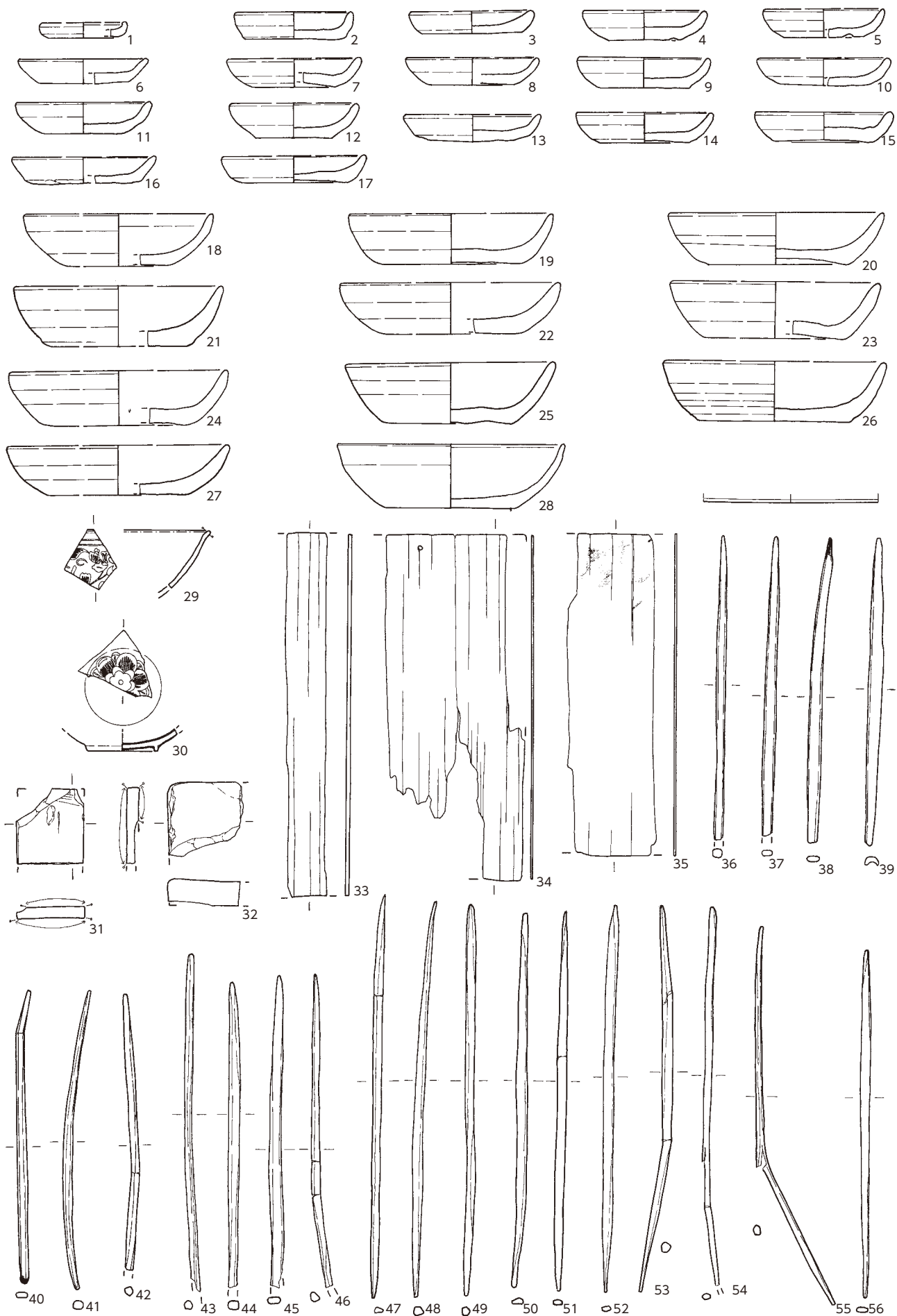


图8 遺構13下層出土遺物(1)

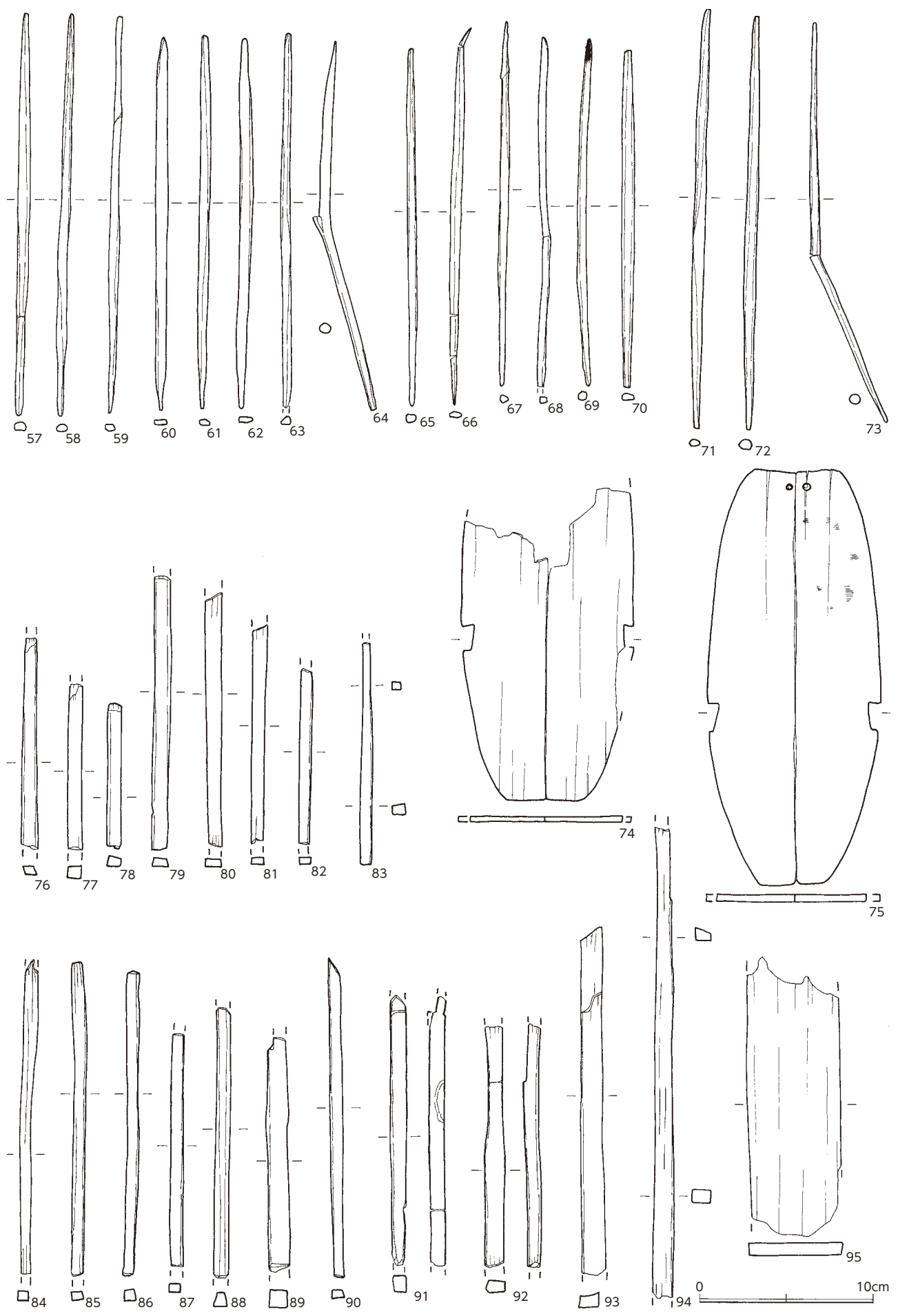


图9 遺構13下層出土遺物(2)

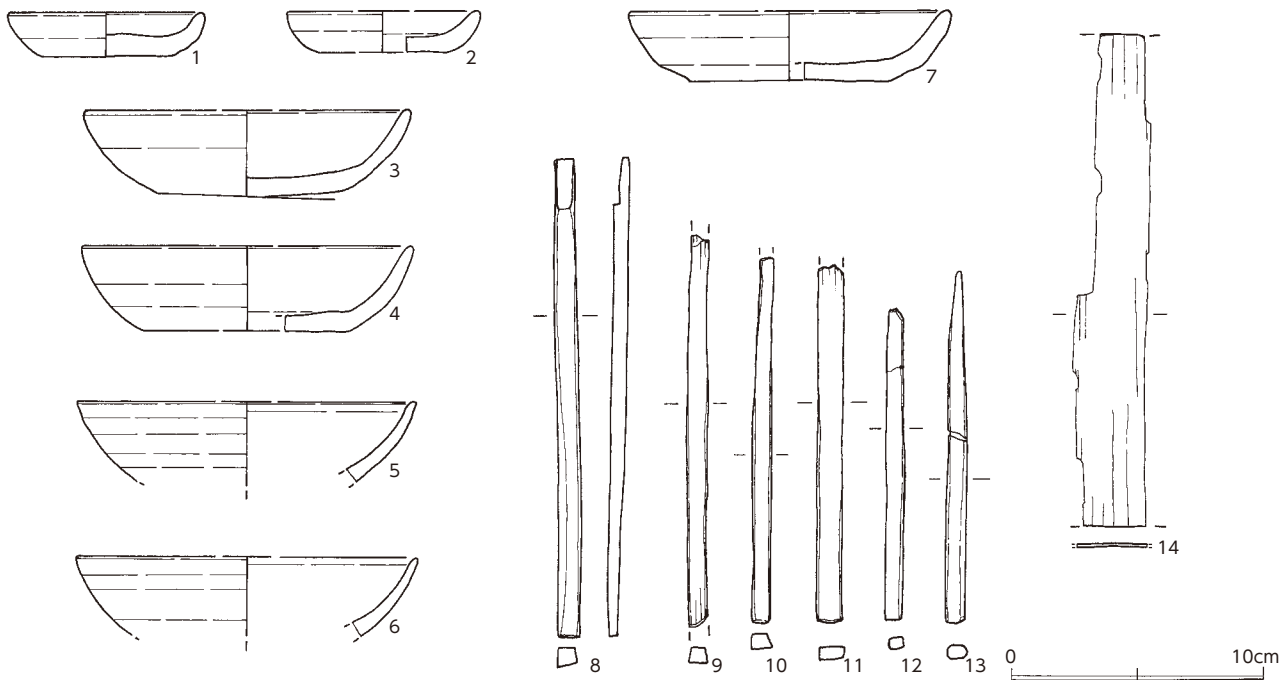


図10 遺構13裏込め出土遺物

む・藁痕。63は先端部直線的・側縁部、切りこみ部形状不明・藁痕が残る。64が側縁部曲線的。65は側縁部直線的。66～67は篋。67は先端に漆附着。68～70は串状木製品。68は片端部に焼痕。71・72は木製品・用途不明。73は織機・糸巻きの部品。74は用途不明・丁寧な整形・調度具部材か。

破片のため図示できなかつた遺物はかわらけ(大)843・かわらけ(小)89。

・遺構13下層出土遺物(図8・9)

1～28はかわらけ。1は内折れかわらけ・底部糸切り。5は外側面に強くナデが入る。21は外面のみが黒色に変色し、内底部にガラス状の物質附着。26は外側面に轆轤痕の稜が強く残る。29・30は白磁口兀碗・景德鎮・内面印花文。31は石製品・砥石・側面切り出し痕。32は滑石製品転用品・温石の破片か? 33～95は木製品。33は板折敷。34・35は経木折敷。36～73は箸。40・69は端部に焼痕。つけ木として使用か? 74・75は草履芯。74は端部・側縁部ともに直線的・切り込み部平行四辺形。75は端部直線的・側縁部曲線的・切り込み部平行四辺形。76～94は用途不明。製品として整形されているが手折って廃棄している。鎌倉市内遺跡ではこの形状の木製品遺物を多く発見し、ちゅう木ではないかと報告している例もある。95は建材破片。

破片のため図示できなかつた遺物はかわらけ(大)548・かわらけ(小)61・木片多数・桃の種1。

・遺構13裏込め出土遺物(図10)

1～7はかわらけ。1は内面に煤痕。5・6は精良な胎土。7は小石粒の入る粗い胎土。8～14は木製品。8～12は用途不明。8は仕継のような細工があり調度の部材か? 13は箸。14は経木折敷。裏込め出土は図示できる遺物は少量で、図示できなかつた破片はかわらけ(大)24・かわらけ(小)6・木片が多く出土しているが、意識的なものではなくごみとして埋められたものであったと考えている。

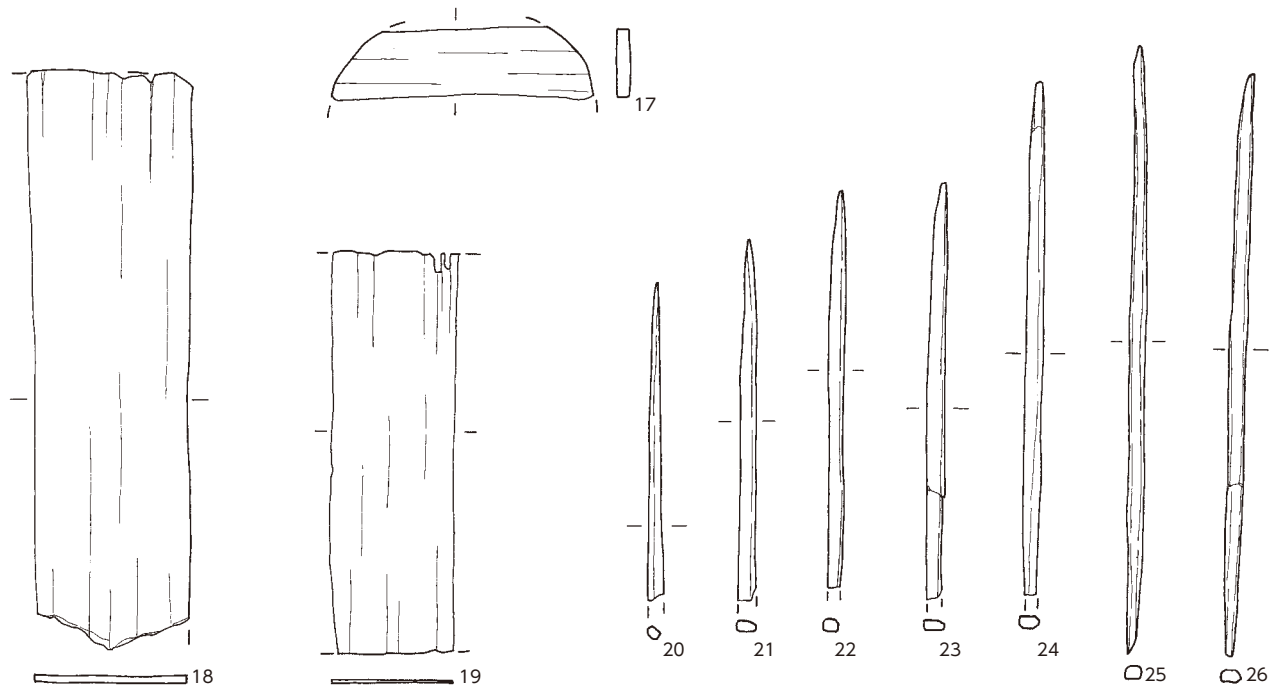
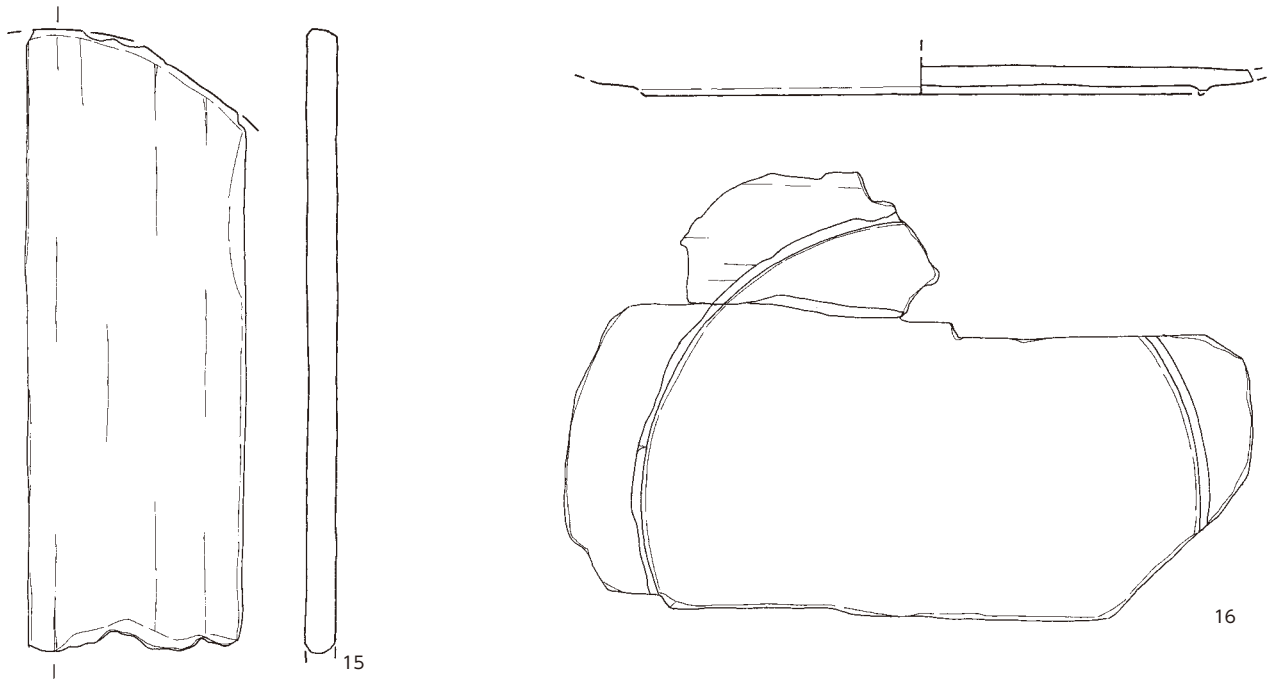
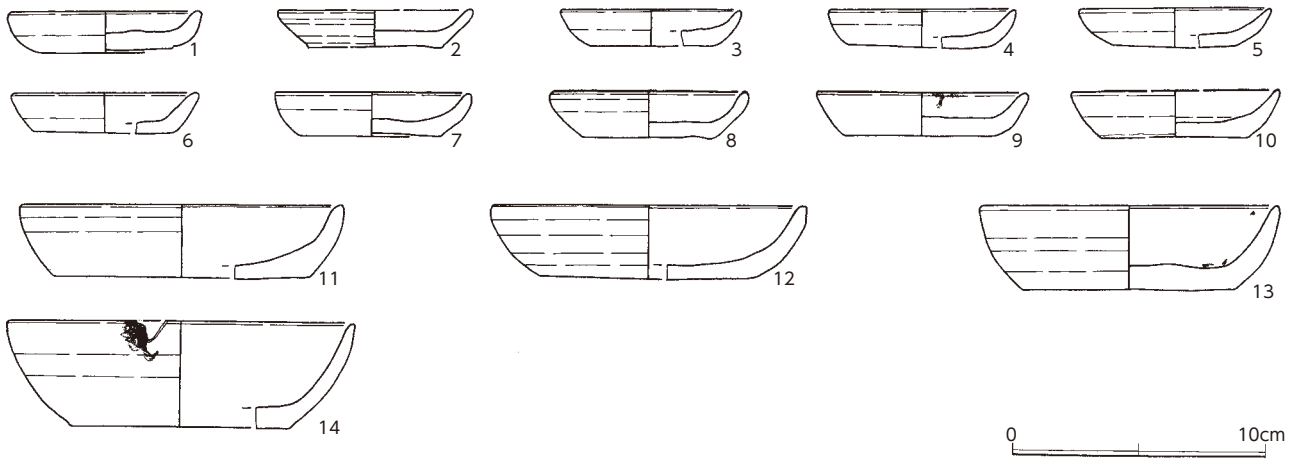


图11 第5面構成土出土遺物(1)

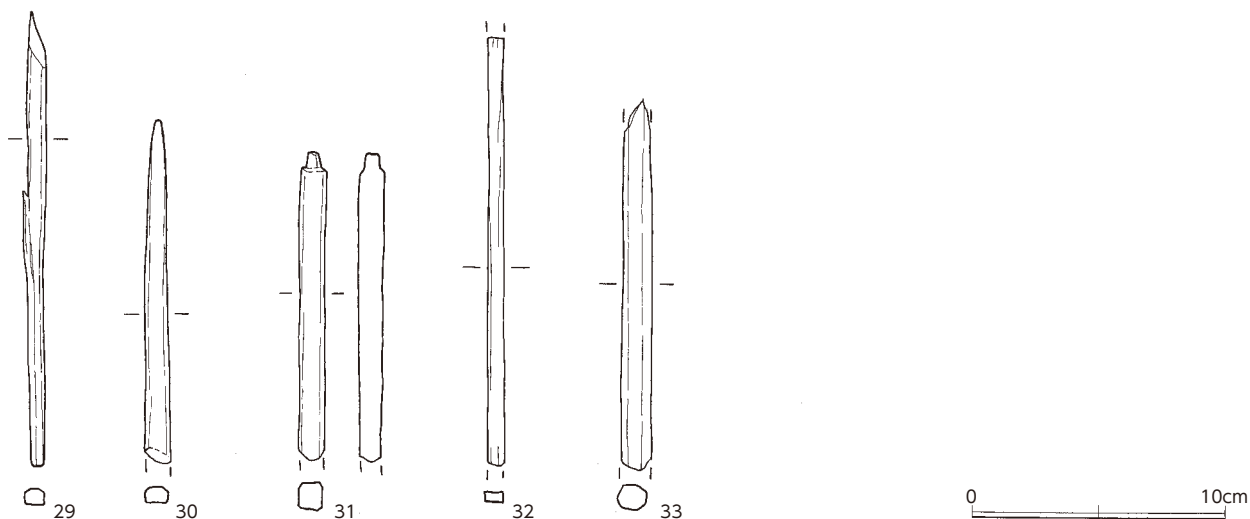
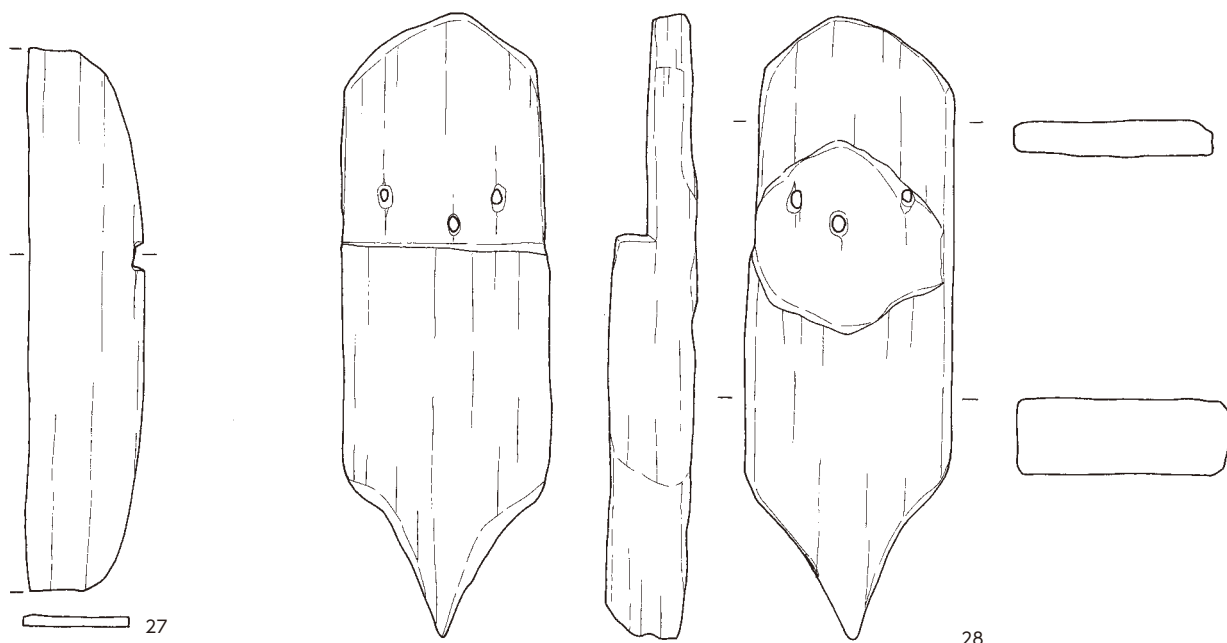


図12 第5面構成土出土遺物(2)

・第5面構成土出土遺物(図11・図12)

調査区の東側で確認した道路遺構覆土から発見した遺物である。

1～14はかわらけ。14は口唇部1部を打ち掻き、打ち掻いた部分に油煤痕。15～33は木製品。15は曲げ物底板。16は調度具。盆か？内底面に黒色系漆髹漆。17は曲げ物底板。18は板折敷。19は経木折敷。20～26は箸。27は板草履芯。端部直線的・側縁部曲線的・切り込み部台形。28は下駄の転用品と思われるが用途は不明。両端部を鋭角に削りだし。中央部に3ヶ所の小孔が開く。29は篋・先端を細く削ってある。30は串状製品。31～33は調度品の部材か？

そのほかに図示できなかった木片が多く出土している。

2. 第4面の遺構と遺物 (図13～図17)

第4面で発見した遺構は土坑2基・ピット4穴・溝1条・道路。第4面構成土は褐色弱粘質土。泥岩・破碎泥岩・炭化物を含む。調査区中央・南北に延びる溝(遺構11)の東側の堆積土上層には、炭化物を多く含み、意識的に1個体を細かく砕いたようにも思われるかわらけとかかわらけ細片が混じる。また、そ

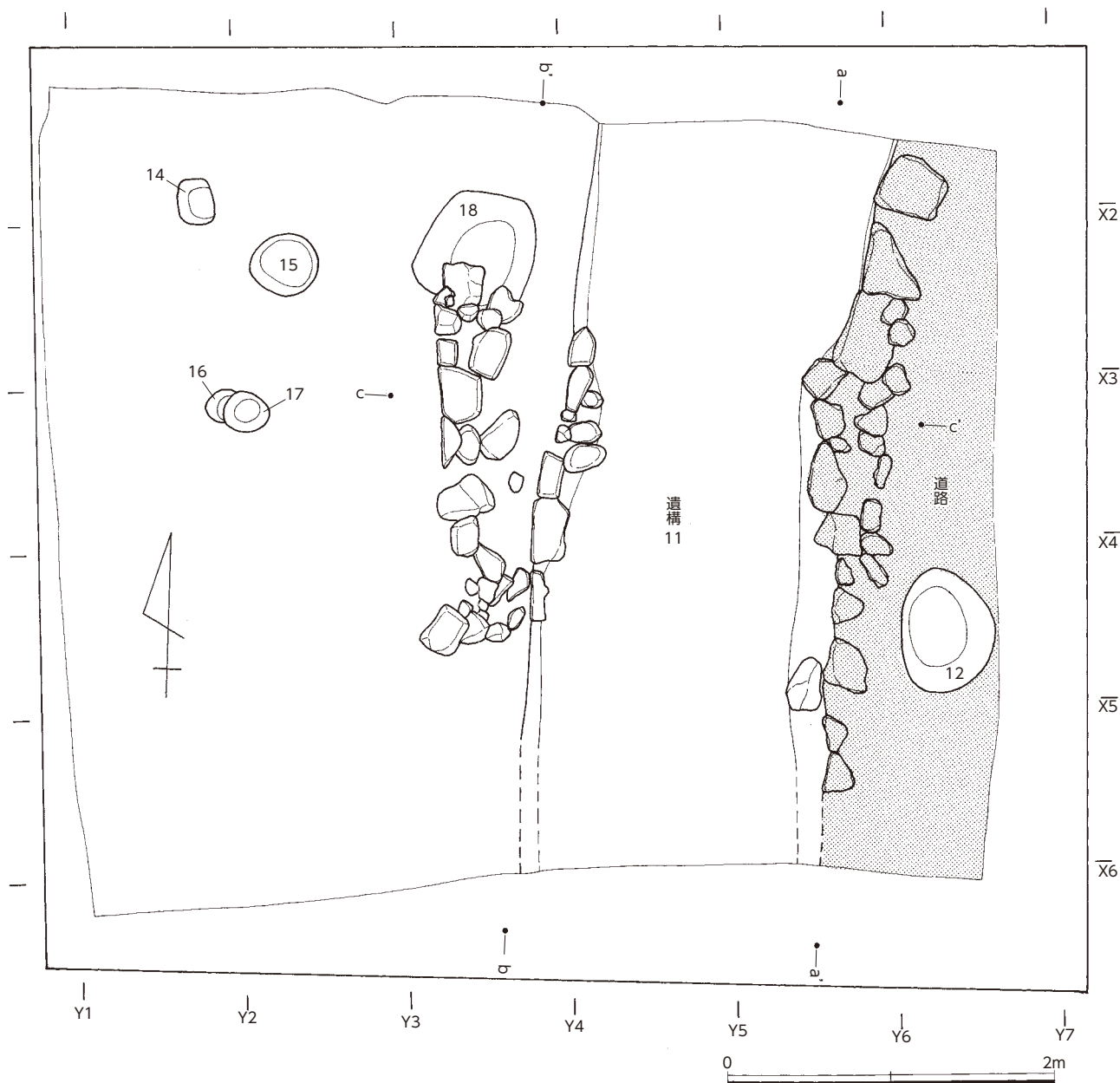


図13 第4面全測図

の下層には大きめの破碎泥岩を多く含む層が互層に堆積して、岩盤が露出しているのかと間違うほどに堅固な地業を検出した。第5面で発見した道路の造り替えと考えている。調査区外に遺構が延びてしまっていたために規模は不明になった。第3面同様に第4面構成土出土遺物とした遺物は、この道路地業からの出土がほとんどである。西側は砂質土を多く含む褐色弱粘質土で固く締まる。溝（遺構11）を挟んで調査区東西では地表レベルが異なり、東側で海拔26,80m・西側で海拔27,40m。道路であったと推定している東側からみると、高低差60cmで雛壇のように西側は高くなっている。

遺構11(図14)

南北に延びる溝である。溝幅約190cm・深さ約100cm。溝幅がやや広がっているが、東側の側壁が上層の遺構に壊されてしまったためではないかと考えている。溝の側壁は東西壁ともに不整形な砂質凝灰岩の割石による野面積みで作られるが、西側の石積み表面は東側に比べてやや丁寧な仕上げられていた。東側の溝壁は道路地業と同時に砂質凝灰岩の割石を積み上げたものと考えられ、土留めの役目も請け負っ

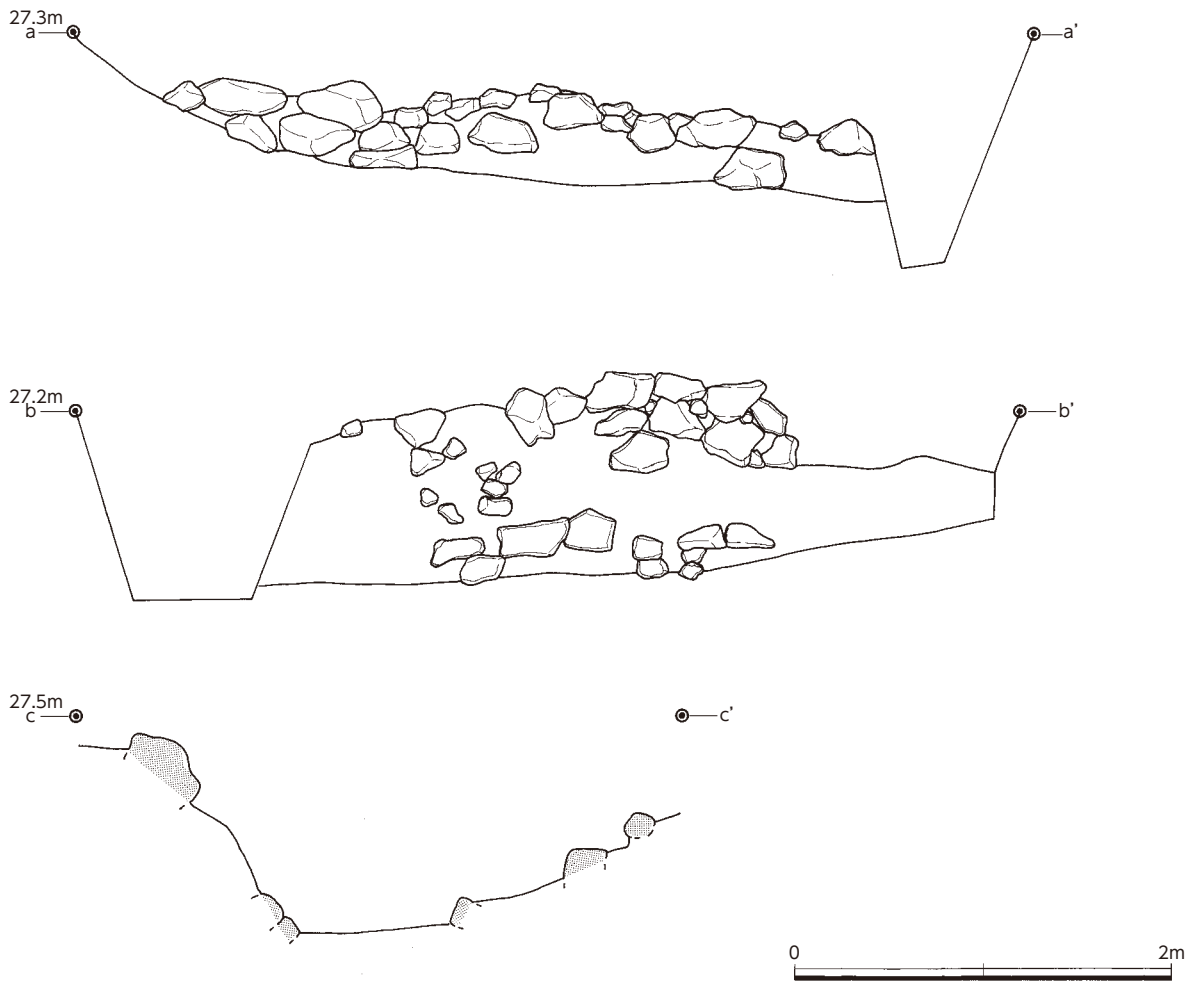


図14 遺構11正面図・エレベーション図

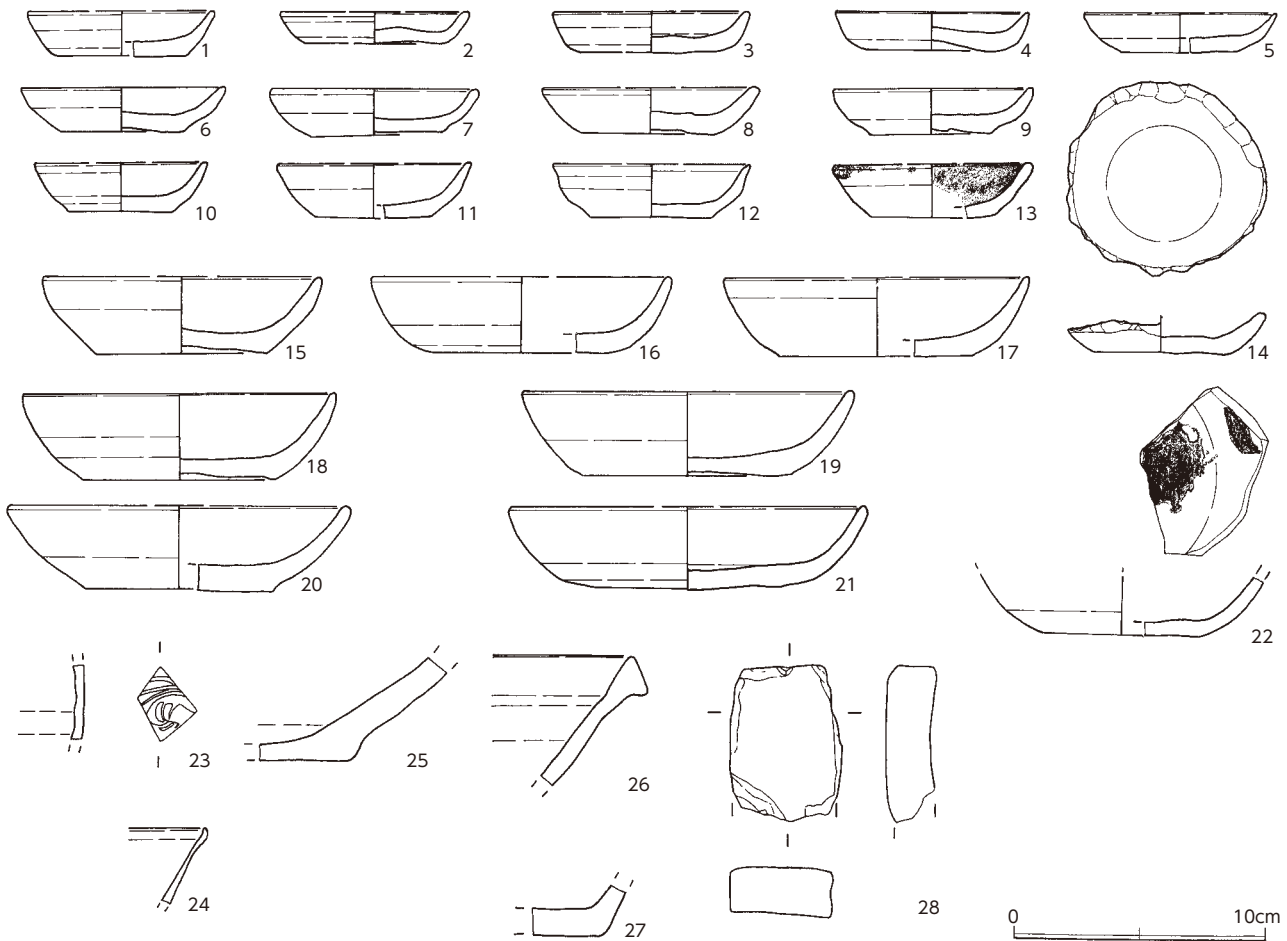


図15 遺構11出土遺物

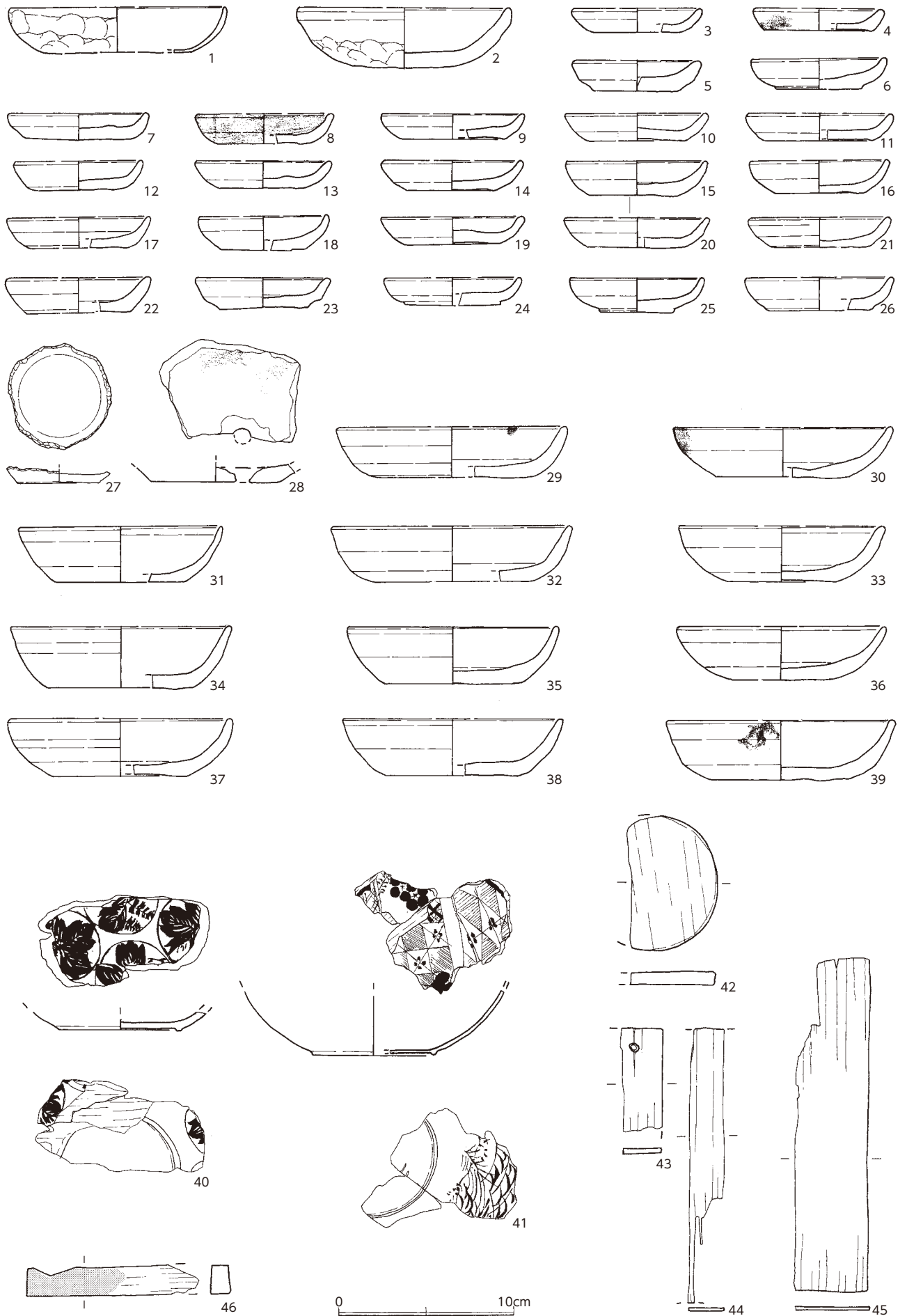


图16 第4面構成土出土遺物(1)

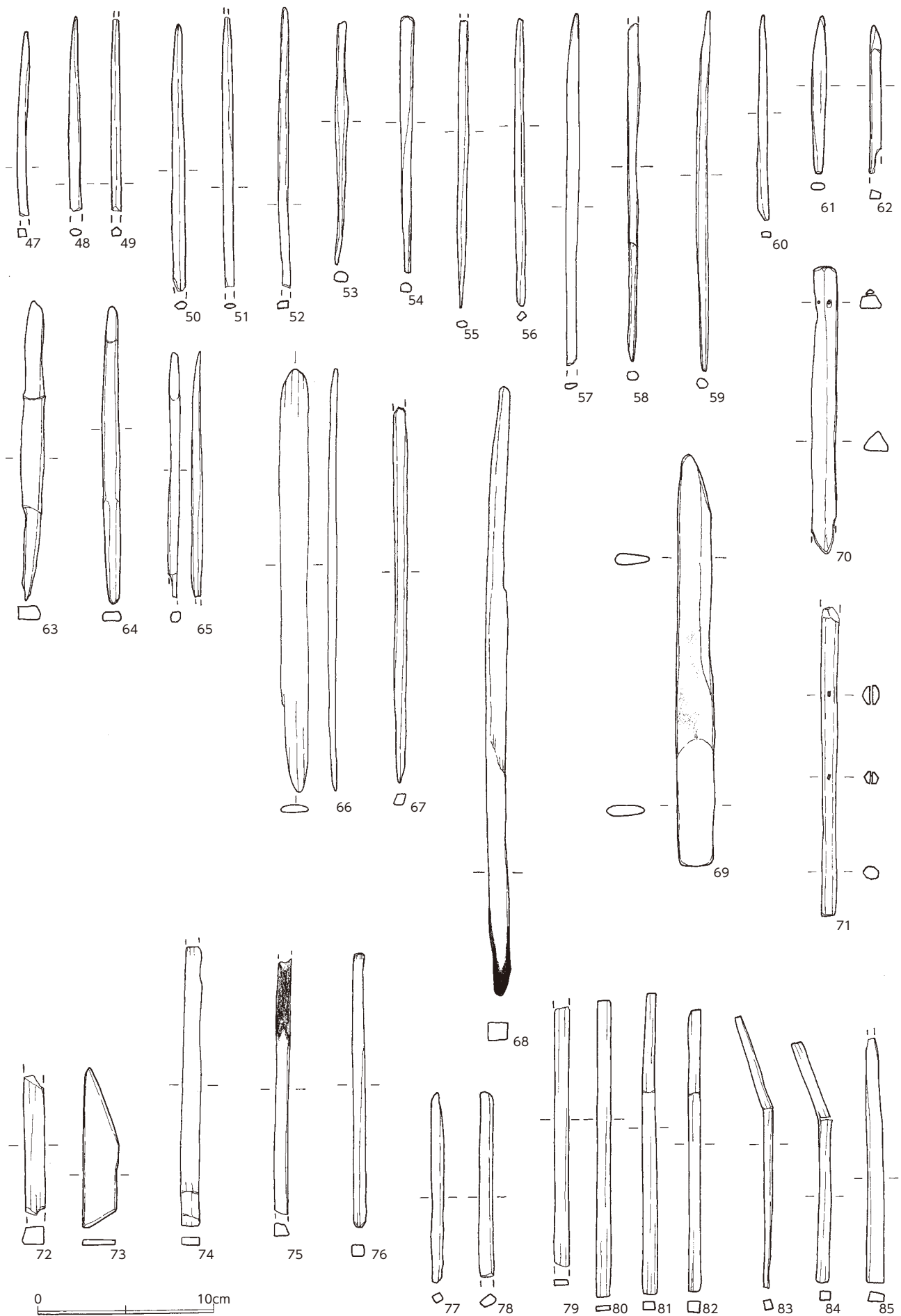


图17 第4面構成土出土遺物(2)

ていると思われる。溝の南北は調査区外に延びており規模は不明。石積み西側の裏込めは、暗茶褐色弱粘質土・破碎泥岩を含む。炭化物層が厚く堆積しかかわらけ細片が多く混入する。石積み東側裏込めは、道路地業と同様に茶褐色弱粘質土が堆積、破碎泥岩・炭化物を多く含む。出土遺物も多い。

・遺構 1 1 出土遺物 (図 1 5)

1～2 2 はかわらけ。8 は外側面に油煤痕。1 1 は精良で硬質の胎土をもつ。1 3 は内側面・外面口唇部に厚く油煤痕。1 8 は内外面に煤痕。2 0 は内面全体に黄色の物質付着。2 2 は内面見込み中央と内側面一部に漆と思われる黒色の物質付着。2 3 は青白磁・梅瓶・胴部片。2 4 は瀬戸・入子・輪花型。2 5 は常滑捏ね鉢Ⅱ類・内面摩耗痕。2 6 は魚住捏ね鉢。2 7 は滑石鍋底部片。2 8 は滑石鍋転用品・温石か？

遺構 1 2 (図 1 3)

土坑である。長軸 7 8 cm・短軸 5 9 cm・深さ 1 6 cm。覆土は黒褐色有機質土・炭化物を多く含む。図示できなかった遺物は破片で、かわらけ(大) 2 3・かわらけ(小) 1・常滑甕胴部 1・黒色漆を内外面に髹漆した漆器椀が破片で出土している。

遺構 1 4 (図 1 3)

岩盤を掘りこんだピットである。長軸 2 8 cm・短軸 2 0 cm・深さ 8 cm。覆土は茶褐色砂質土・褐色粘質土を含む。出土遺物はない。

遺構 1 5 (図 1 3)

ピット。長軸 4 4 cm・短軸 3 8 cm・深さ 1 7 cm。覆土は茶褐色砂質土・炭化物・泥岩粒・褐色粘質土を含む。出土遺物はない。

遺構 1 6 (図 1 3)

ピット。遺構 1 7 に切られ正確な形状不明。深さ 1 0 cm。覆土は暗茶褐色砂質土・泥岩粒を含む。出土遺物はない。

遺構 1 7 (図 1 3)

ピット。長軸 2 8 cm・短軸 2 6 cm・深さ 2 3 cm。覆土は茶褐色砂質土・炭化物微稜・泥岩粒・褐色粘質土を含む・遺構 1 5 の覆土に近似。

遺構 1 8 (図 1 3)

溝側壁に積んだ石の抜き取り痕か？長軸 7 5 cm・短軸 6 5 cm・深さ 2 4 cm。覆土は暗褐色砂質土。出土遺物はない。

第 4 面構成土出土遺物 (図 1 6・図 1 7)

1～3 9 はかわらけ。1 は手づくね成形の白かわらけ。薄手・精良な胎土。2 は手づくね成形のかわらけ。4・8 は外側面・内面見込みに油煤痕。7・1 4・1 9・2 3 は内面見込み周囲に強くナデが入る。2 7 は側面を打ち搔き円盤状に整形。2 8 は内側面に油煤痕・内底面に穿孔あり。2 9 は内面口唇部一部に油煤痕。3 0 は外側面に薄く油煤痕。3 1 は精良な胎土。3 9 は内外口唇部に油煤痕。4 0・4 1 は漆製品。4 0 は椀・内外面に黒色漆髹漆・内外面に赤色漆で同一の文様・丸に五三の桐文・手描き施文・外底

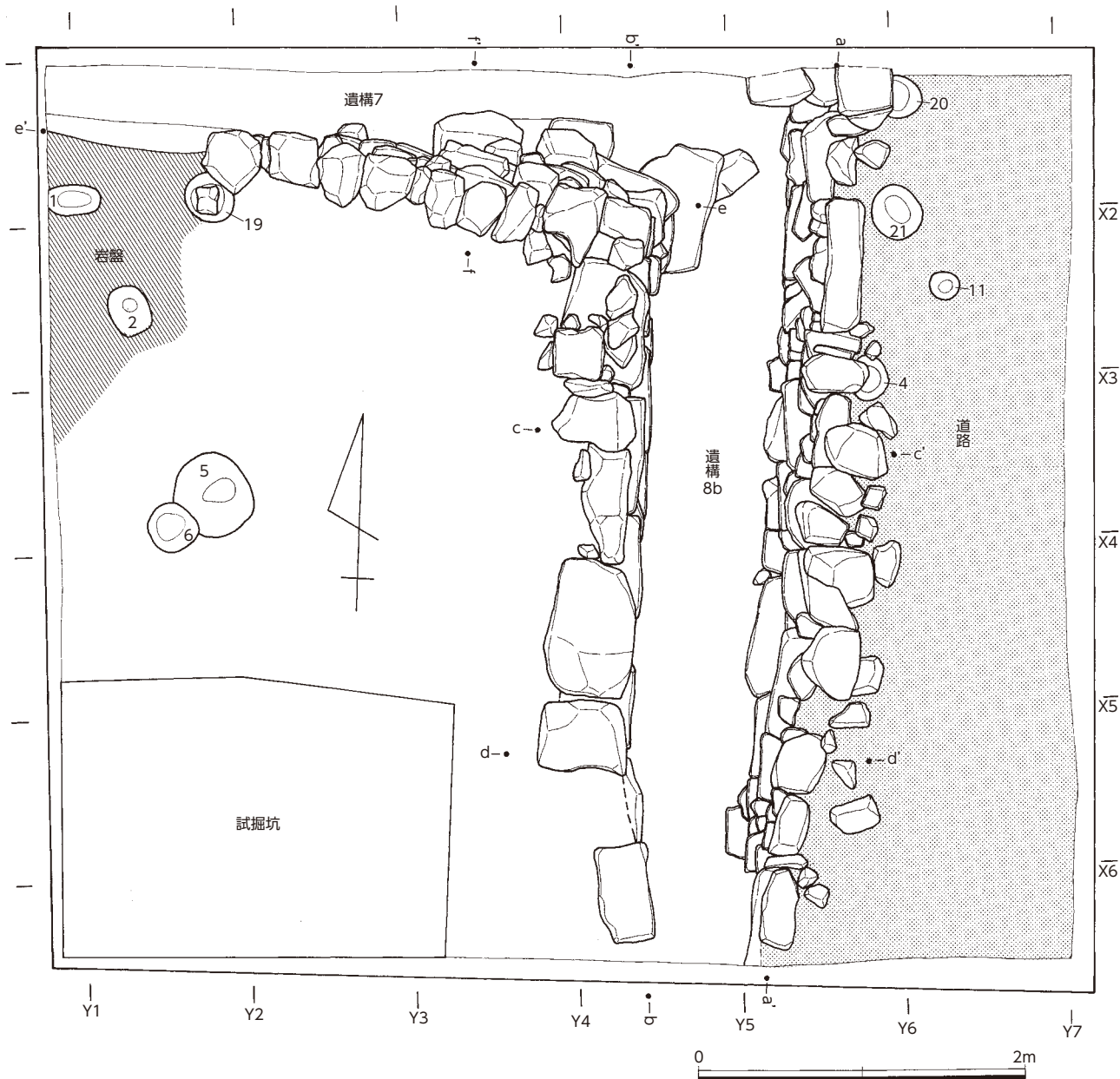


図18 第3面全測図

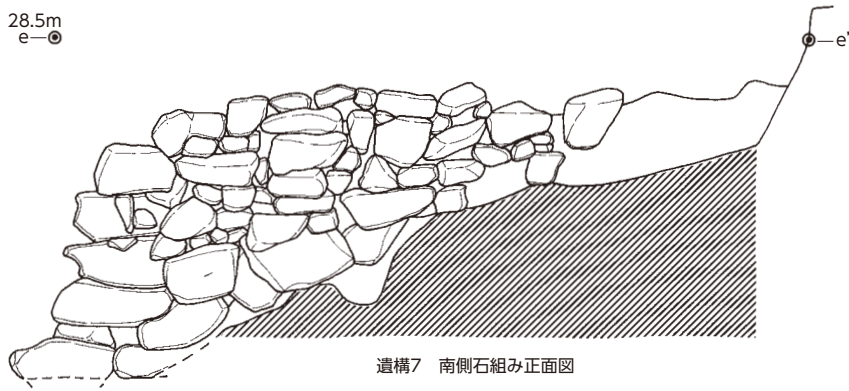
面髹漆。41は椀・内外面に黒色漆髹漆・赤色漆で内面に梅・籠目の構成文・外面に笹文の情景文を手描き施文・外底面に「二」の線刻あり。42～85は木製品。42は曲げ物底板。43は板折敷か。44・45は経木折敷。46は漆製品・調度具。黒色系漆を髹漆。筆架か？47～59は箸。60～66は篋状製品。67は串状製品。68は齊串状製品・片端に焼痕。69は刀形か？表面油煤痕。70は調度具部材片か？断面三角形を呈し、端部に穿孔あり。71は3か所の木釘痕。調度具部材か？72・73は用途不明。73は丁寧な整形。74～85は用途不明。75は一部に焼痕。図示できなかった破片はかわらけ(大)147。

3. 第3面の遺構と遺物 (図18～28)

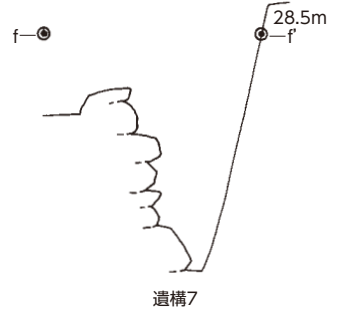
第3面で発見した遺構は、ピット9穴・溝2条・道路である。第3面構成土は褐色弱粘質土、泥岩と破碎泥岩を多く含む。礎石を伴うピット(遺構19)を発見しているが建物を推定できるものではない。

南北に延びる溝(遺構8b)の東側は、破碎泥岩を多く含んだ褐色弱粘質土と暗褐色砂質土の互層で堅

28.5m
e-●



遺構7 南側石組み正面図



遺構7

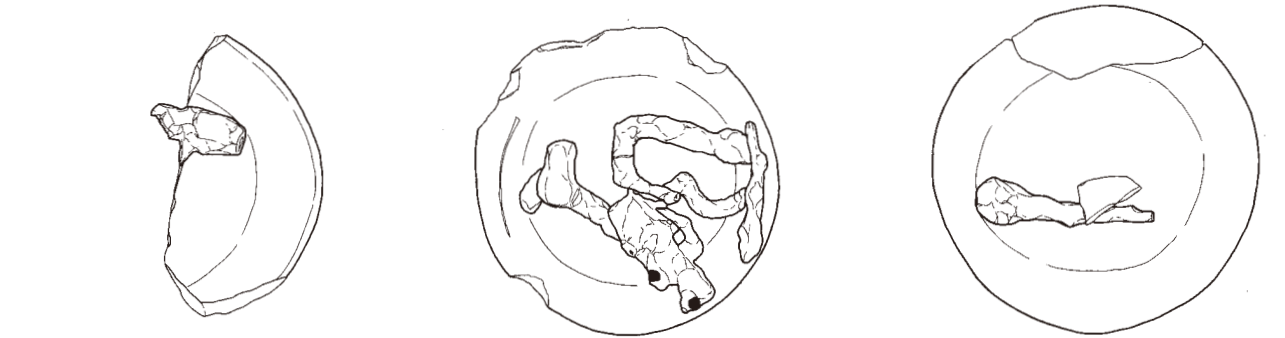
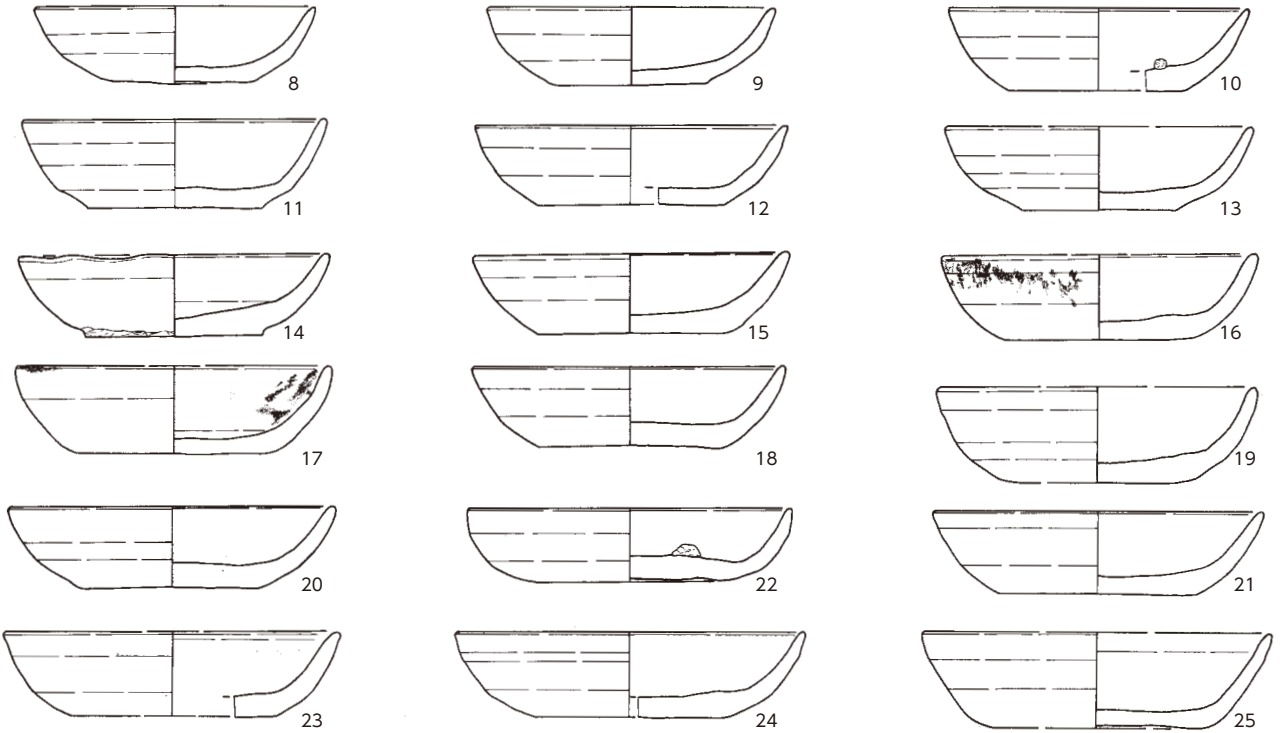
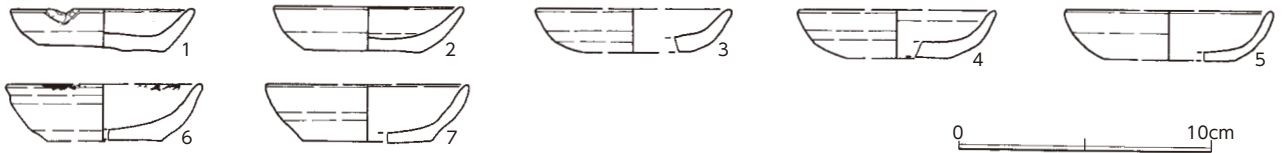
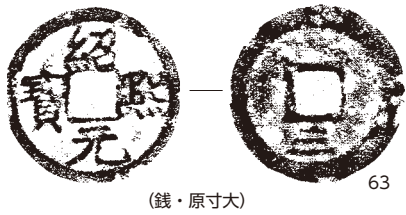
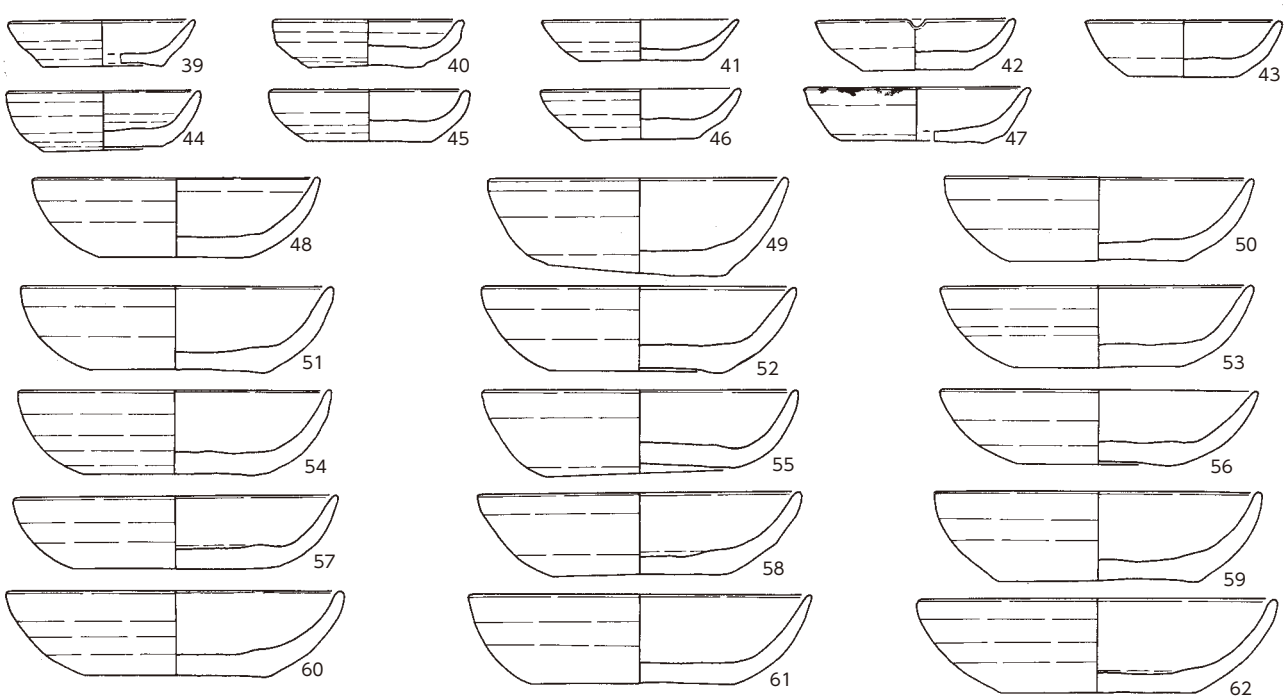
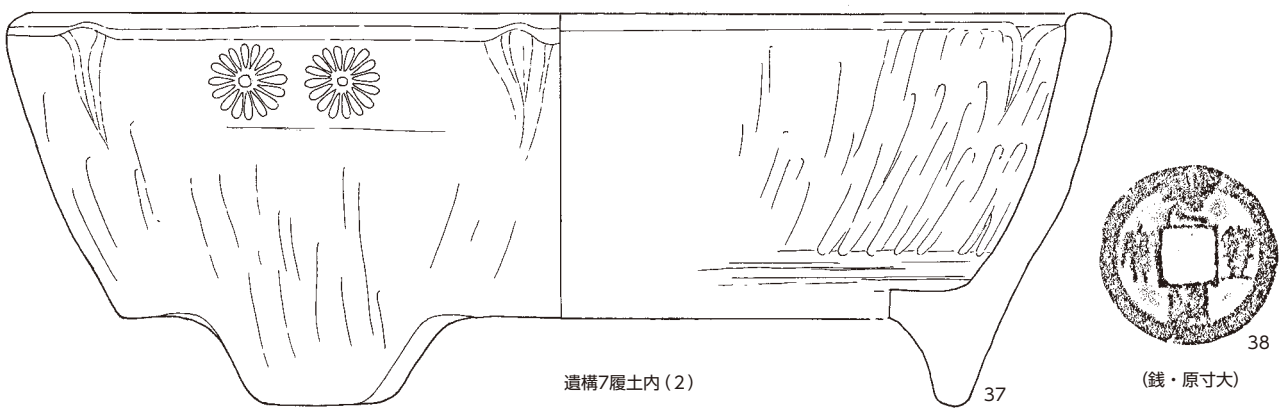
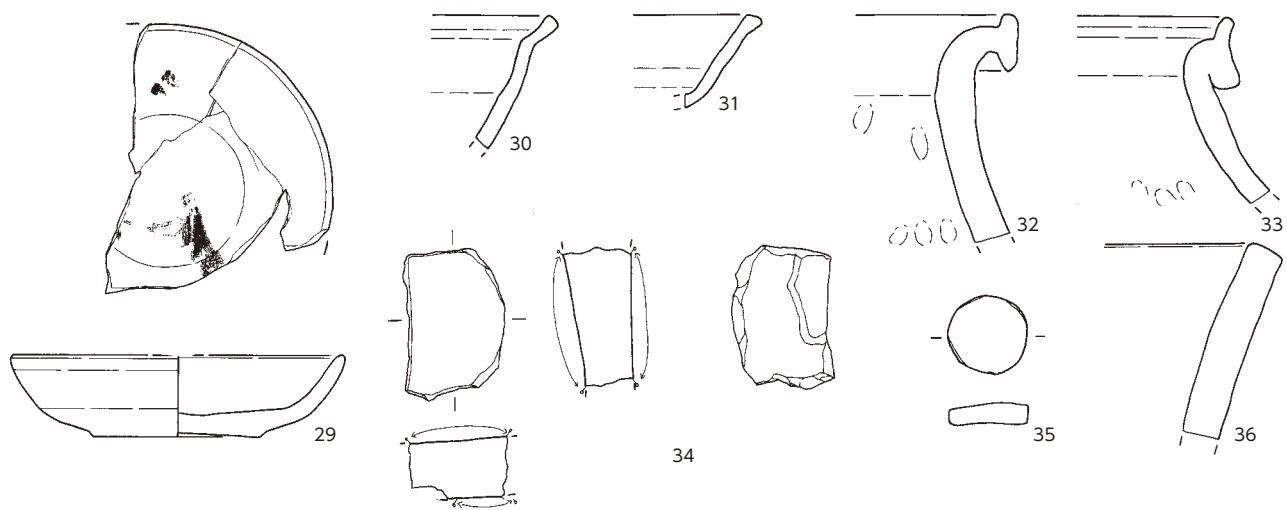


図19 遺構7正面図・エレベーション図 遺構7出土遺物(1)



遺構7底面

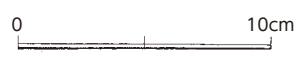


图20 遺構7出土遺物(2)

固に締まった丁寧な地業であり、第4面の道路を踏襲した道路と考えている。溝の石積みの石を確認することを優先してしまい、地業部分を掘りすぎてしまったが、本来は石積みの上段よりも盛って地業されていたことを調査区壁の土層堆積から確認した。溝の西側は破碎泥岩の混じる褐色弱粘質土で、東側同様に溝石積み上段よりもやや盛って地業されていたが、後述する第2面の造成時に一部削平を受けている。溝を挟んで東側と西側では約20cmの高低差があり、地表レベル東側海拔27,90m・西側海拔28,10mを測る。

遺構1(図18)

岩盤上に掘り込まれたピット。褐色弱粘質土・炭化物・破碎泥岩を含む。長軸32cm・短軸20cm・深さ16cmを測る。出土遺物はない。

遺構2(図18)

岩盤上に掘り込まれたピット。長軸30cm・短軸24cm・深さ33cmを測る。覆土は茶褐色弱粘質土・炭化物を含む。ピット底面に破碎泥岩が堆積していた。柱の根固めか? 図示できなかった遺物はかわらけ(小)1。

遺構4(図18)

長軸26cm・短軸24cm深さ12cmを測る。ピット底面に破碎泥岩が堆積。根固めか? 覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・破碎泥岩を含む。図示できなかった遺物は破片でかわらけ(大)2・瓦質火鉢1。

遺構5(図18)

長軸50cm・短軸40cm・深さ14cmを測る。覆土は暗茶褐色弱粘質土泥岩・破碎泥岩・炭化物を含む。遺構6に切られる。出土遺物はない。

遺構6(図18)

長軸30cm・短軸26cm・深さ10cmを測る。覆土は暗茶褐色弱粘質土。泥岩・破碎泥岩・炭化物を多く含む。図示できなかった遺物はかわらけ(大)2。

遺構7(図18・図19)

調査区北側に位置し、東西方向に延びる石組みの溝である。西から東に向かって傾斜しており後述する

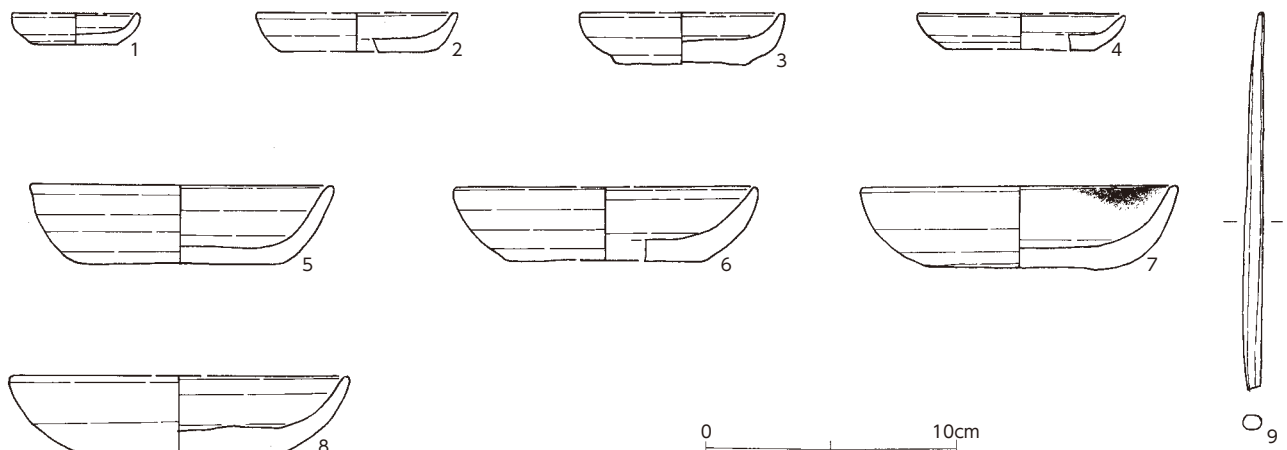


図21 遺構7裏込め出土遺物

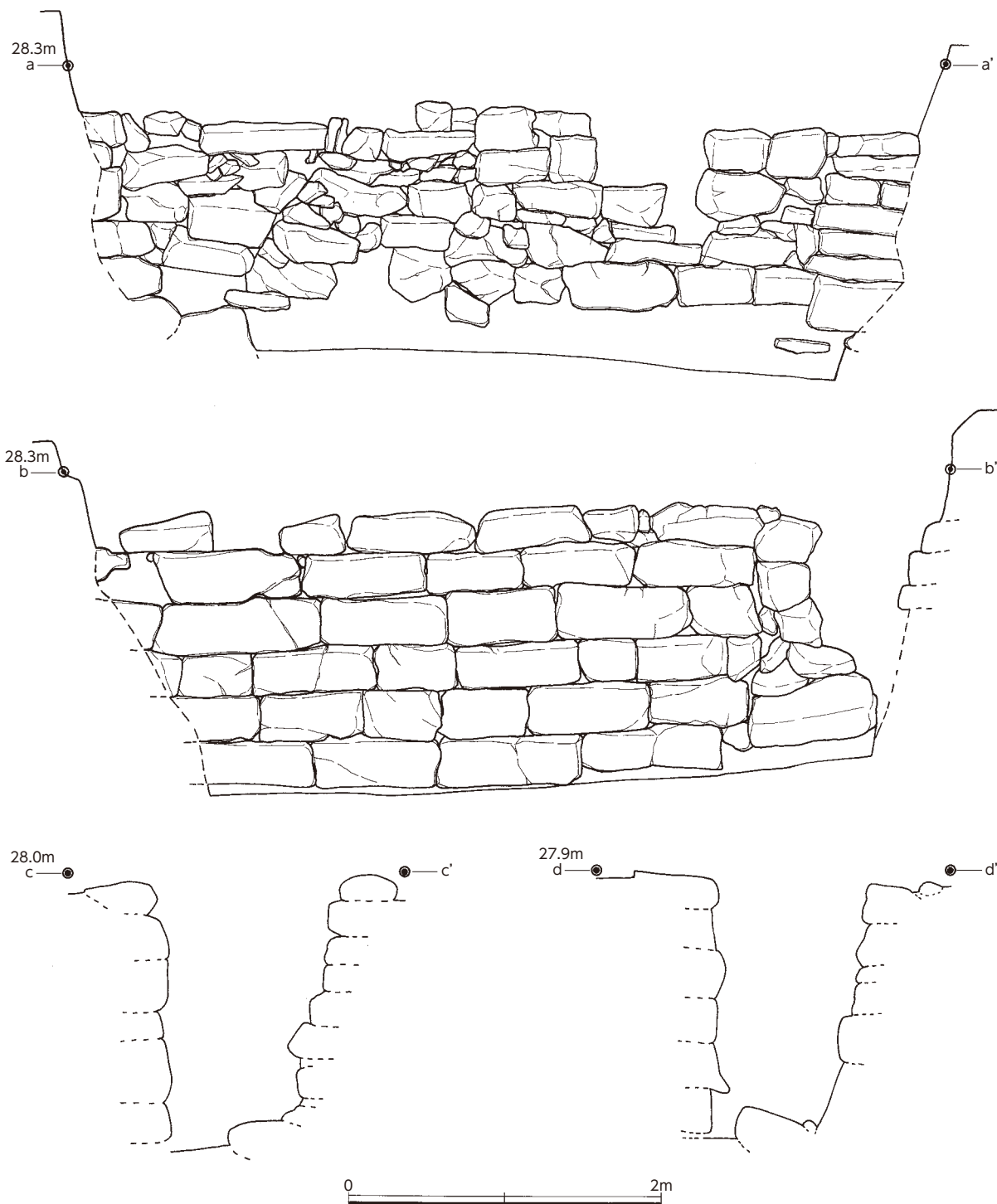


図22 遺構8b正面図・エレベーション図

遺構8bに流れ込む。

溝の南壁は人為的に削った岩盤上に砂質凝灰岩の割石と切り石を乱積みしている。遺構8bと交差する石積みの角石は、切り石を用い丁寧に整形していた。溝の西方向は調査区外に延び、溝の北側は調査区で分断されてしまっているために確認できず遺構の規模、形状などは不明となった。遺構覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物と破碎泥岩を含む。上層には大小の泥岩・破碎泥岩が堆積していた。溝底面上には接合すると1個体となるかわらけを多く発見しており、意図的に溝底に投げ入れたものと考えている。溝底面で集中的に発見した遺物は覆土内遺物とは分けて提示した。

・遺構7出土遺物(図19・図20)

1～29はかわらけ。1は口唇部4ヶ所を打ち搔いている。油煤の付着は見えない。5は精良で硬質な胎土。6は口唇部1ヶ所に打ち搔き痕。口唇部に油煤付着。16は外側面上部に油煤痕。17は内面に煤付着。10・26・27・28は器面に釘付着。29は内面見込みに油煤痕。30は瀬戸折縁深皿。31は瀬戸卸皿。32・33は常滑甕。34は石製品砥石。中砥・天草産。35はかわらけ転用品。円盤状に整形。36・37は瓦質火鉢。37は瓦質・火鉢。内側面下部からの磨き、輪花整形の調整が丁寧であり、外側面に押印された菊花の印花文の花弁が丸みを帯びる。38は銭・元豊通寶。

39～64は遺構7の底面で発見された遺物である。発見した遺物のほとんどは完形、あるいは完形品であったと思われるかわらけであった。39は精良で硬質な胎土。40は見込み周囲を強くなでたためか、やや内反する側壁を持つ。42は内面に薄く油煤痕。43は内外面に薄く油煤痕。47は内外口唇部に厚く油煤痕。61は内面に薄く油煤痕。63・64は銭・63は治平元寶。64は紹熙元寶。

図示できなかった遺物は、かわらけ(大)307・かわらけ(小)7・青磁器種不明1・常滑甕胴部9・常滑甕底部1・常滑捏ね鉢I類1・瀬戸卸皿1・瀬戸碗1・瀬戸壺1・硯片1・鉄製品釘16。

・遺構7裏込め出土遺物(図21)

1～8はかわらけ。1は小型・内反する側壁を持つ。7は内面薄く油煤痕。9は木製品・箸。

遺構8b(図22)

南北に延びる石組みの溝である。調査区北から南に向かってゆるく傾斜している。溝幅約75cm・深さ約150cm。

溝西側は、丁寧に成形した砂質凝灰岩切り石を6段の整層積みになっている。各段の高さを水平にそろえて積み整層積みは、石組みの構造としては弱くなるが、溝の東側に道路があったと推定して、道路方向から見た外観(正面観)を意識したものではないかと考えている。溝東側石組みの南側は砂質凝灰岩切り石が7段の整層積みとなっているが、中央辺りは不整形な砂質凝灰岩割石の野面積みとなっており構築方法に違いがみられる。構造的に弱い整層積みの石組みが壊れて修復した可能性もあるが、西側石組みのように体裁を気にしなかったのかもしれない。遺構覆土は下層に炭化物・砂礫を多く含む暗青灰色砂質土・有機質土・木片を多く含む。上層は砂質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含んだ茶褐色弱粘質土。溝底面には破碎泥岩が敷き詰められたように堆積していた。また、溝底面には上面に焼痕の残る石臼(図34-10)と礎石3個が多量の木片・炭化物・黒色有機質土に混じって出土している。

東西石組み裏込めは、ともに泥岩・破碎泥岩・炭化物・砂質土を含む褐色砂質土と暗褐色弱粘質土で、固く締まった地業であった。

・遺構8b出土遺物(図23・図24)

1～29はかわらけ。5は内面に鉄分付着。11は見込み周囲を強くなでる。21は内面全体に油煤常滑捏ね鉢II類。28は内外側面に油煤痕。30は青磁折縁深皿。31は瀬戸卸皿。32は常滑捏ね鉢I類。33は常滑捏ね鉢II類・内面摩耗痕。34は外面に格子状の叩き文・内面同心円弧の叩き文。亀山窯甕か。35は土器質・火鉢。36は瓦質・香炉。破片ではあるが、内面の磨き、外面に押印された亀甲花文などの装飾が丁寧である。37は鉄製品・釘。38～46は銭。38・39は熙寧元寶。40は紹聖元寶。41は宣和通寶。42は元符通寶。43は大觀通寶。44は政和通寶。45は淳熙元寶。46は■化元寶。47・48は石製品・砥石。47は仕上砥。48は中砥。49は滑石製スタンプ。スタンプ文様は不明だが、一部に花文が見える。50～52は漆製品。50は皿。黒色系漆髹漆・内面見込みに手描き施文・文

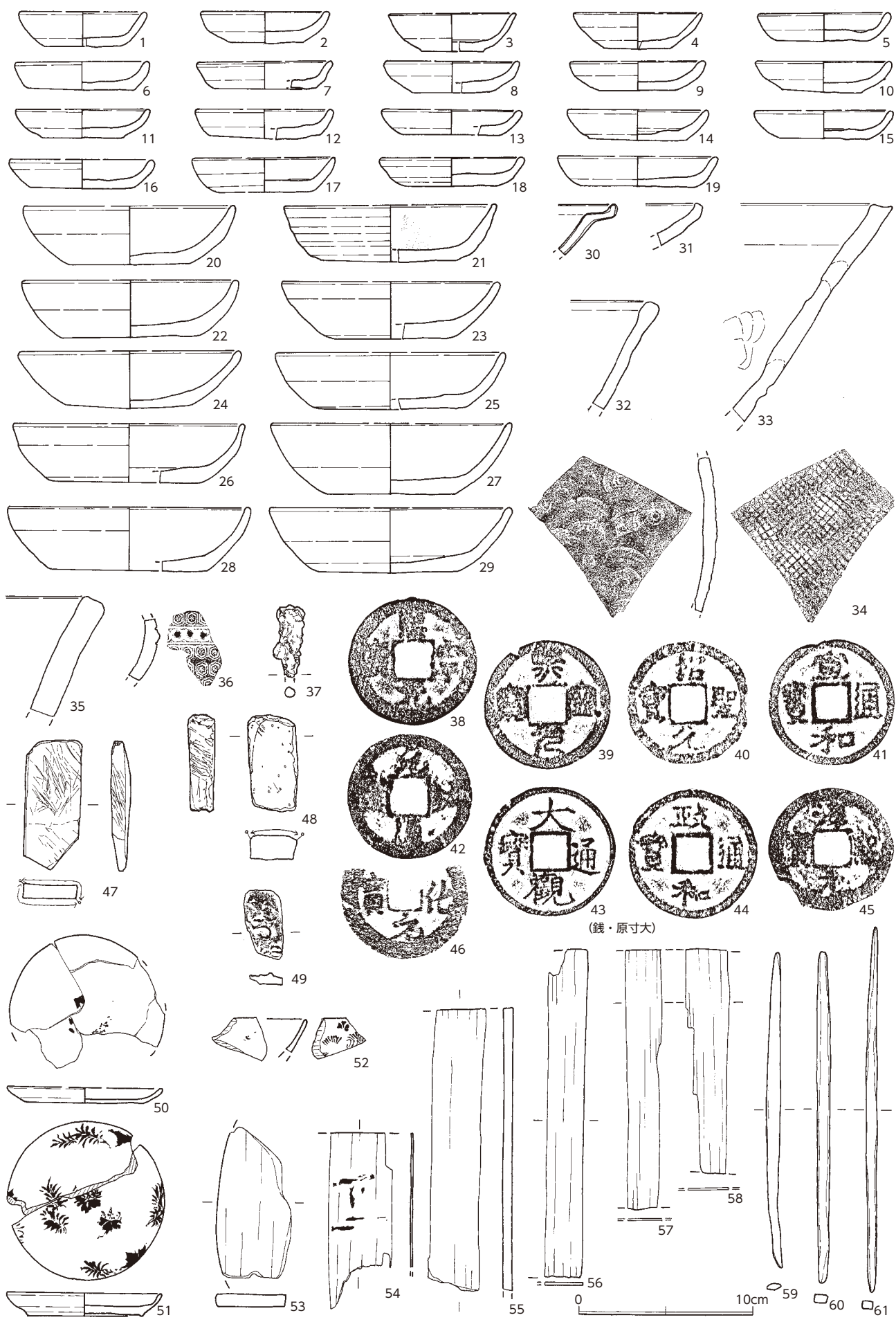


图23 遺構8b出土遺物(1)

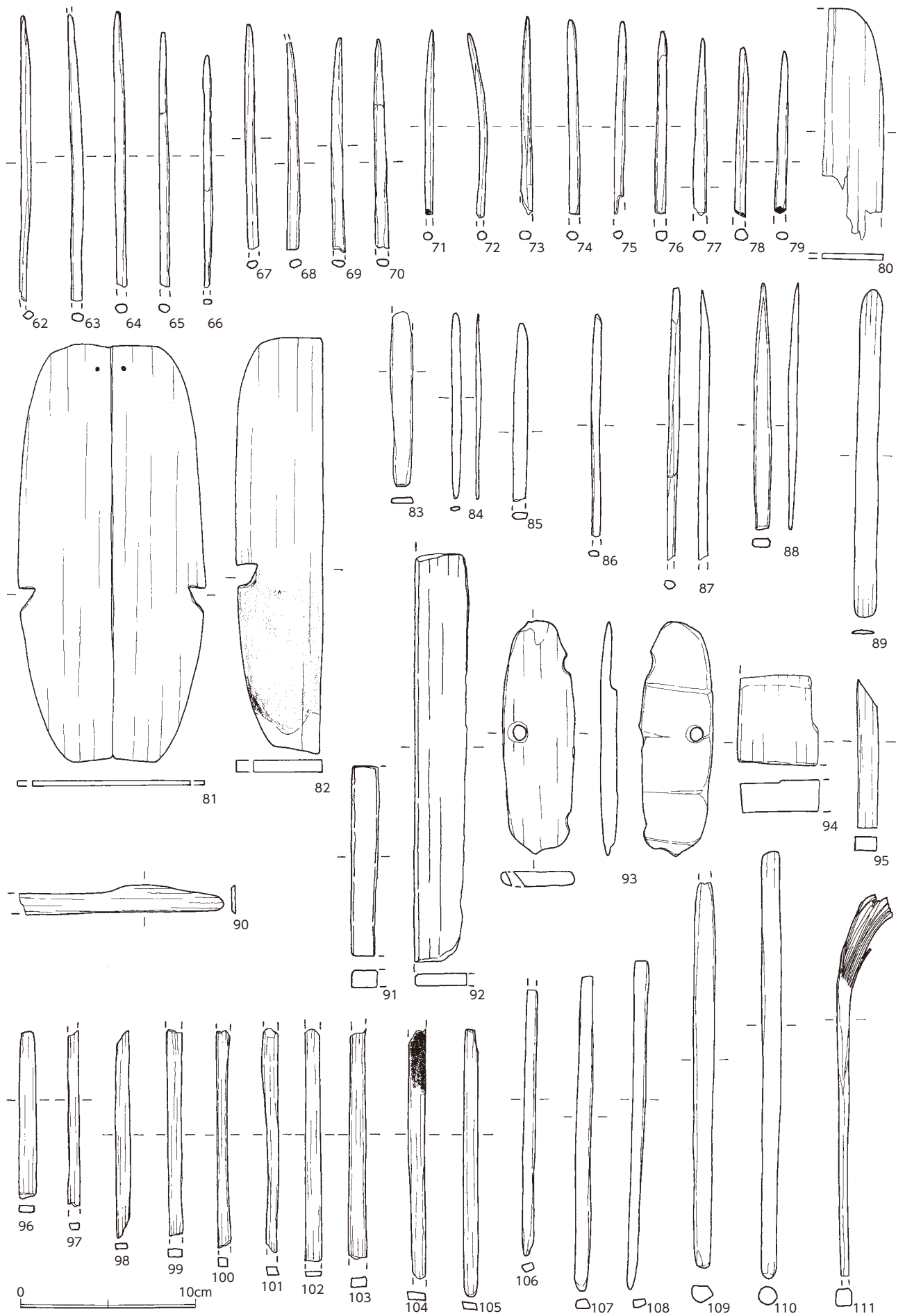


图24 遺構8b出土遺物(2)

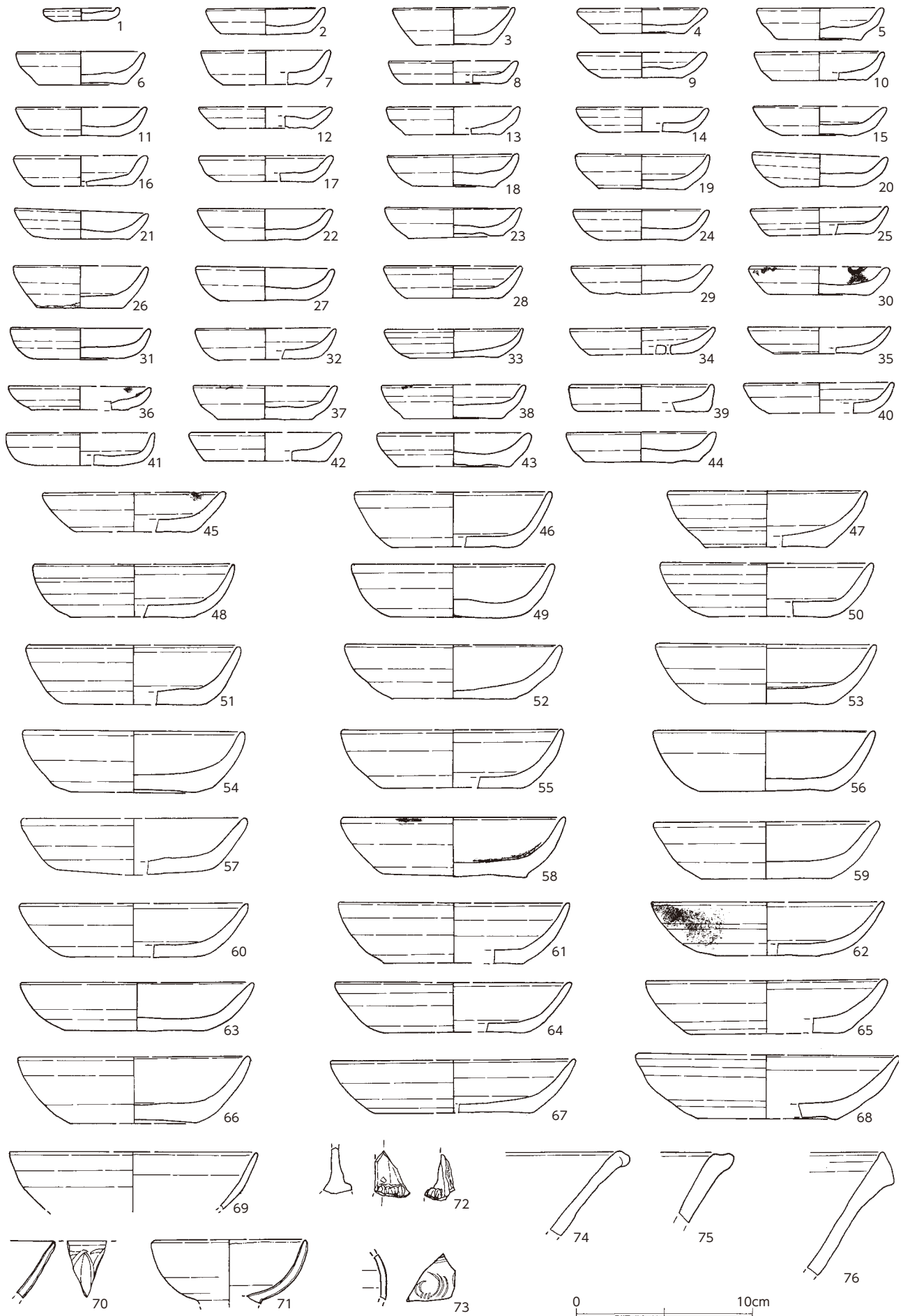


図25 遺構8 b裏込め出土遺物(1)

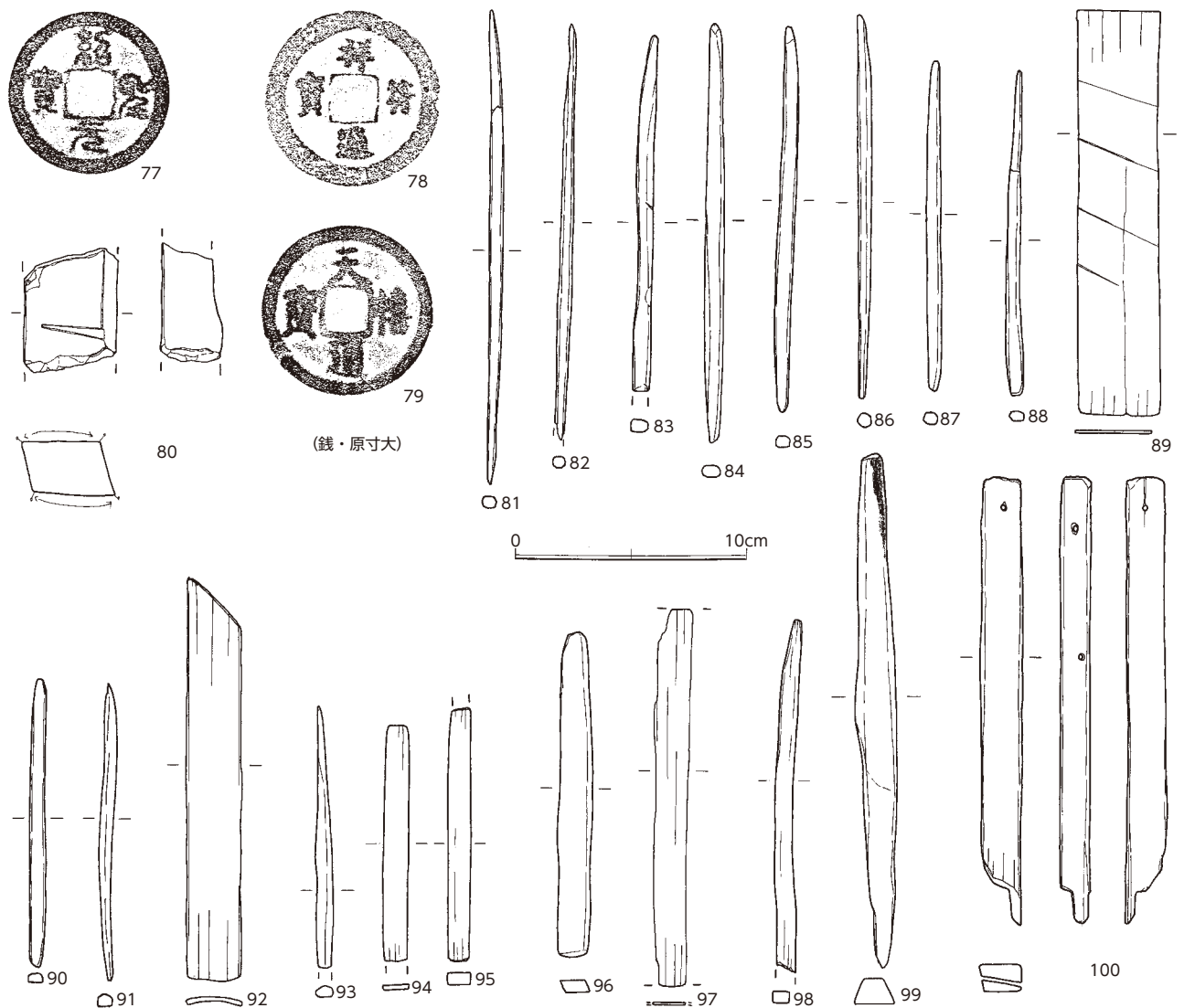


図26 遺構8b裏込め出土遺物(2)

様不明。51は皿。内外面黒色系漆髹漆・内面のみに赤色漆で手描き施文・笹と桐を見込み中央と内壁4か所に配する。52は椀。器形など不明だが、文様の参考品として提示。外面に繊細な線で花文を手描き施文。53～111は木製品。53は調度具破片・盆か蓋か？円形を呈すると思われる。54は経木折敷。墨痕と思われる黒色の染みが残る。

55は調度具部材か？56～58は経木折敷。59～79は箸。71は端部に焼痕。80～82は草履芯。80は側縁部直線的。81は側縁部曲線的。端部は合わせの部分から側縁部にかけて全体が丸みを帯びる。切りこみ部扇形に切り込む。82は製作途中か？先端部直線的。側縁部曲線的。切りこみ部扇形に切りこむ。一部に焼痕。83～89は篋状。先端を削りだしている。90～92は用途不明・端材か？93は下駄の転用品・楕円形に整形。94～105は用途不明。104は片端に焼痕。106～110は串状製品。111は端部がササラ状になるが、人為的なものか不明。図示できなかった遺物は破片で、かわらけ(大)1274・かわらけ(小)146・白かわらけ2・青白磁梅瓶1・白磁口兀皿3・常滑甕胴部30・常滑捏ね鉢I類1・常滑捏ね鉢II類5・山茶碗4・瀬戸入子1・瀬戸卸皿1・瀬戸折縁深皿7・瀬戸鉢1・瀬戸壺1・瀬戸褐釉1・瓦質火鉢5・瓦1・砥石2・鉄製品釘3。

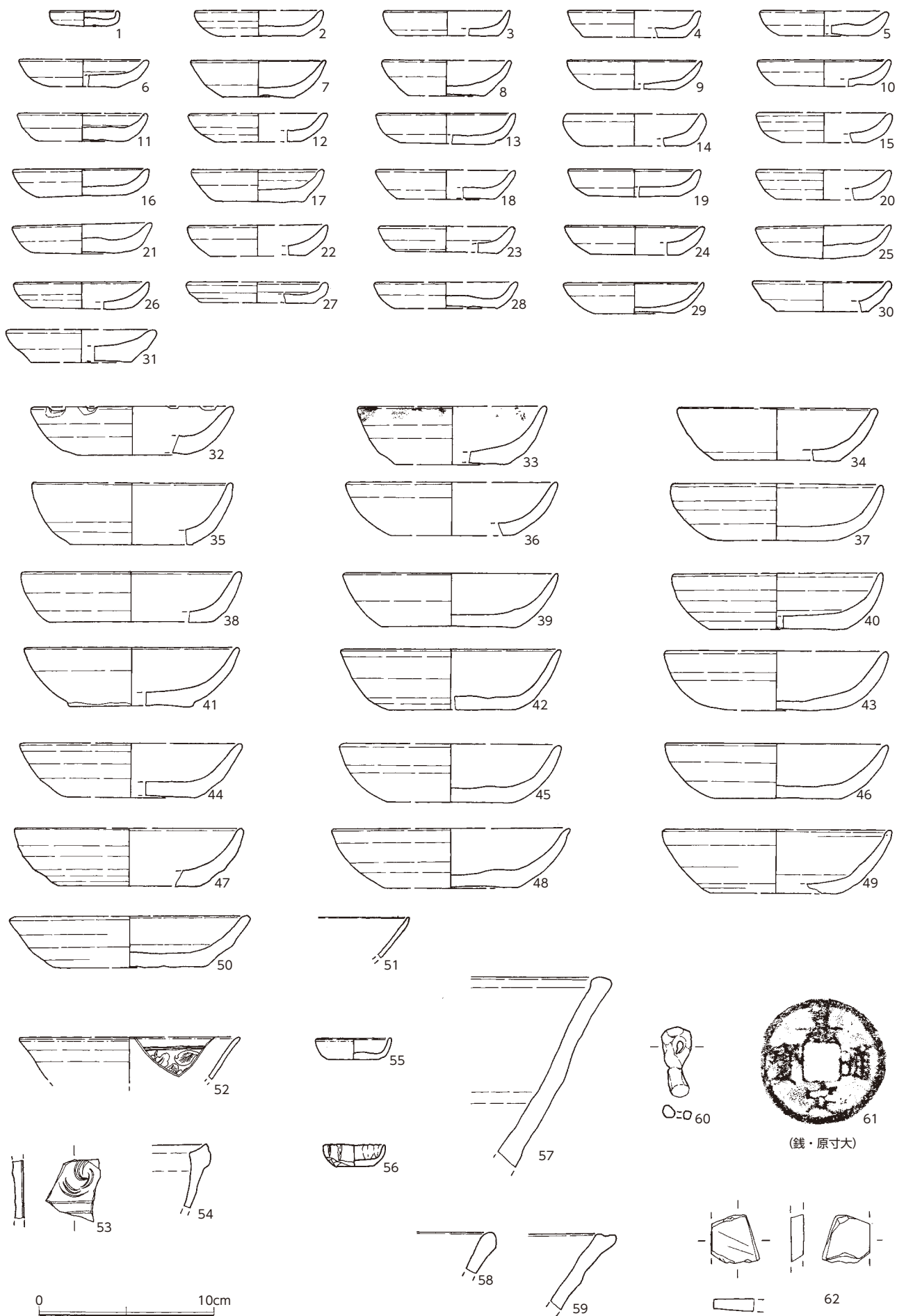


図27 第3面構成土出土遺物(1)

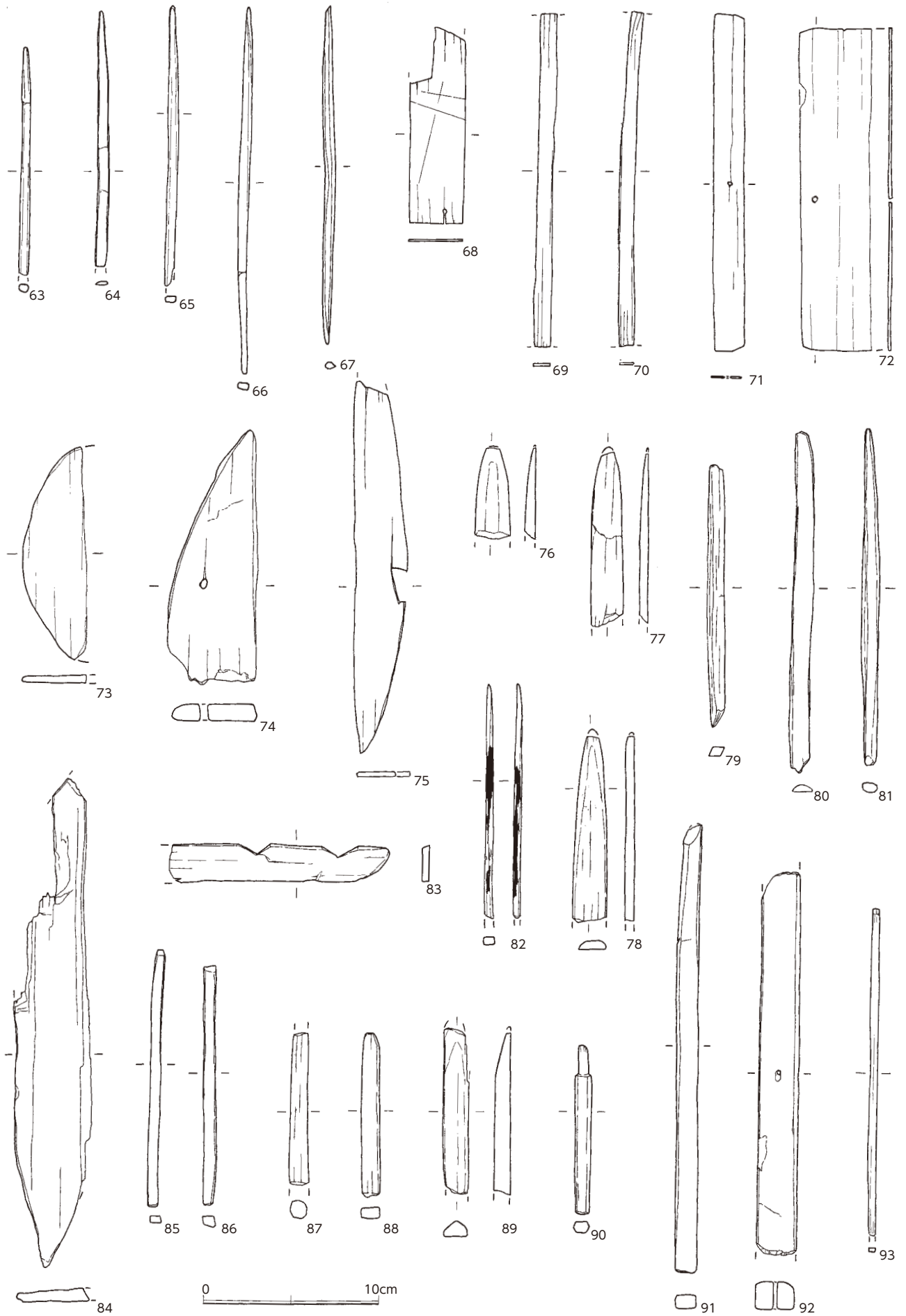


图28 第3面構成土出土遺物(2)

・遺構 8 b 裏込め出土遺物 (図 2 5・図 2 6)

1～69はかわらけ。1は小型・側壁内湾する。5は内面に薄く油煤痕。6・9・24・29は見込み周囲を強くなでる。30は外面口唇部から内面にかけて油煤痕。31・44は器面全体に薄く煤痕。36は内面口唇部に油煤痕。37・45は口唇部に油煤痕。58は内面に薄く油煤痕。62は外面に油煤痕。69は手づくねの白かわらけ。70は青磁・鎬蓮弁文碗。71は青磁・無文碗。口唇部口兀。

72は青白磁・香炉の獣足部分。73は青白磁・梅瓶胴部。74・75は常滑捏ね鉢Ⅰ類。76は魚住・捏ね鉢。77～79は銭。77は紹聖元寶。78は祥符通寶。79は天禧通寶。80は石製品・砥石・中砥・天草産。81～100は木製品。81～88・93は箸。89は経木折敷・片面に線刻。まな板として使用か？90・91は籠状。端部を削る。92は用途不明。側面ゆるく湾曲する。93～96は用途不明。97は経木折敷。98・99は用途不明。99は片端部に焼痕。100は漆製品・調度具部材か？黒色系漆髹漆。木釘痕。調度具部材か？

遺構 8 b 裏込めから出土した図示できなかった遺物は、後述する遺構 8 a 裏込め出土遺物と合わせて報告した。

遺構 1 1 (図 1 8)

円形のピット。直径 16 cm・深さ 5 cmを測る。覆土は茶褐色弱粘質土。破碎泥岩・炭化物少量を含む。出土遺物はない。

遺構 1 9 (図 1 8)

円形のピット。長軸 32 cm・短軸 30 cm・深さ 8 cm。覆土は茶褐色砂質土・炭化物混入。底面に砂質凝灰岩の切り石。出土遺物はない。

遺構 2 0 (図 1 8)

円形の浅いピット。長軸 25 cm。短軸 22 cm・深さ 3 cm。石積みに使用した石の抜き取り痕か？出土遺物はない。

遺構 2 1 (図 1 8)

円形の浅いピット。長軸 35 cm・短軸 31 cm・深さ 7 cm。覆土は暗茶褐色弱粘質土・炭化物が多く混じる。出土遺物はない。

・第 3 面構成土出土遺物 (図 2 7・図 2 8) +

1～50はかわらけ。1は側壁内折れの小型。5は内面油煤痕。13・16・19は内面に鉄分付着。43は内底に強いナデ。51は手づくね白かわらけ。52は青白磁・口兀皿・内面印花文。53は青白磁・梅瓶。54は泉州窯・盤。55・56は瀬戸・入子。56は輪花型。57・58・59は常滑捏ね鉢Ⅰ類。60は鉄製品・掛け金具。61は銭・嘉定通寶。62は石製品・砥石・鳴滝産・仕上砥。63～93は木製品。63～67は箸。68～72は経木折敷。68は線刻あり。まな板として転用か？73・74は曲げ物底板。75は草履芯。側面曲線を呈し、切りこみ部扇形。76～82は籠状。78は丁寧な整形。82は黒色系漆付着。83～93は用途不明。83は筆架か？87は断面円形を呈し、直径約 1 cm。丁寧な整形。84は端部を鋭角に削りだして整形。89は断面三角形を呈する。91は端部を斜めに切断している。92は調度具部材か？木釘痕。93は端部に圧痕。

図示できなかった遺物は破片で、かわらけ(大) 531・かわらけ(小) 313・白かわらけ 3・白磁口兀皿 1・

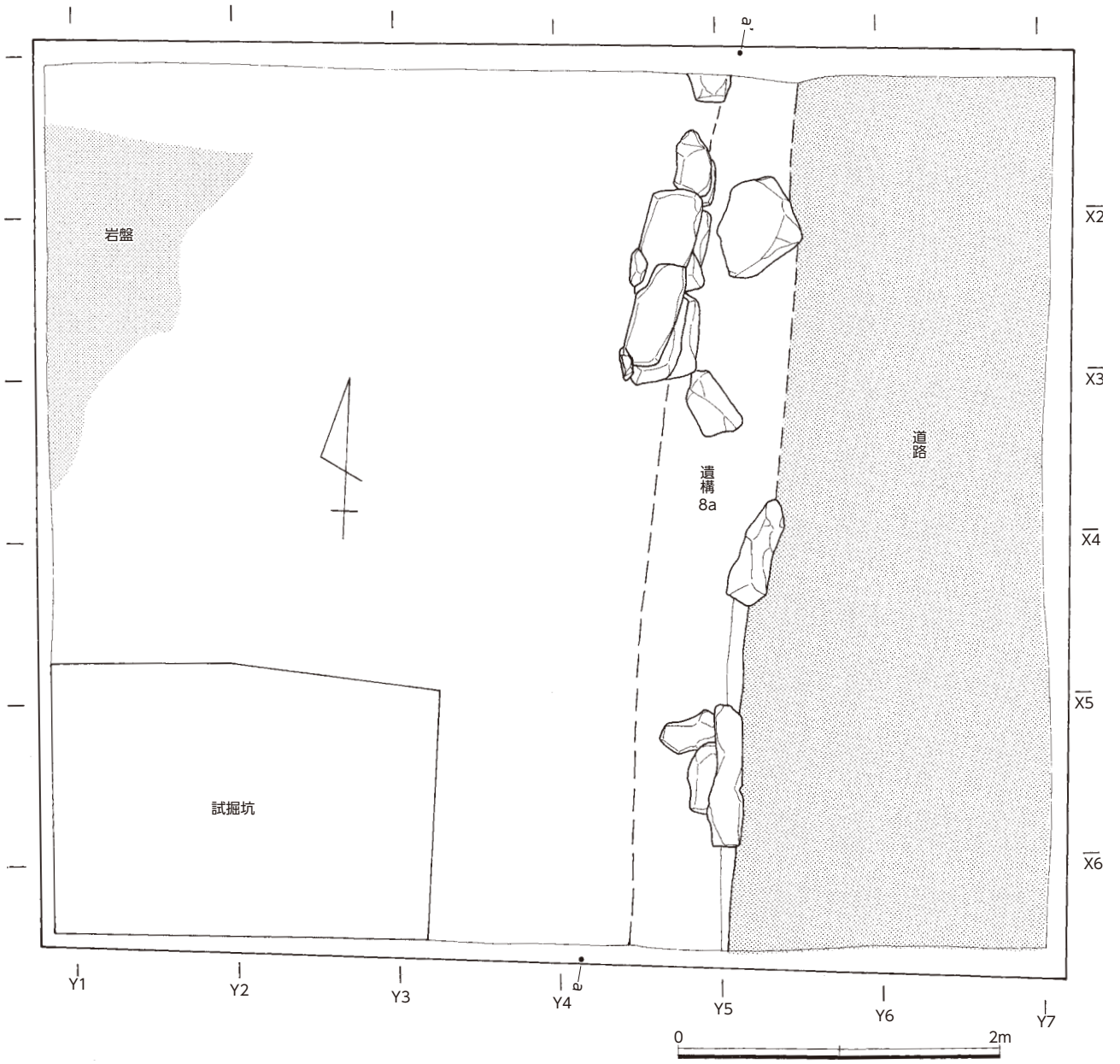


图 29 第 2 面全测图

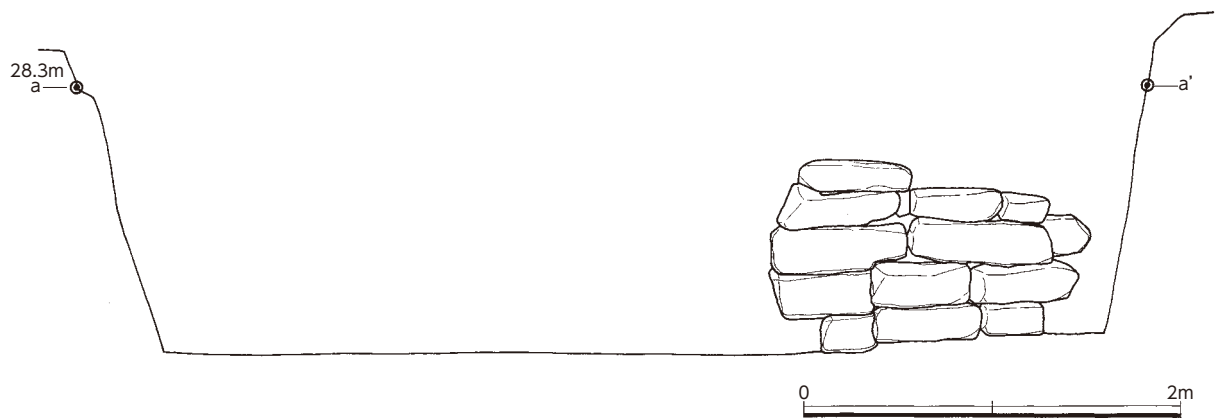


图 30 遺構 8 a 正面图

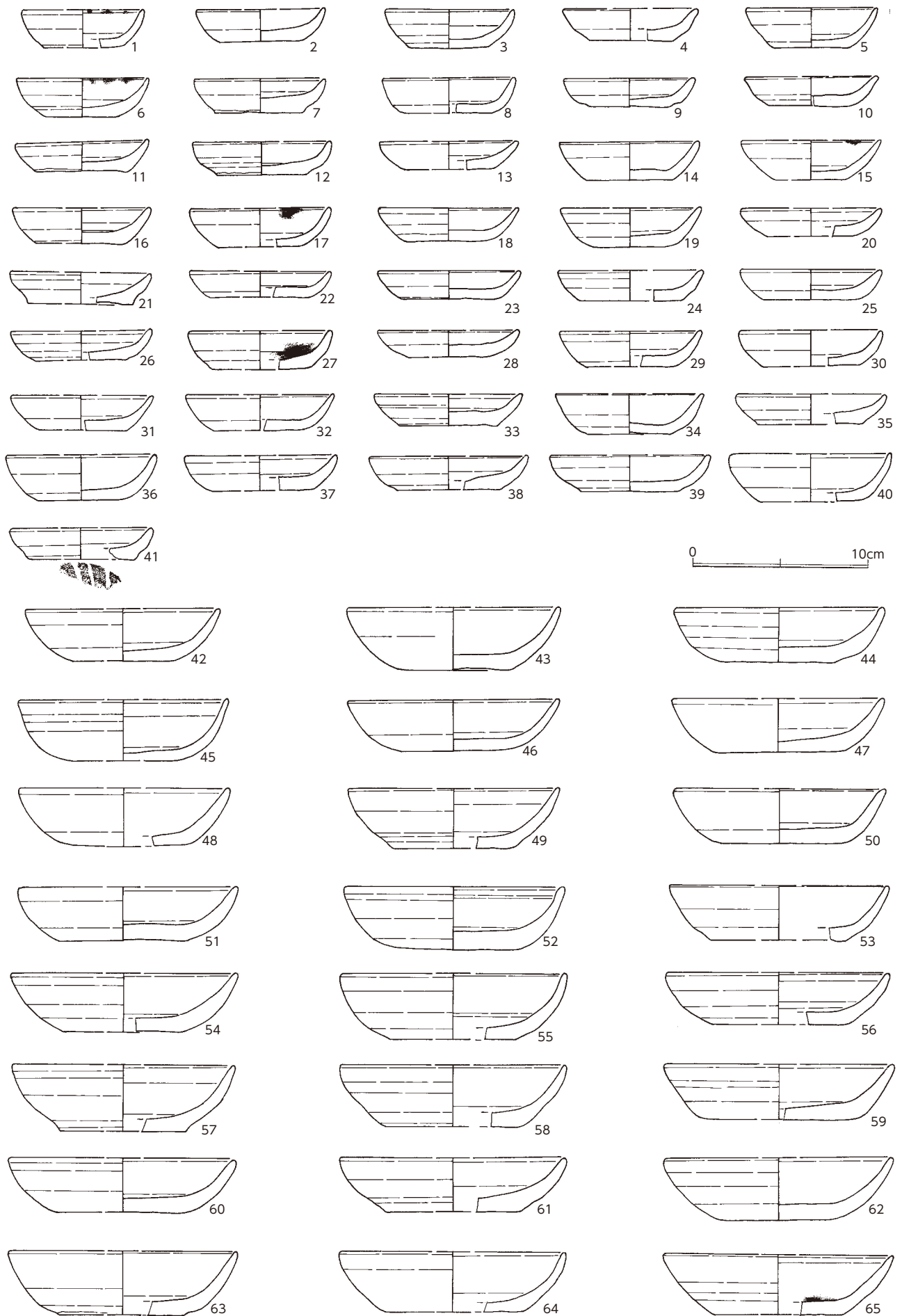


图31 遺構8 a・8 b一括出土遺物(1)

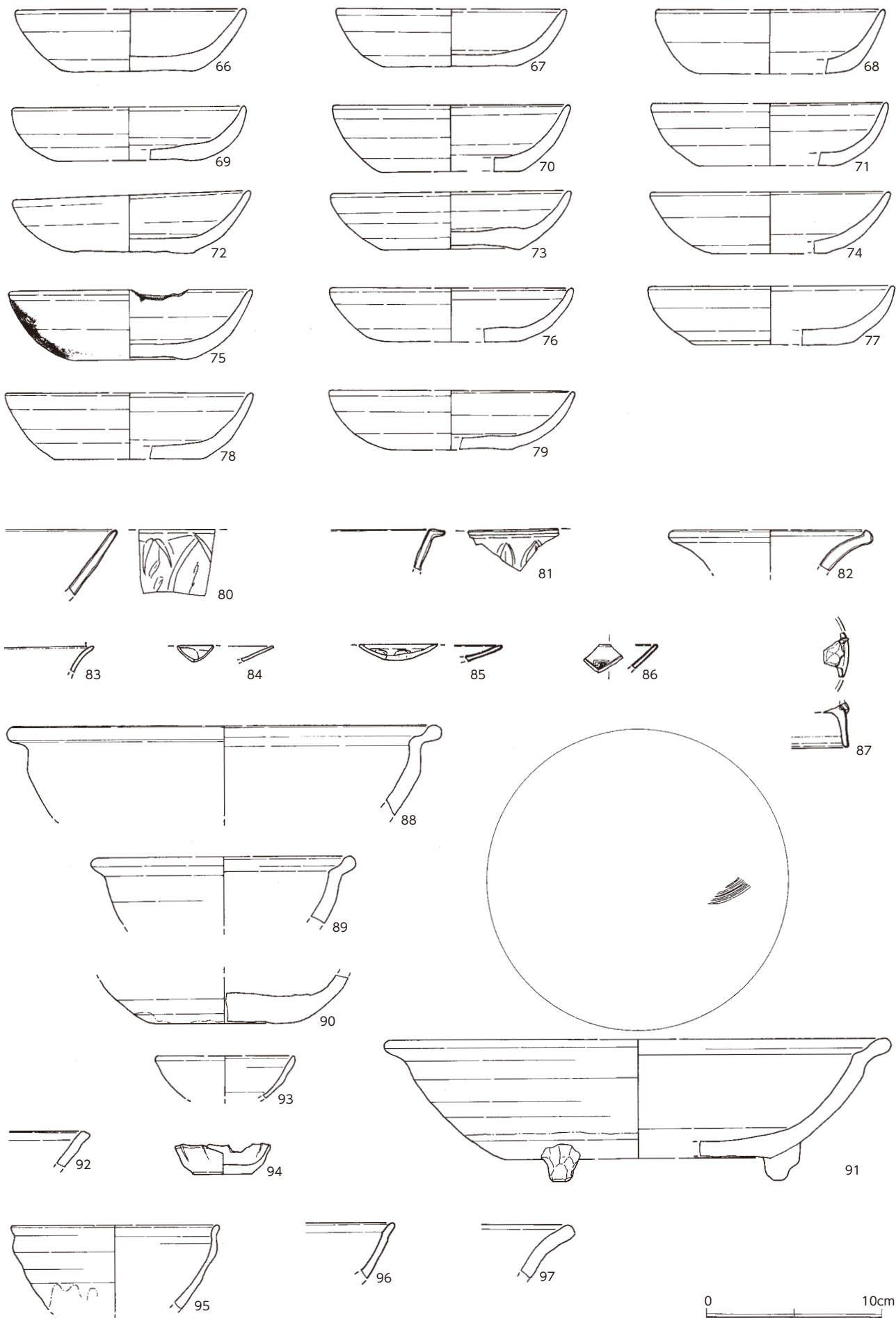


图32 遺構8 a・8 b一括出土遺物(2)

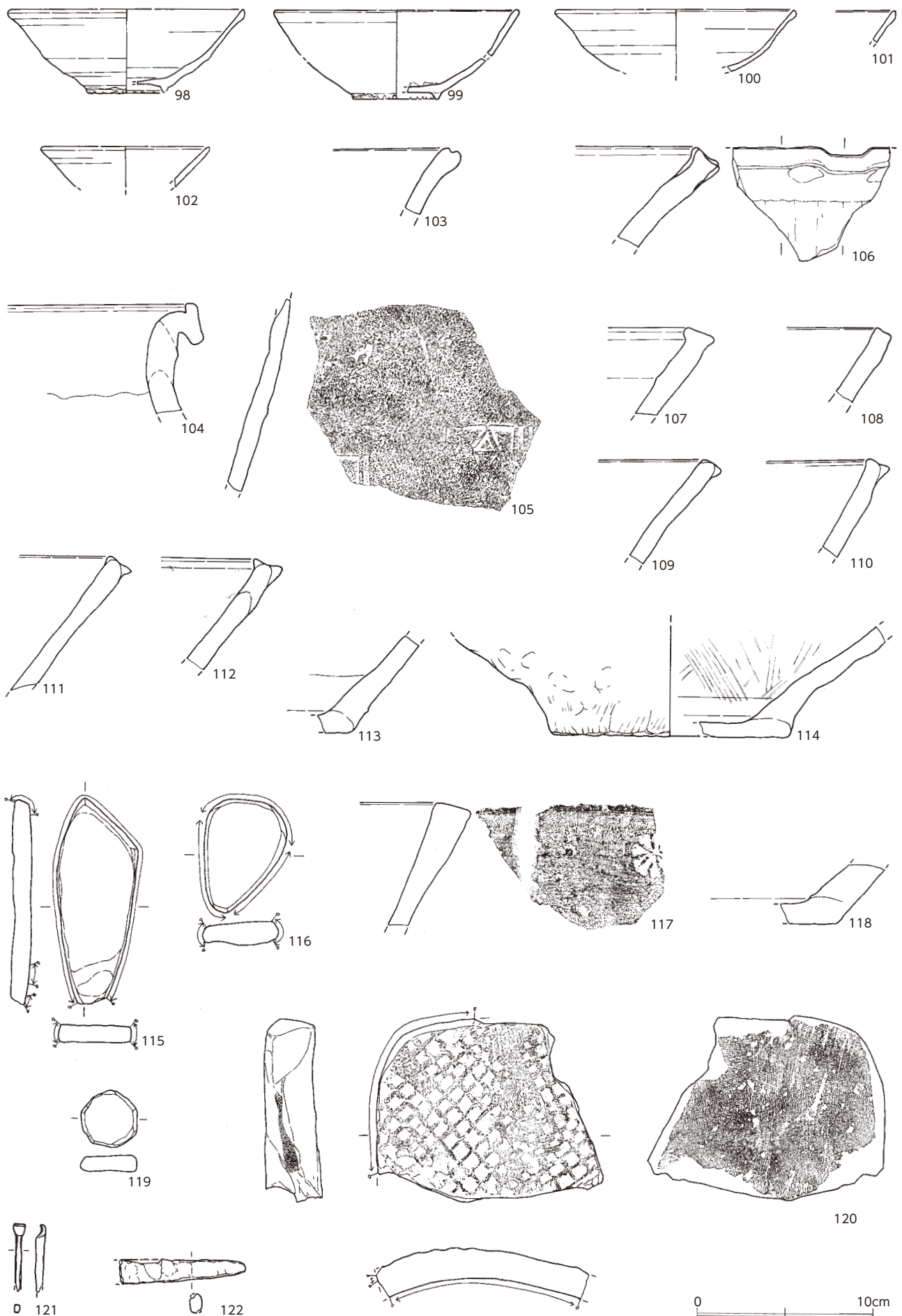
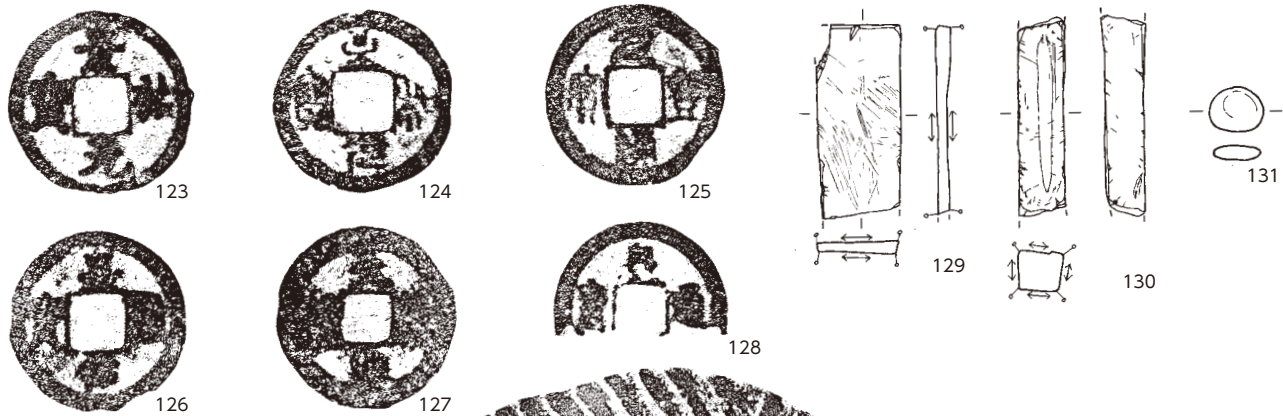
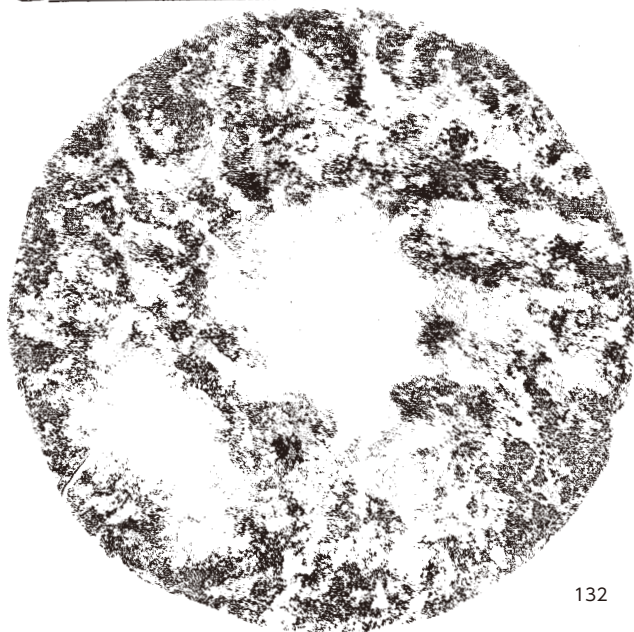
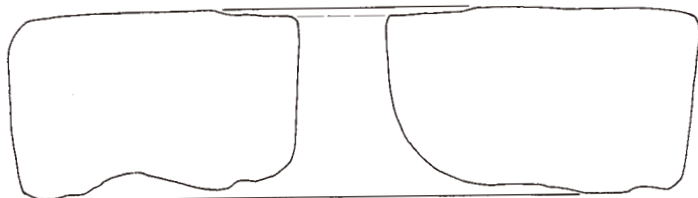
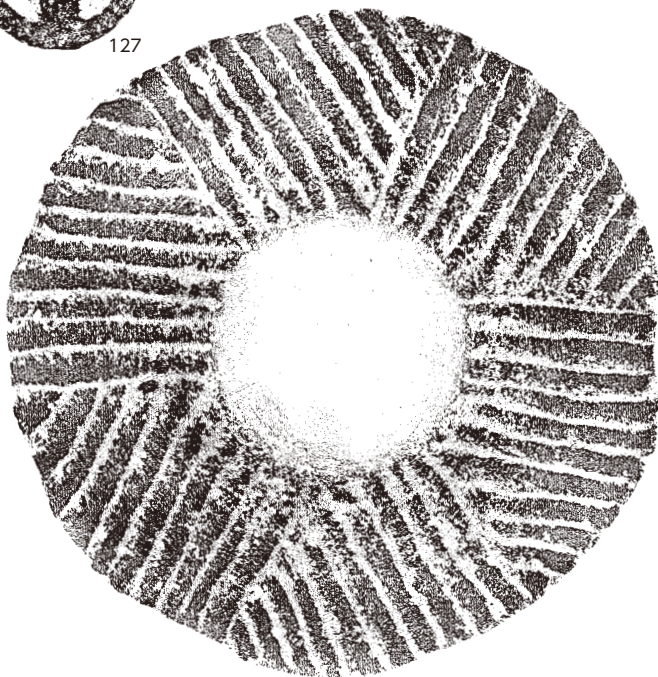


图33 遺構8 a・8 b一括出土遺物(3)



(錢・原寸大)



0 10cm

図34 遺構8 a・8 b一括出土遺物(4)

青磁蓮弁文碗1・青磁鉢1・常滑甕胴部8・常滑甕底部1。

4. 第2面の遺構と遺物 (図29～36)

第2面で発見した遺構は溝1条。第2面と第1面の遺構はほぼ同一レベルで発見・検出したが、遺構の切りあい・土層堆積の観察から2期に分けて掲載した。

発見した溝(遺構8a)の東で細かく砕いた破碎泥岩の堅く締まった地業を検出した。道路であったと考えている。第2面・第1面は現地表下、約50cm下方にて確認した。地表レベル海拔27,90mを測る。

遺構8a(図30)

溝である。この溝は第3面で発見した遺構8b検出時に確認し、溝幅約70cm・深さ約120cm。溝の形状は南北の土層堆積によって確認したために、正確な形状・規模などは不明である。遺構8bの西側石積み前方に新たに砂質凝灰岩切り石5段を積んで造り替えていた様子を確認した。(図19・30)東側石積みや、そのほかの切り石は遺存状態が悪く、溝底部など正位置とはややずれた位置で発見している。東側石積みに関しては第3面で発見した遺構8bの東側石積みを継承していた可能性もある。

・遺構8a・遺構8b一括出土遺物(図31～図34)

前述したように、遺構8aを検出途中で遺構8bと2期に分かれることを確認し、2時期の遺物が混在してしまったため、遺構8a単独の遺構遺物として採集できなかった。

1～79はかわらけ。1・4・6・15・17は内外口唇部に油煤痕。27は内側面・外側面に油煤痕。41は成形時に掘られたと思われる刻みが底部に入る。65は内底面に薄く油煤痕。73は見込み周囲に強くナデ。74は内面と見込み下部に油煤痕。75は外側面に薄く油煤痕。口唇部1ヶ所を打ち搔いている。80は青磁・鎚蓮弁文碗。81は青磁・折縁皿・外面蓮弁文。82は青磁・瓶。83は白磁・口兀皿。84～86は青白磁・小皿。84は内面に蓮弁の印花文。85は内面に菊花の印花文。86は雷文の印文。87は青白磁・梅瓶の蓋。88～91は瀬戸・折れ縁深皿。91は内底面に5条の櫛搔文・脚部貼り付け。92は瀬戸・卸皿。93・94は瀬戸・入子。94は輪花型。95・96は瀬戸・天目茶碗。96は鉄釉。97は瀬戸窯。器形不明・鉢か? 98～101は東濃系山茶碗。102は山皿。103は常滑捏ね鉢I類。104・105は常滑甕。106～114は常滑捏ね鉢II類。115・116は摩耗陶片・常滑甕の転用品。117・118は瓦質・火鉢。117は輪花型。119は円盤状製品・かわらけ転用品。120は瓦。断面部と凹部摩耗。硯として転用していたか? 121は鉄製品・釘。122は鉄製品・工具? 123～128は銭。123は景祐元寶。124は至和元寶。125は元豊通寶。126は嘉祐通寶。126は元豊通寶。127は皇宋通寶。129・130は石製品・砥石。129は仕上砥。130は中砥。131は石。基石か? 132は石製品・白・下白・6分画

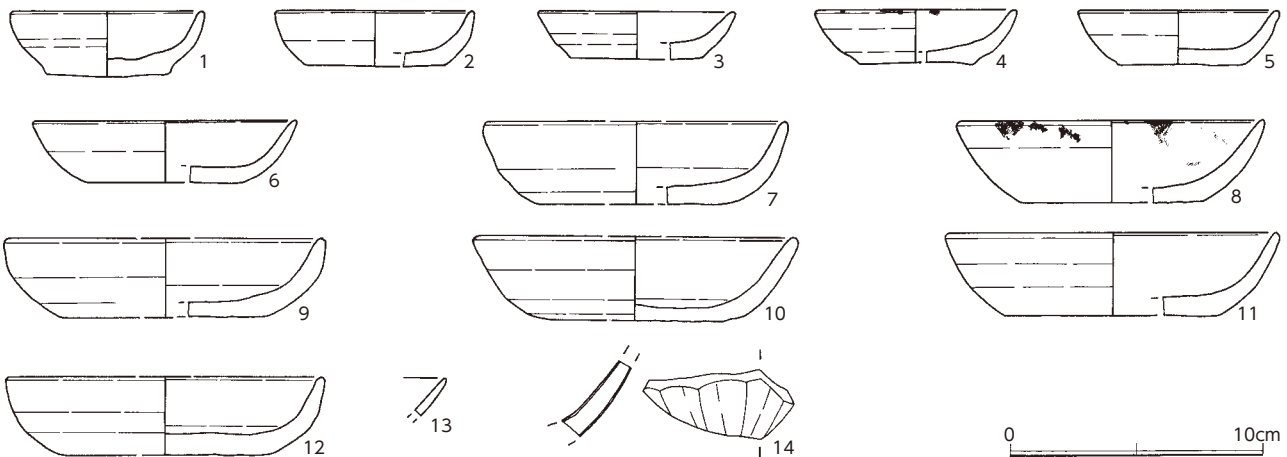


図35 遺構8a裏込め出土遺物

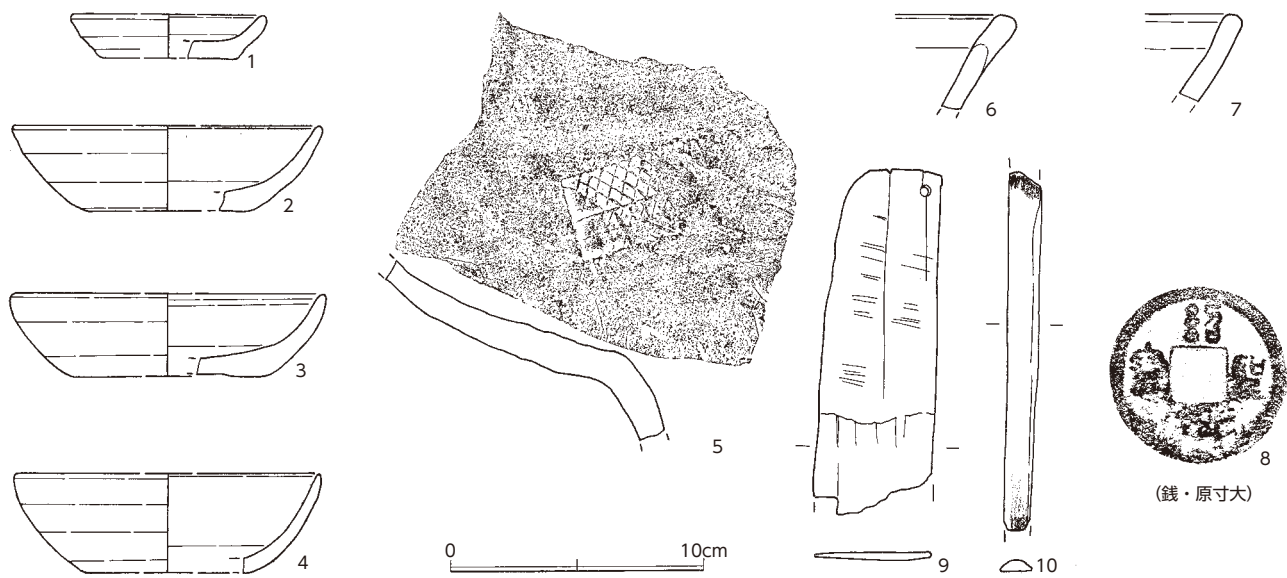


図36 第2面構成土出土遺物

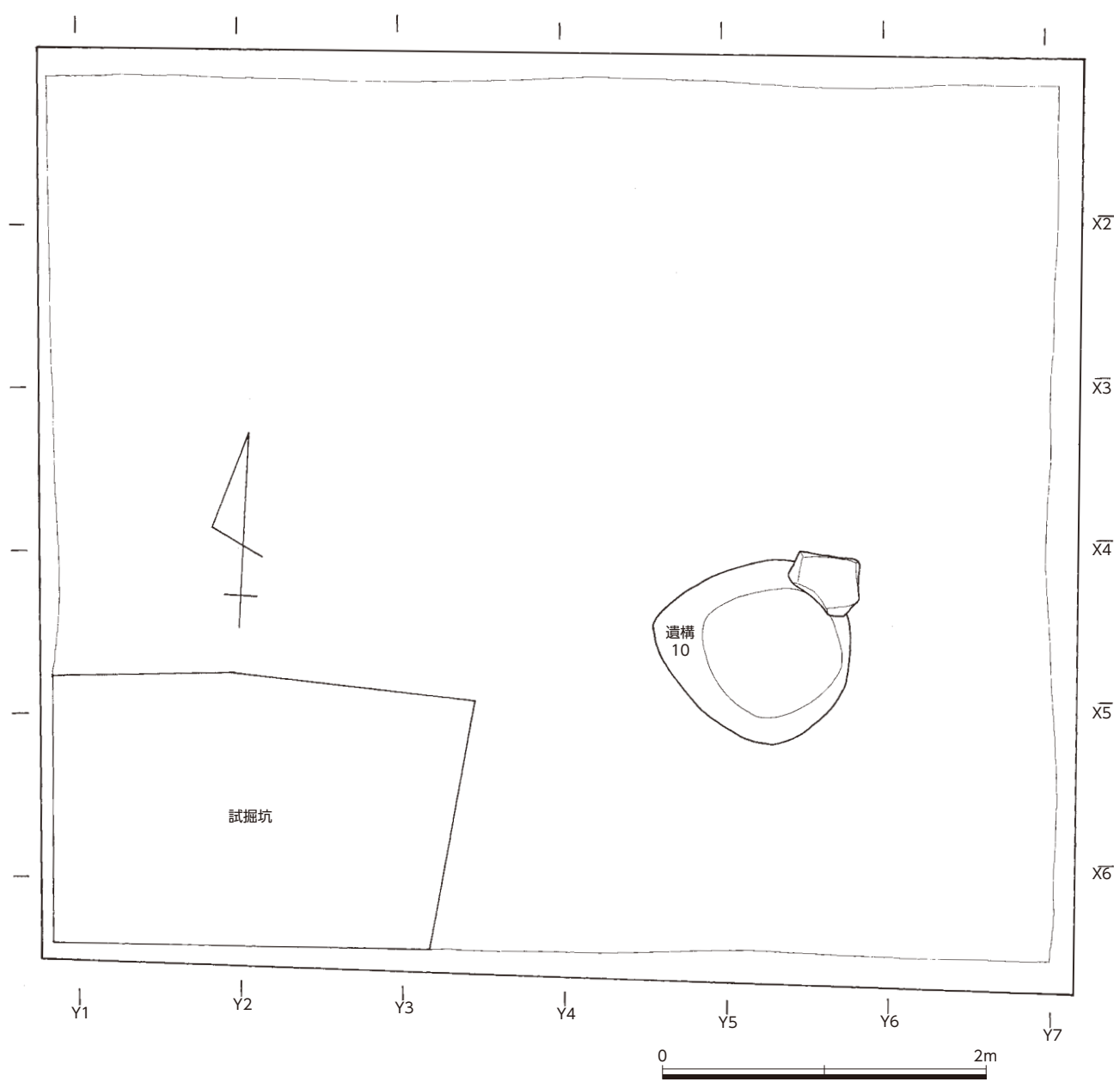


図37 第1面全測図

10溝・溝底面から出土。

図示できなかった遺物は破片で、かわらけ(大) 1 7 6・かわらけ(小) 2 8・青磁蓮弁文碗 1・白磁口兀皿 1・常滑甕口縁部 2・常滑甕胴部 2 6・常滑捏ね鉢Ⅰ類 1・常滑捏ね鉢Ⅱ類 1・瀬戸卸皿 1・瀬戸折縁深皿 2・瀬戸壺 2・瓦質火鉢 1・鉄滓 9・獣骨

・遺構 8 a 裏込め出土遺物(図 3 5)

1～1 2はかわらけ。1 3は白かわらけ。1 4は青磁・鎬蓮弁文碗・竜泉窯。図示できなかった遺物は破片で、かわらけ(大) 2 5 0・かわらけ(小) 2 2・常滑甕胴部 4・常滑捏ね鉢Ⅰ類 1・瀬戸器種不明。

第 2 面構成土出土遺物(図 3 6)

第 2 面の構成土は泥岩・破碎泥岩が多く混じる土で、遺物の出土はわずかであった。

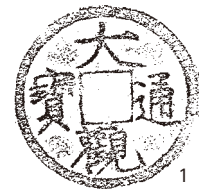
1～4はかわらけ。5は常滑甕。6・7は常滑捏ね鉢Ⅰ類。8は銭・紹聖元寶。9は木製品・草履芯・先端部、側縁直線的・藁状の圧痕。1 0は木製品・用途不明・断面半円形に整形。両端に焼痕。1 1は銭・大観通寶。

5. 第 1 面の遺構と遺物 (図 3 7)

第 1 面で発見した遺構は土坑 1 基。第 2 面で発見した遺構 8 a (溝) を埋めて、炭化物・泥岩・破碎泥岩を多く含んだ暗茶褐色弱粘質土によって平坦に地業している。調査区の北西隅では、一部調査地西側の山裾につながる岩盤の露出を確認したが、近・現代の造成時に地業が壊され露出したと思われ、第 1 面の期には現地表と同じくらいのレベルで整地されていたと考えている。海拔は約 2 8 m。

重機による掘削時に、本調査で第 1 面とした層位から上約 3 0 cm が中世遺物包含層であることを確認したが、地業層ではなかったために平面的な調査を実施しなかった。

遺物包含層からの採集遺物は<表土から第 1 面>として採集・実測を行っている。(図 4 1)



(銭・原寸大)

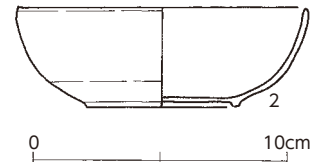


図 38 第 1 面面上出土遺物

遺構 1 0 (図 3 7・3 8)

ほぼ円形を呈する土坑。長軸 1 2 0 cm・単軸 1 1 0 cm・深さ 4 4 cm を測る。遺構覆土は泥岩・破碎泥岩とともに砂質土を多く含む茶褐色弱粘質土。土坑内に砂質凝灰岩の切り石が多く投げ込まれていた。小片のため実測はできなかったがかわらけ片を 2 点採集している。

・第 1 面面上出土遺物(図 3 8)

1 は銭・大観通寶。2 は漆製品・椀。内外面ともに黒色系漆を髹漆・無文・輪高台・外底面にも黒色漆髹漆。

・第 1 面構成土出土遺物(図 3 9)

1～1 5はかわらけ。9は内面口唇部に油煤痕。1 6・1 7は青磁・鎬蓮弁文碗。1 8は常滑・甕。1 9は常滑・捏ね鉢Ⅱ類。2 0は鉄製品・釘。2 1は銭・転用品。銭周囲を磨っている。用途不明。2 2は滑石鍋・転用品。温石か? 図示できなかった遺物は破片で、かわらけ(大) 1 7 7・かわらけ(小) 2 9・青磁酒会壺 1・青磁器種不明 1・常滑甕胴部 1 3・常滑捏ね鉢Ⅰ類 1・常滑捏ね鉢Ⅱ類 3・山茶碗

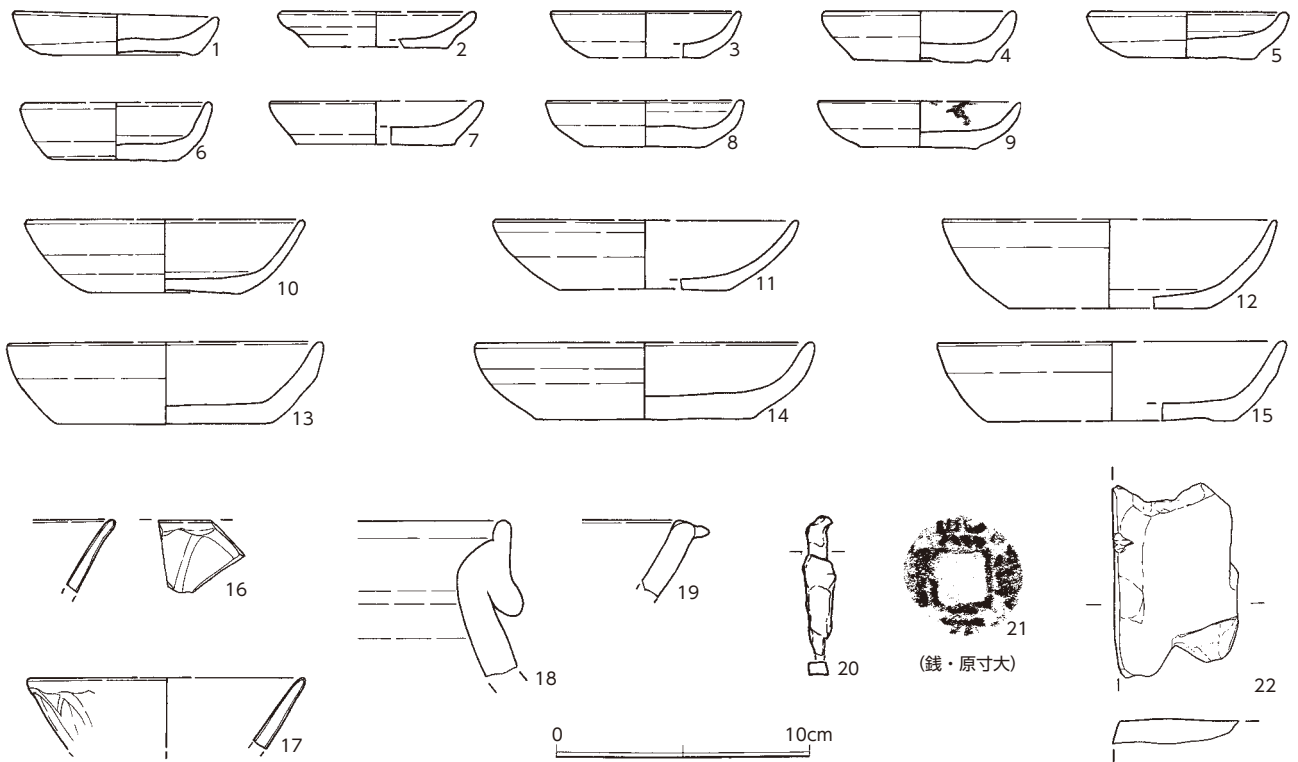


図39 第1面構成土出土遺物

1・瀬戸壺 5・瓦質火鉢 1。

Ⅱ区・第1面 (図40)

Ⅱ区調査は、Ⅰ区調査終了後に設計変更が行われ、Ⅰ区2面・3面で発見・確認した南北の方向の溝(遺構8 a・遺構8 b)の石積みか、南に向かって伸びているかを確認するにとどまった。溝石積みは、調査区の南側で、水道の配管やゴミ穴などに由って壊されていたが、調査区内を南北に長さ425cm・幅57cmを測った。深さは掘り下げて確認していないため不明。溝東側は茶褐色弱粘質土・破碎泥岩を含む堅く締まった地業である。溝西側は茶褐色弱粘質土・褐色砂質土・破碎泥岩を含んだ堅く締まった地業であった。遺構確認面までを重機に寄って掘り下げたために、細かく遺物の採集を行うことができなかった。確認面までの遺物は後述する<表土～第1面出土遺物・図40・図41>にまとめて報告した。

・表土～第1面出土遺物(図41・図42)

1～50はかわらけ。5・6・8・12・14・33は見込み周囲を強くナデ。9・11は内外面、一部に油煤痕。36は精良な胎土。51は青磁・蓮弁文碗・竜泉窯。52は白磁・口兀皿。53は瀬戸・折縁深皿。底部釉なし。内外面釉・刷毛塗りの上に漬けがけ。内面見込み周囲に4条の沈線・中央に単位不明の沈線。54は瀬戸・卸皿。薄く刷毛塗りの痕跡残る。55は瀬戸・底目卸皿。釉は漬けがけ。56は瀬戸・折縁小皿。57・58は常滑・甕。59は備前・鉢。60は常滑・捏ね鉢Ⅱ類。61・62は瓦質・火鉢。63は鉄製品・釘。64は鉄製品・不明製品。65・66は銭。65は紹聖元寶。66は大寶元寶。67～69は石製品・砥石。67は仕上砥・鳴滝産。68は中砥・上野産か? 69は中砥・伊予産。70は石製品・火打石。71～80は木製品。71・72は経木折敷。73～75は箸。76・77は籠。78は端材。79・80は用途不明。図示できなかった遺物は破片で、かわらけ(大)447・かわらけ(小)45・青磁蓮弁文碗1・青磁器種不明1・常滑甕胴部片13・常滑捏ね鉢Ⅰ類1・常滑捏ね鉢Ⅱ類4・

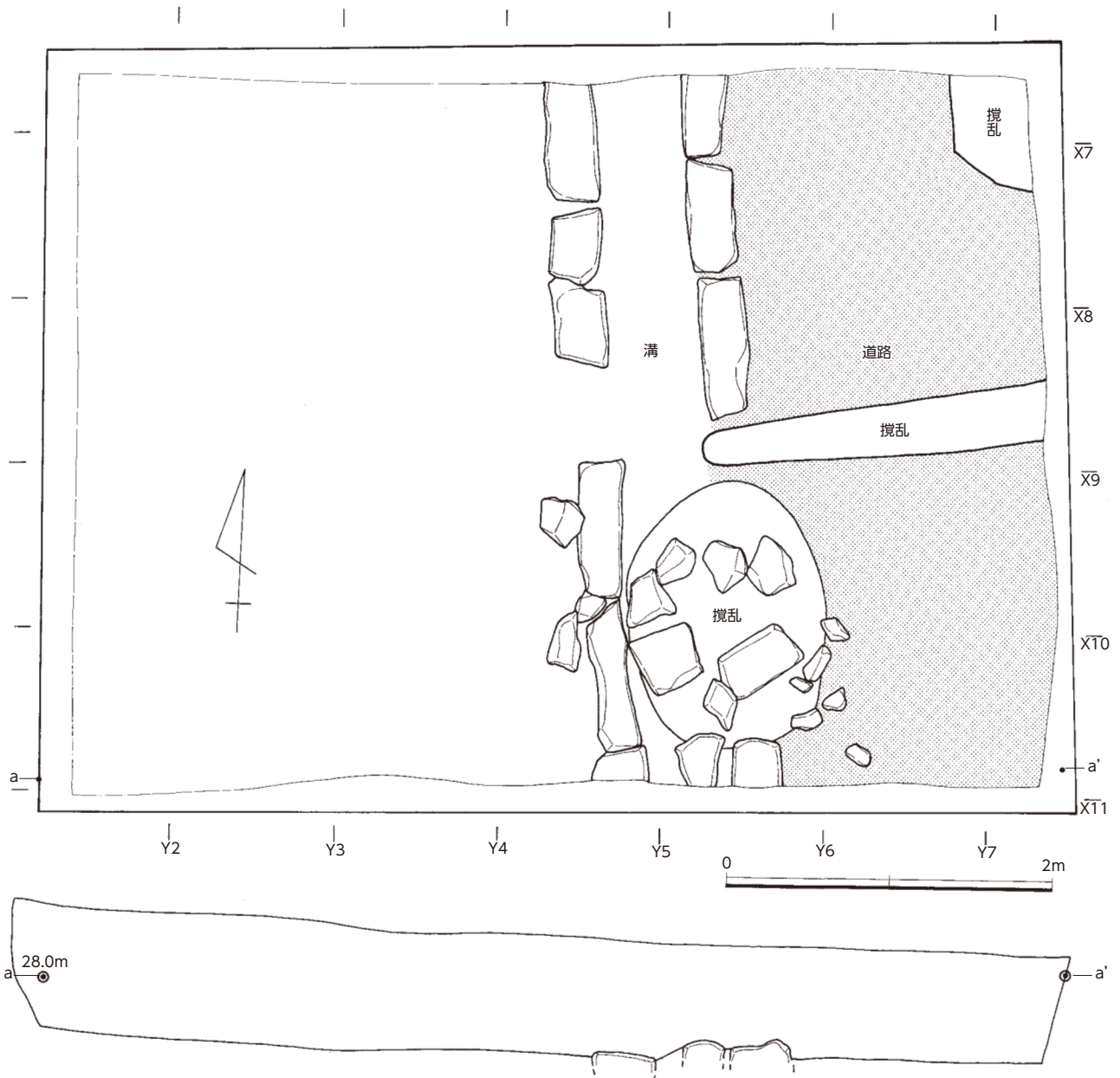


图40 II区・第1面全测图

瀬戸入子1・瀬戸卸皿1・瀬戸壺3・瀬戸器種不明2・瓦質火鉢1・硯1・鉄製品釘1。

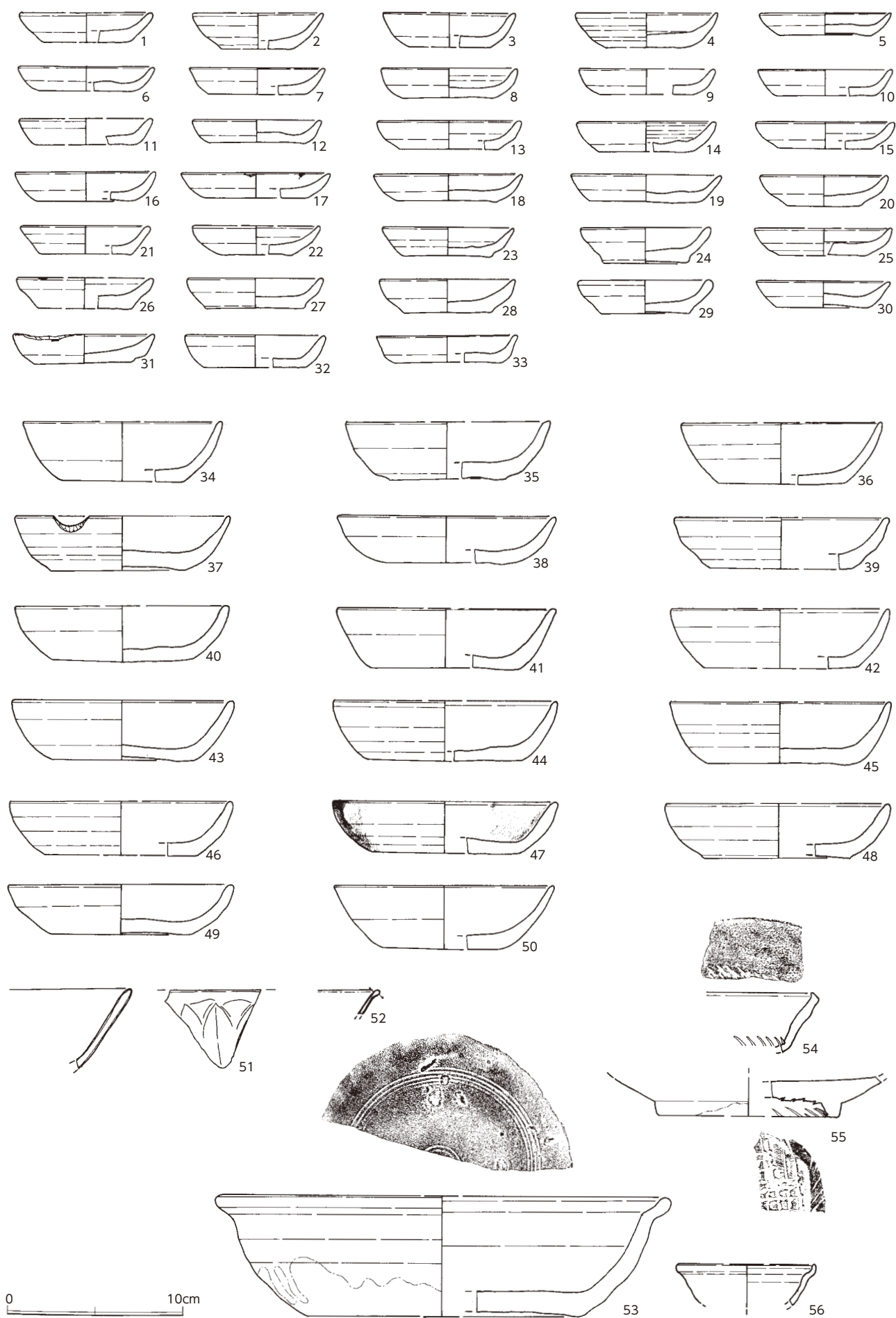


图41 表土~第1面出土遺物(1)

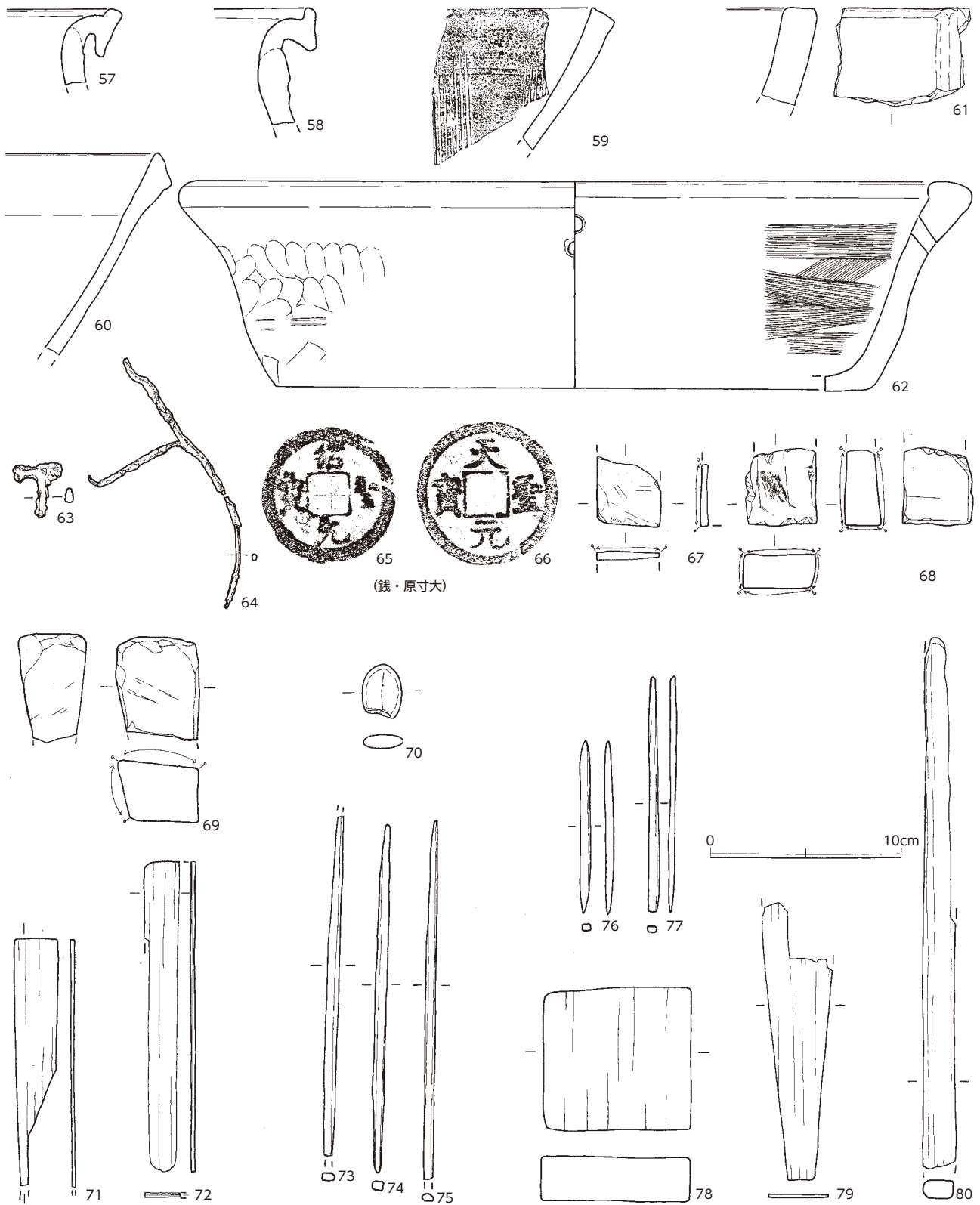


图42 表土~第1面出土遺物(2)

第三章 まとめ

本調査では石積みの溝と、それに伴う道路・ピット・土坑・遺物を発見した。各時期の地業は破碎泥岩を混入し堅固な層を重ねている。狭小な面積の調査であったため、発見した遺構は調査区内を南北に走る溝と溝に沿った道路で占められたが、調査区外に遺構が延びていたため規模はそれぞれに不明となった。

以下、発見した遺構・遺物について簡単なまとめを行いたい。

発見した遺構

I区・II区に分割した調査区内のほぼ中央に南北に走る石積みの溝と、その東に溝に沿った道路を発見した。溝・道路ともに、4時期に亘った造り替えを確認している。

最下層の第5面で発見した南北方向の溝の西側側壁は、調査地の西に立つ山裾の岩盤を削って溝壁を造成し、第4面では砂質凝灰岩の割石を用い野面積みで構築される。第3面、第2面の時期になると、同じく砂質凝灰岩を用いるが、成形した切り石を用いて整層積みとなる。東側側壁は、第5面から上層の第2面に至るまで、砂質凝灰岩の割石を用いて野面積みで構築される。西壁と、東壁の構築方法の違いは、溝の東に沿った道路から見る正面観に意識に違いがあったと考えている。この道路は、第5面では砂質凝灰岩の割石を平坦に敷き詰めて石敷きの道路であったが、第4面・第3面・第2面では、破碎泥岩を混入して版築した道路となっている。それぞれの面でピット・土坑を発見しているが、いずれも建物などの構造物を推定できるものではなかった。表土から50cm下で、破碎泥岩による平坦な地業を検出した第1面を確認した。第1面以下の堆積層で確認した南北に延びる溝を埋めて地業している。発見した遺構は土坑1基のみである。この地業層の上では中世の遺物包含層を確認している。

I区で発見した溝の南北方向の長さは約540cm。II区で発見した溝は、I区の第2面・第3面相当の溝に対応すると思われるが、南北方向の長さは約430cmであった。

出土した遺物

本調査で出土した遺物は、遺物整理箱数にして35箱。そのうち11箱は木製品と若干の漆製品であった。出土した遺物はろくろ成形のかわらけ・手づくね成形のかわらけ・舶載磁器(青磁・青白磁・白磁)・国産陶磁器(瀬戸・常滑・魚住・亀山・備前)・瓦(女瓦)・石製品(滑石鍋・滑石鍋転用品・砥石・チャート)・鉄製品(釘)・銭・木製品(食膳具・調度具・工具・服飾具・紡織具・容器・祭祀具・部材・雑具・用途不明品)・漆器(椀・皿・盆)などである。大半は4期に亘る溝覆土と道路地業からの出土であった。遺跡の性格を示すような特徴的な遺物の出土はなかったが、出土した遺物から見て第5面で発見した溝(遺構13)覆土出土の遺物は、概ね13世紀後半の特徴を示す。第4面で発見した溝(遺構11)覆土出土の遺物は13世紀後半から14世紀代か?第3面で発見した溝(遺構7)覆土出土の瓦質の火鉢は、内面から下に丁寧な磨きが入り、輪花の調整も丁寧であり、菊花文の押印は花卉が丸みを帯びるといふ古手の火鉢に連動する特徴を持つ。13世紀中頃の年代が与えられる。図示できなかった遺物の中には永福寺の第2期13世紀中頃の修理瓦と同じ種類の瓦が出土している。また、同面の溝(遺構8b)から出土した石臼は6分割の11節の形式を持ち、13世紀後半の年代が与えられ、瀬戸天目は14世紀代の製品である。遺構7からは火災などに由る片づけ時に付着したのか、鉄製品・釘が付着したかわらけが多く出土している。遺物の年代観が混在するが概ね14世紀代の年代が与えられる。第2面で発見した溝(遺構8a)裏込め出土遺物からは13世紀末から14世紀前半の遺物が出土し、第1面構成土出土遺物は14世紀代から15世紀代の遺物が混在する。

遺跡の変遷

調査地が位置する清涼寺谷は、扇ヶ谷の最奥とも言える場所に位置する。谷戸開口部には鎌倉中から武蔵へと向かい、仮粧坂の切り通しに繋がる中世鎌倉の幹線道路が走る。鎌倉では谷戸内、あるいは丘陵沿いに寺社が集まり、狭い谷戸地を利用するために丘陵を切り崩して造成していたことが調査成果からわかっている。本調査でも第5面の溝壁を作り出すために丘陵裾の岩盤をひな壇状に造成していたことを確認した。寺社地では切り出した石材を多く利用していることも調査によって明らかになっているが、石材を切り出すには人員の確保は当然ながら技術も必要とされ、寺社には相応の人材を集める力や切り出す権利を与えられていたと思われる。切りだされた石材は開発した土地の強固な土留めとなり、大型の石を積むことによって権威の誇示も果たしたのではないだろうかと思われる。本調査地で発見した溝の石積みもその意図があったのだろうか。

鎌倉の谷戸開発は13世紀中頃から進み、13世紀後葉に丘陵裾の造成が活発になっていく。それは叡尊・忍性といった、奈良の西大寺流律宗の僧が布教とともに連れてきた、石工などの職人集団の存在があったのではないかと言うことが、近年の研究成果によって言及されている。

調査地のある扇ヶ谷は、西大寺流律宗の足跡が濃く残る地である。谷戸開口部東の支谷、多宝寺谷にあったとされる多宝寺(廃寺)は開基北条業時・開山忍性の創建であったとされ、鎌倉極楽寺、称名寺(現横浜)と共に鎌倉布教の拠点寺院であったとされる。また同じく開口部東の泉谷に在る浄光明寺は、極楽寺で請雨の祈禱を行った際に僧侶を多く送り、浄光明寺の支院であった東林寺(廃寺)は律宗の寺であり、忍性が堂脇の地藏堂に地藏を安置したとされている。

遺跡名の由来となる「新清涼寺」については不明な点が多いが、文献資料からは叡尊・忍性といった西大寺流律宗の僧が関与した寺であったことが読み取れ、本調査地の石積みの溝も、それらが引き連れてきた職人集団の手によって作られたのではないかと想像できる。

今回の調査で、遺跡地辺は13世紀後半には谷戸の開発・利用が始まり、14世紀前半までは道路と、それに伴う石積みの溝が利用され、何らかの事情によって溝が埋められ、新たな土地利用が始まっていたことが分かった。

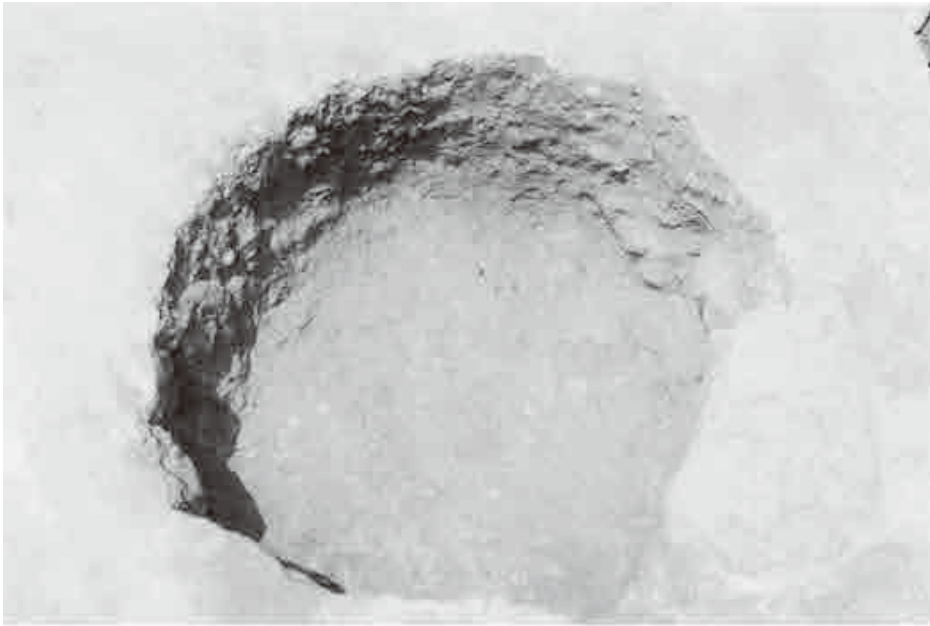
参考・引用文献

- 「鎌倉市史」 総説編 考古編 吉川弘文館 昭和34年初版
- 「鎌倉事典」 白井永二 東京堂出版 1984年
- 「鎌倉廃寺事典」 貫達人 川副竹胤 有隣堂 昭和55年
- 『日本歴史大系』 「神奈川県の地名」 平凡社 昭和62年
- 「釈迦追慕」 神奈川県立金沢文庫 平成2年
- 「日本の美術」 No.513 『清涼寺式釈迦如来像』 至文堂 奥健夫
- 「日本の美術」 No.403 『城の石垣と堀』 至文堂 田中哲雄
- 「日本石材史」 日本石材振興会 1956年
- 「物と人間の文化史15」 『石垣』 法政大学出版局 田淵実夫 1979年
- 「鎌倉」 No.50 『扇ヶ谷のやぐら群について』 宮田真 昭和60年
- 「鎌倉」 No.69 『中世鎌倉における谷戸開発のある側面』 馬淵和雄 平成4年
- 「叡尊・忍性と律令系集団」 大和古中近研究会 2000年
- 「鎌倉大仏の中世史」 馬淵和雄 1998年
- 「叡尊・忍性」 松尾剛次 2004年
- 「物と人間の文化史 25 白」 三輪茂雄 法政大学出版 1978年
- 「新編相模国風土記稿」 第六巻 (大日本地誌大系) 蘆田伊人校訂 雄山閣 1972年
- 「鎌倉の古絵図(2)」 鎌倉国宝館第16集 昭和44年3月25日
- 「杉本寺周辺遺跡」 馬淵和雄 杉本寺周辺遺跡発掘調査団・鎌倉市教育委員会 2002年
- 「武蔵大路周辺遺跡発掘調査報告書(扇ヶ谷二丁目382番1地点)」 2000年6月 武蔵大路発掘調査団・大河内勉

「海蔵寺旧境内遺跡(扇ヶ谷四丁目632番2外)」 2000年3月 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-1』
「武蔵大路周辺遺跡(扇ヶ谷三丁目397番)」 2001年3月 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-2』
「武蔵大路周辺遺跡(扇ヶ谷二丁目298番イ)」 2002年3月 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1』
「亀ヶ谷山王堂跡(扇ヶ谷四丁目832番5)」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-2』

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
23	40	遺構 8 b 出土遺物(1)	銭				紹聖元寶・初鑄 1094・北宋・行書
23	41	遺構 8 b 出土遺物(1)	銭				宣和通寶・初鑄 1094・北宋・楷書
23	42	遺構 8 b 出土遺物(1)	銭				元符通寶・初鑄 1098・北宋・行書
23	43	遺構 8 b 出土遺物(1)	銭				大觀通寶・初鑄 1107・北宋
23	44	遺構 8 b 出土遺物(1)	銭				政和通寶・初鑄 1111・北宋・楷書
23	45	遺構 8 b 出土遺物(1)	銭				淳熙元寶・初鑄 1174・南宋・真書
23	46	遺構 8 b 出土遺物(1)	銭				■ 北宋・行書
23	47	遺構 8 b 出土遺物(1)	石製品・砥石	(7.4)	3.0	0.8	仕上砥
23	48	遺構 8 b 出土遺物(1)	石製品・砥石	(5.6)	2.6	1.4	中砥
23	49	遺構 8 b 出土遺物(1)	滑石製・スタンプ	(3.9)			
23	50	遺構 8 b 出土遺物(1)	漆製品・皿	9.0	6.8	0.9	平高台。手描き施文。内外面黒色系漆。見込み中央に漆絵？不明で文様不明。外底面漆無。
23	51	遺構 8 b 出土遺物(1)	漆製品・皿	9.0	6.6	1.8	手描き施文。内外面ともに黒色系漆。内面口唇部 4か所に、笹と楸。見込み中央に笹・楸 2・楸 2を配置。
23	52	遺構 8 b 出土遺物(1)	漆製品・椀				手描き施文。内外面黒色系漆。外面文？
23	53	遺構 8 b 出土遺物(1)	木製品・調度具？			0.7	蓋？
23	54	遺構 8 b 出土遺物(1)	木製品・経木折敷			0.1	蓋裏
23	55	遺構 8 b 出土遺物(1)	木製品・調度具？	(16.2)		0.5	
23	56	遺構 8 b 出土遺物(1)	木製品・経木折敷	18.9		0.1	
23	57	遺構 8 b 出土遺物(1)	木製品・経木折敷	14.9		0.1	
23	58	遺構 8 b 出土遺物(1)	木製品・経木折敷	12.9		0.1	
23	59	遺構 8 b 出土遺物(1)	木製品・箸	18.2	0.8	0.3	
23	60	遺構 8 b 出土遺物(1)	木製品・箸	19.2	0.9	0.5	
23	61	遺構 8 b 出土遺物(1)	木製品・箸	21.1	0.6	0.5	
24	62	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(16.2)	0.6	0.5	
24	63	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(16.4)	0.7	0.5	
24	64	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(15.7)	0.7	0.5	
24	65	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(14.5)	0.6	0.5	
24	66	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(13.3)	(0.5)	(0.3)	
24	67	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(12.9)	0.6	0.5	
24	68	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(11.9)	0.7	0.4	
24	69	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(12.2)	0.7	0.4	
24	70	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(12.0)	0.7	0.4	
24	71	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(10.6)	0.5	0.5	片端に漆痕
24	72	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(10.6)	0.5	0.5	
24	73	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(11.4)	0.6	0.5	
24	74	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(11.3)	0.6	0.5	
24	75	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(11.0)	0.5	0.4	
24	76	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(10.5)	0.7	0.6	
24	77	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(10.1)	0.7	0.5	
24	78	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(9.6)	0.7	0.6	片端に漆痕
24	79	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(9.3)	0.7	0.4	片端に漆痕
24	80	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・板草履芯	(13.2)	(3.5)	(0.3)	破片
24	81	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・板草履芯	23.9	17.0	0.3	
24	82	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・板草履芯	23.9	5.0	0.7	製作途中か？焼痕。
24	83	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・笥状	(9.9)	1.3	0.3	
24	84	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・笥状	10.7	0.5	0.3	
24	85	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・笥状	(10.3)	0.8	0.4	
24	86	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・笥状	(12.8)	0.6	0.3	
24	87	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・笥状	(14.6)	0.6	0.5	
24	88	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・笥	14.2	1.0	0.5	
24	89	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・笥状	18.9	1.3	0.2	
24	90	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	(11.8)		0.2	
24	91	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・端材	10.9		1.0	
24	92	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明			0.7	
24	93	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	18.4	4.2	1.0	元は下駄
24	94	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・端材			1.8	
24	95	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	8.5	1.3	0.8	端材
24	96	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	9.6	0.9	0.4	端材？
24	97	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	(10.0)	0.6	0.4	端材？
24	98	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	11.9	0.7	0.3	端材？
24	99	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	(11.8)	0.8	0.5	端材？
24	100	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	(12.5)	0.5	0.5	端材？
24	101	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	(12.7)	(0.7)	0.5	端材？
24	102	遺構 8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	(13.2)	0.9	0.3	端材？

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
42	60	表土～第1面出土遺物(2)	甍形竈・規形鉢口類				(胎土)白色粒・赤色・内面磨耗痕
42	61	表土～第1面出土遺物(2)	瓦葺・火鉢				輪花型・(胎土)砂粒・黄灰色
42	62	表土～第1面出土遺物(2)	瓦葺・火鉢	41.0	31.0	10.7	(胎土)砂粒・白色粒(色濃)灰黒色・内面一輪ノ子と刷毛ノ字痕・外面一輪ノ子と刷毛ノ字痕・下部窪凹リ痕・外底附付着
42	63	表土～第1面出土遺物(2)	鉄製品・釘	(2.8)	(0.7)	(0.5)	
42	64	表土～第1面出土遺物(2)	銅製品・かんざし?	(14.2)	0.3	0.2	
42	65	表土～第1面出土遺物(2)	銭				紹聖元寶・北宋・初鑄1094・行書
42	66	表土～第1面出土遺物(2)	銭				大元元寶・初鑄年1023・北宋・真書
42	67	表土～第1面出土遺物(2)	石製品・砥石	(3.9)	(3.3)	(0.4)	鴨渡産・細かな擦痕・仕上砥
42	68	表土～第1面出土遺物(2)	石製品・砥石	(4.0)	(3.6)	(1.7)	中砥・上野産か?全面に使用痕
42	69	表土～第1面出土遺物(2)	石製品・砥石	(5.3)	(3.0)	(4.0)	凝灰岩・中砥・伊予産
42	70	表土～第1面出土遺物(2)	石製品・火打石	2.8	2.1	0.7	
42	71	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・縁木折敷	(12.9)	(2.3)	(0.2)	
42	72	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・縁木折敷	(18.3)	(1.9)	0.2	製作途中?
42	73	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・箸	(17.8)	0.7	0.4	
42	74	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・箸	18.4	0.6	0.5	
42	75	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・箸	(18.3)	0.6	0.4	
42	76	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・篋	9.2	0.5	0.4	
42	77	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・篋	16.5	0.5	0.4	
42	78	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・端材	7.6	7.8	2.3	
42	79	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・用途不明	(14.6)		0.1	
42	80	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・部材	(28.1)	1.7	1.0	



◀第1面・遺構10

第1面・全景▶
(西から)



◀第2面・全景(北から)

遺構7・遺構8b ▶
石積みの状況



◀ 遺構8a・西側石積み

遺構8b・西側石積み ▶





◀遺構 8a・8b
石積み状況

遺構 8b・西側石積み▶



◀遺構 8b・底面
石臼出土状況

第3面・全景▶
(北から)



◀第4面・全景
(北から)

第5面・全景▶
(北から)





◀調査区南壁・堆積状況



調査区北壁・堆積状況▶



◀Ⅱ区・第1面全景
(北から)



6-2



6-4



6-5



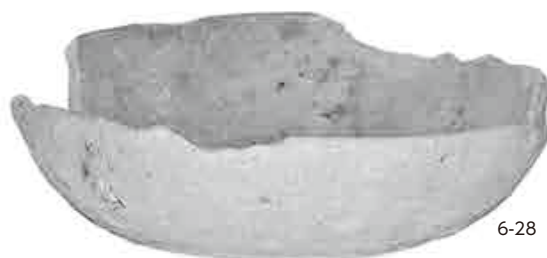
6-15



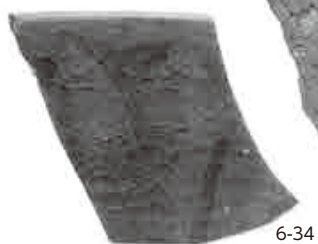
6-21



6-23



6-28



6-34



6-38



6-39



6-40



7-73



7-62

出土遺物(1)

图版7



8-2



8-11



8-15



8-20



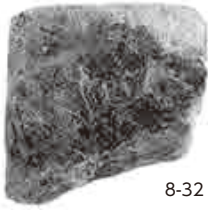
8-29



8-30



8-31



8-32



10-1



11-1



11-7



11-9



9-74



9-75



11-16

出土遺物(2)



12-28



15-6



15-7



15-8



15-9



15-14



15-18



15-23



15-24



15-19



15-25



15-26



15-28



16-7



16-10



16-12

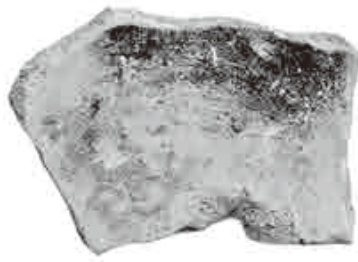


16-15



16-23

出土遺物 (3)



16-33



16-27



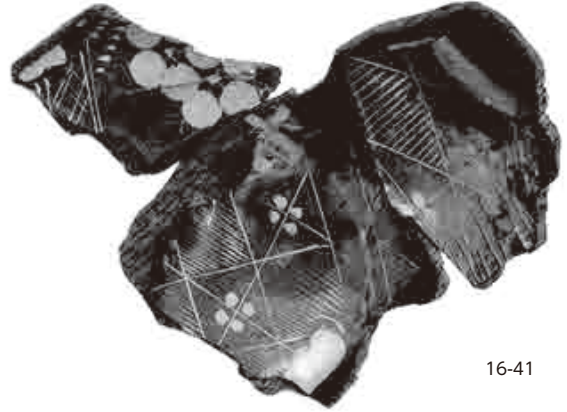
16-28



16-37



16-40



16-41



17-68



17-69



17-70



17-71



19-2



19-8



19-9



19-15

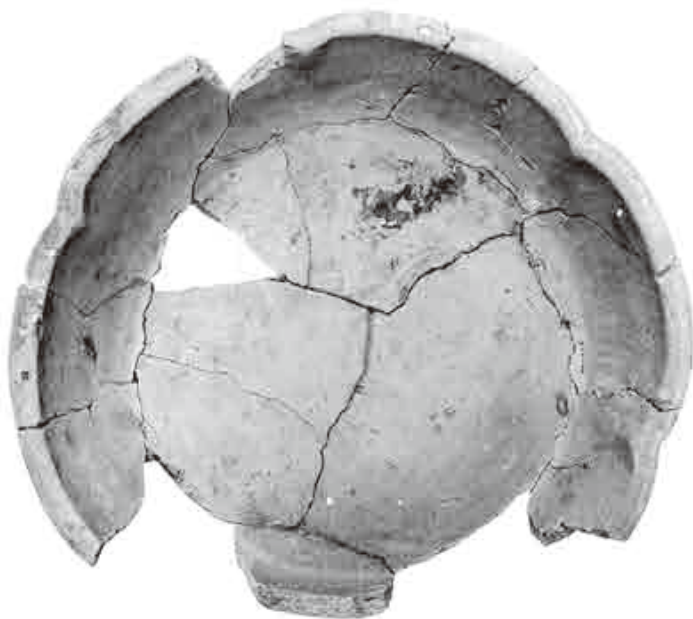


19-18



19-19

出土遺物 (4)



19-27



19-28



20-37

出土遺物(5)



20-40



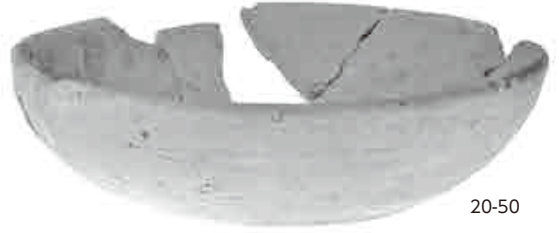
20-41



20-42



20-49



20-50



20-51



20-52



20-53



20-61



23-2



23-5



23-6



23-10



23-14



23-17



23-22



23-29



23-30



23-34



23-36



23-36



23-49

出土遺物 (6)



23-50



23-51



24-81



24-82



24-93



24-111



25-6



25-18



25-22



25-23



25-27



25-31

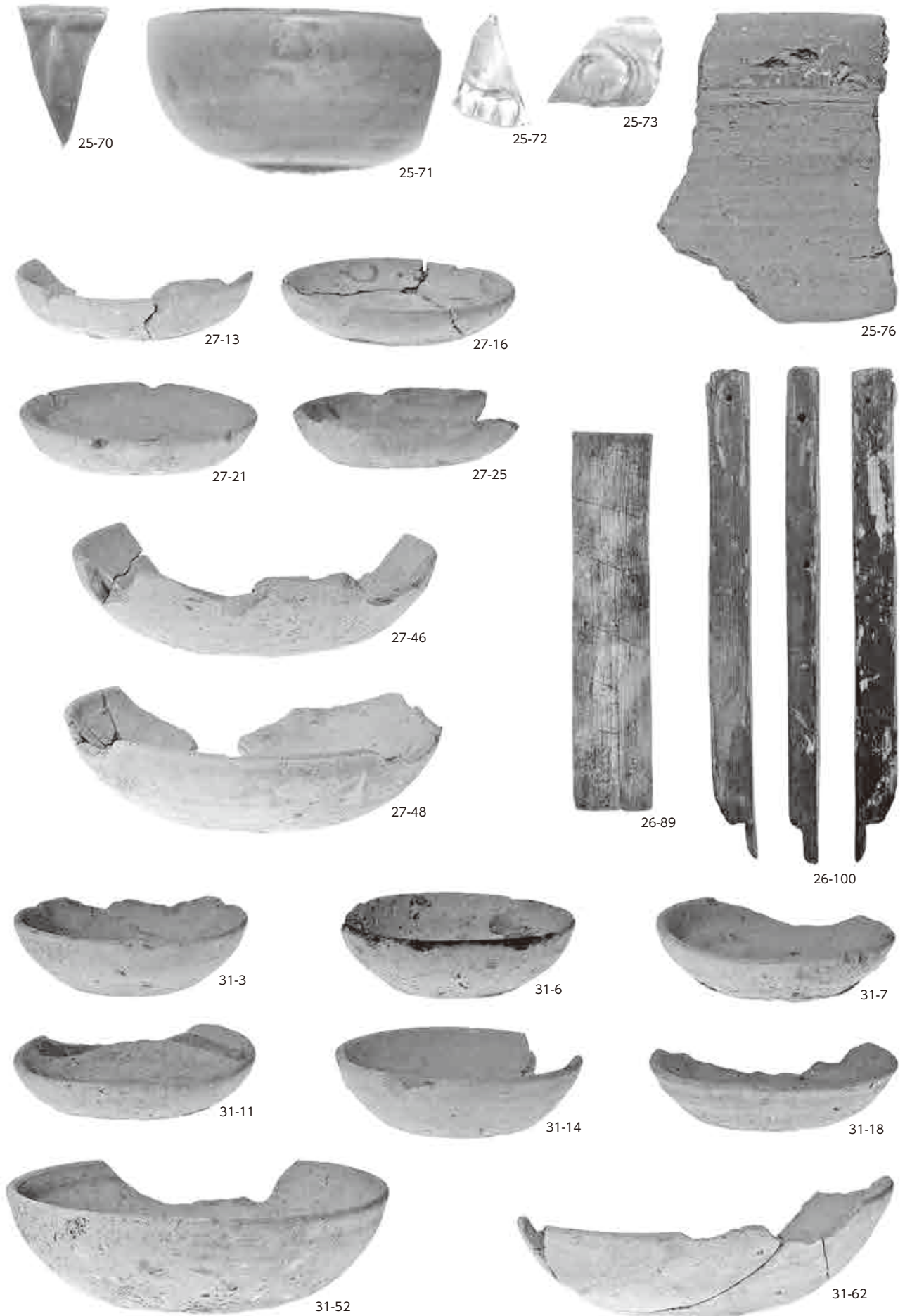


25-53



25-66

出土遺物 (7)



出土遺物 (8)



32-75



32-81



32-91



32-96



32-94



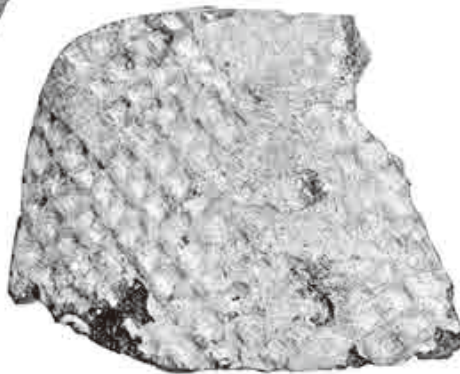
33-104



33-115



33-116



33-120



34-132
出土遺物 (9)



35-5



35-14



39-1



39-4



39-5



39-10



39-16



39-17



39-21



41-8



41-12



41-23



41-29



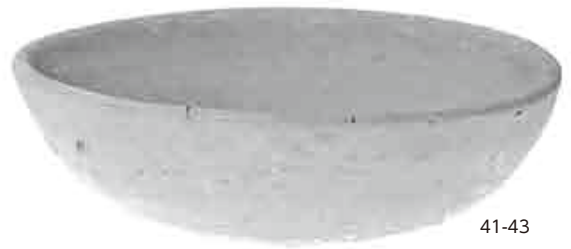
41-30



41-31



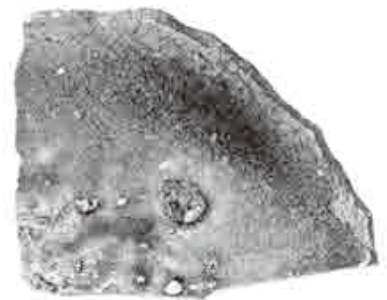
41-37



41-43



41-45



41-54



41-51



41-54



41-55

出土遺物 (10)



41-53



42-57



42-58



42-59



42-62



42-67



42-68



42-69

出土遺物 (11)

